

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目		人間探求科目		
講義名	[06007] 倫理学				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
倫理学とはどのような学問であろうか。「日本倫理思想史」という視点から、現代を生きる私たちのよりよい生き方・あり方を考えるために、特に古代の「神をめぐる思想」から、中世の「仏法をめぐる思想」について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指します。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとし、自ら主体的に考察していく力を習得することを、本授業の目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
倫理学とは何かについて概観し、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいきます。講義によって授業を進めますが、学生の深い理解に資するよう積極的にICTを活用します。また受講生が自分自身の問題として主体的に授業に参加するようディスカッションなどを行います。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修としては、参考書等に目を通し、疑問をもって授業にのぞむこと。事後学修は、授業の内容を踏まえ、その問題について自分なりに考えてみること。事前・事後学修は最低でも各120分は必要である。なお、詳細は授業中に指示します。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業に取り組む姿勢40%、レポートと受講態度60%で総合的に評価します。受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	講義ガイダンス				
第2回	倫理学とは何か（1）倫理学と日本倫理思想史				
第3回	倫理学とは何か（2）なぜ日本倫理思想史を学ぶのか、倫理の重層性				
第4回	神をめぐる思想（1）風土と神				
第5回	神をめぐる思想（2）日本の神の特徴				
第6回	神をめぐる思想（3）神と景観、祭祀				
第7回	神をめぐる思想（4）日本神話の発生と展開				
第8回	神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の概要				
第9回	神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の世界観				
第10回	仏法をめぐる思想（1）インド・中国仏教				
第11回	仏法をめぐる思想（2）日本における仏教の受容、聖徳太子				
第12回	仏法をめぐる思想（3）国家仏教、本地垂迹説				
第13回	仏法をめぐる思想（4）修験道				
第14回	仏法をめぐる思想（5）鎌倉仏教				
第15回	全体のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：特に指定しない。参考書：『日本倫理思想史 増補改訂版』佐藤正英著（東京大学出版会）2012年、『日本の思想とは何か：現存の倫理学』佐藤正英著（筑摩書房）2014年、『古事記神話を読む 神の女 神の子 の物語』佐藤正英著（青土社）2011年ほか。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
受講生一人一人が自らの問題として捉え、自分自身の考えを形成することを望みます。授業では、毎回受講生に積極的に問いかけ、自分の考えを発言してもらいます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日第1時限目と木曜日第5時限目					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目		人間探求科目		
講義名	[06010] 古典文学を読む				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
古典文学をはるか昔の人々のものではなく、語り合っ作詞して自分のものにしていく楽しい授業です。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日本文学を代表する数々の作品から、特に枕草子、源氏物語、徒然草、百人一首と方丈記を読み、古典に親しむことを目的とします。本講義を受講することにより、古典文学はもとより、俳句にも親しみ、いつでも自らの気持ちを俳句や川柳などで表現できるようになります。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
作品を読んで、解説をして、いろいろな意見がある場面について話しましょう。中間発表して、授業で扱わない作品や、扱った作品の別な部分について調べて発表していただきます。毎週、終わりの15分を使って、俳句や川柳を与えられた季語やテーマにあわせてみんなで考えます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分：前回までの作品の重要なデータをノートにまとめる。 事後学修120分：授業で学習した作品を読み返して、発表の準備をする。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
中間発表30%、学力確認試験40%、授業に対する取り組み30%。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	俳句、川柳				
第2回	枕草子				
第3回	方丈記				
第4回	徒然草				
第5回	御伽草子				
第6回	万葉集				
第7回	中間発表				
第8回	源氏物語（1）歴史的背景と「桐壺」				
第9回	源氏物語（2）身代わりとしての紫				
第10回	源氏物語（3）罪と仏教：柏木、藤壺、六条御息所				
第11回	百人一首				
第12回	百人一首大会				
第13回	源氏物語（4）浮船の様々な選択を考えて				
第14回	往生要集、後期の復習				
第15回	まとめ及び振り返り				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：プリントを配ります。参考書：本講義受講中、学生自らの興味より選択します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
難しいと思われがちな古典文学を気軽に楽しめるものだとわかって、好きになっていただきたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日 5 時限					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				人間探求科目
講義名	[06014] 心理学				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
心理学とは、ひとの「意識」や「行動」の傾向を探る学問といえます。目に見えない「こころ」を科学する視点を持ち、「臨床心理学」「社会心理学」「発達心理学」など、さまざまな理論から考えていきます。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
「心理学」と一言でいっても、教育、臨床、発達、認知など、様々な分野があり、内容は多岐にわたる。そのため、この授業では、それぞれの分野でメジャーな考え方や概念、研究、歴史的背景等について説明し、概観していく。この授業を受講することで、受講生は、より心理学を身近なものとしてとらえながら、心理学の基礎について幅広く理解することが可能である。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
毎回配付する資料をもとに、講義、演習、ディスカッションを行う。授業の中では、受講生が自分自身の身近な事柄に引き付けて理解することができるよう、例を示す。初めて触れる考え方や用語等もあると思われるため、予習と復習をすることを通し用語の理解に努めること。さらに、毎回学んだ内容をまとめることで定着を図る。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、シラバスに記載した参考書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、学んだことを整理し、課題を行ってこること。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業内容確認テスト（40%）、小テスト（30%：10%×3回）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	心理学とは？				
第2回	臨床心理学：悩みを抱える人を助ける(その1)				
第3回	臨床心理学：悩みを抱える人を助ける(その2)				
第4回	性格と個人差の心理学：性格はかえられるか？(その1)				
第5回	性格と個人差の心理学：性格はかえられるか？(その2) / 第1回小テスト				
第6回	社会的行動の心理学：身近な人や社会との関係(その1)				
第7回	社会的行動の心理学：身近な人や社会との関係(その2)				
第8回	発達心理学：人が生まれてから死ぬまで(その1)				
第9回	発達心理学：人が生まれてから死ぬまで(その2)				
第10回	心理学的アセスメント：心を測る / 第2回小テスト				
第11回	知覚・認知・記憶の心理学：世界をどうとらえるか？(その1)				
第12回	知覚・認知・記憶の心理学：世界をどうとらえるか？(その2)				
第13回	行動と学習の心理学：あなたはなぜそのように行動するのか？				
第14回	心理学の歴史と未来：心はどう探求され、これからどうなるのか？ / 第3回小テスト				
第15回	まとめ及び振り返り				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：なし。プリントを配布する。参考書：『心理学・入門 心理学はこんなに面白い』サトウタツヤ・渡邊芳之著（有斐閣アルマ）2011年、『はじめて出会う心理学 改訂版』長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行者（有斐閣アルマ）2008年、『徹底図解心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識』青木紀久代・神宮英夫著（新星出版社）2008年、そのほか適宜資料や文献等を紹介する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
履修登録しておけば単位が出るという授業ではありません。参考書を活用して、読む習慣をつけるようにしてください。予習・復習しないとわからなくなります。仏教においても福祉においても、自己ならびに他者の心のしくみと人間関係を見つめることは重要なことです。一緒に心理学の世界を楽しみましょう！					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日：11:55～12:25、木曜日：11:55～12:25					
<b>【実務経験】</b>					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目		人間探求科目		
講義名	[06015] 歴史学				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらい。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を本授業で学修してもらいたい。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学修を行った日本史の時代や出来事等について理解できるようにする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義形式を基本とするが、身延山という地域を歩く授業も取り入れることにする。日本史に関する調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングを行うので、電子機器（ipad）を毎回持参すること。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分：授業内容について予め調べ学習を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。 事後学修120分：授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	歴史学とはどういう学問か				
第2回	史実と伝承				
第3回	日本史の時代区分				
第4回	史（資）料とは				
第5回	旧暦と新暦				
第6回	日本の元号（1）				
第7回	日本の元号（2）				
第8回	日本歴史に関する調べ学修（1）				
第9回	日本歴史に関する調べ学修（2）				
第10回	日本歴史に関する調べ学修（3）				
第11回	日本歴史に関する調べ学修（4）				
第12回	調べ学修についての発表				
第13回	歴史散策1				
第14回	歴史散策2				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：特になし。参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
歴史について調べ学習を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業開始前、終了後に研究室や教室で質問等を受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験あり。					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目	人間探求科目

講義名	[06017] 仏教学入門		
-----	---------------	--	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	--	--	--
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byung kon
	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

仏教の歴史や文化への関心を深めるために、担当教員がそれぞれの専門分野に立脚した地域仏教の講義を行う。仏教に関する教養的な知識だけでなく、その歴史・文化に対する見方を考え直すきっかけとなるようにしたい。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

本講義受講者は仏教の歴史・文化に対する基礎知識を身につけるとともに、諸問題についての理解を深めることができる。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

3人の担当教員が、地域ごとにそれぞれ5回の授業を行う。1～5回：インド仏教（池上要靖）、6～10回：中国仏教（金炳坤）、11～15回：日本仏教（木村中一）。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ担当教員の指示により、2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業への取り組み姿勢（40% / 事前学習や事後学習の内容が可視化されている（例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用したの質問などによる）ことが必要なので注意されたい。どのように評価するかは各教員により異なるので、最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください）、小テスト3回（60%）により総合評価する。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	インド仏教 : ガイダンス、原始仏教
第2回	インド仏教 : 教団の発展と分裂
第3回	インド仏教 : 部派仏教の教理
第4回	インド仏教 : 大乘仏教の成立
第5回	インド仏教 : 大乘仏教の発展、まとめ、小テスト
第6回	中国仏教 : ガイダンス、格義時代（漢・三国・晋）
第7回	中国仏教 : 学派時代（南北朝）
第8回	中国仏教 : 折衷時代（隋）
第9回	中国仏教 : 宗派時代（唐）
第10回	中国仏教 : 祖述時代（唐末已后）、まとめ、小テスト
第11回	日本仏教 : ガイダンス、仏教伝来と日本初期仏教
第12回	日本仏教 : 貴族仏教と民衆信仰
第13回	日本仏教 : 末法思想と鎌倉仏教
第14回	日本仏教 : 末法思想と鎌倉仏教
第15回	日本仏教 : 為政者と仏教、まとめ、小テスト

**【教科書・参考書】**

教科書：『インド・中国・日本仏教通史 [新版]』平川彰著（春秋社）2006年。参考書：『インド仏教史 [新版]』平川彰著（春秋社）2011年、『中国仏教要史』布施浩岳著（山喜房仏書林）1970年、『日本佛教史』田村圓澄著（法蔵館）1982-1983年。『岩波仏教辞典』中村元 [ほか] 編（岩波書店）1989年、『広説佛教語大辞典』中村元著（東京書籍）2001年、『仏教文化事典』菅沼晃 [ほか] 編集（佼成出版社）1989年。

**【学生へのメッセージ】**

大学コンソーシアムやまなし単位互換科目  
 学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。

**【オフィスアワー】**

池上要靖：火曜日の2時限目、金曜日の4・5時限目、質問はemailでも可（ikegami(a)min.ac.jp）  
 金炳坤：授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。  
 木村中一：火曜日の4時限目、水曜日の2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）

**【実務経験】**

池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員

金炳坤：2007年より(社)法華弘通会(大韓民国)の奨学研究員として研究を行う。仏教学研究に対する姿勢について示教していく。

木村中一：宗教法人法養寺代表役員

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				人間探求科目
講義名	[06018] 日蓮学入門				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	1年	--	--	--	
担当者	桑名 法晃	クワナ ホウコウ		kuwana hoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人の教えを学んでいくにあたって、その目的・態度・方法について解説し、日蓮聖人の生涯に即しながら、教義の根幹となる五義や三大秘法などの基本的事項について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日蓮聖人の教学を修得するために、学修にあたっての基礎を身につけ、根幹となる事項を体系的に理解し、自分の言葉で説明できるようにすることを本授業の目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
日蓮聖人の生涯と教えについて講義によって授業を進めるが、ICTを積極的に活用し受講生の理解に資するようにする。また、小テストを行い、受講生の理解度を確認しながら進めていくとともに、授業中に口頭でたくさん質問をし、ディスカッションを行い、各自の考えを積極的に発言してもらいます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修は、シラバスに則して日蓮聖人の生涯、法華経、日蓮聖人の教学の内容などに目を通しておくこと。事後学修はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。各120分の学修が必要となります。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
小テスト20%、定期試験80%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	講義ガイダンス 日蓮学とは何か、宗学とは何か				
第2回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって（1） 宗学の目的				
第3回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって（2） 学修の態度				
第4回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって（3） 学修の方法				
第5回	日蓮聖人の生涯（1）				
第6回	日蓮聖人の生涯（2）				
第7回	法華経の思想 法華一乗				
第8回	五義				
第9回	信行 如説修行				
第10回	開目抄（人開頭）・観心本尊抄（法開頭）				
第11回	三大秘法（1）				
第12回	三大秘法（2）				
第13回	三大秘法（3）				
第14回	願業 立正安国・常寂光土の実現				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年。参考書：『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編（日蓮宗新聞社）1989年、『増補改訂 日蓮その行動と思想』高木豊（太田出版）2002年など。授業中に適宜参考書を紹介していきます。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 授業中は板書をたくさんするので、自分なりにまとめて、わかりやすいノートを作成すること。漢字の難しい言葉・専門用語が沢山出てきます。授業内で理解できない場合は、必ず図書館などで調べなおすことが必要です。自分の「腑に落ちる」まで調べましょう。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日1時限目と木曜日4時限目					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				人間探求科目		
講義名	[06020] 哲学						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	諏訪 是隆		スワ ゼリユウ		suwa zeryu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
哲学について学んでいきます。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
「哲学」ということばは、愛知を意味するギリシア語の「フィロソフィア」の翻訳である。もともとは好奇心、向学心、知識欲を意味する日常語であった。先哲の思想を学ぶことで、現代に生きるわれわれの諸問題を考えるための基礎を培いたい。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
講義を中心とするが、学生との対話形式によって講義を進めていく。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習は、あらかじめ指示された資料や文献を読んでおく。事後学習は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
期末レポート30%、授業への取り組み姿勢70%で評価する。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	哲学ということば						
第2回	神話から哲学へ						
第3回	ソフィストとソクラテス						
第4回	プラトンとアリストテレス						
第5回	ストア派とエピクロス派						
第6回	キリスト教と中世						
第7回	ルネサンスの思想						
第8回	ベーコンのイドラ						
第9回	デカルトの懐疑						
第10回	ホップズのリヴァイアサン						
第11回	ロックのコモンウェルス						
第12回	啓蒙思想						
第13回	カントの批判哲学						
第14回	ヘーゲルの体系						
第15回	まとめ レポート提出						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義中に配付する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
哲学と聞くと難解なイメージがあるかもしれませんが、哲学は私たちの生活を意義あるもの、幸せへと導いてくれる叡智です。共に学びましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後に教室にて対応します。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				人間探求科目
講義名	[99999] 現代社会と宗教				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講 義
対象学年	1 年	2 年	--	--	
担当者	長澤 宏昌	ナガサワ コウショウ		nagasawa kosyo	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
葬送行為は、埋葬を中心として13万年前ごろのネアンデルタール人に始まり、現代にまで引き継がれている。ところがこの30年、埋葬と葬送行為を、そして供養を不要なものとする考え方が都市部を中心に急激に広がって来ている。その流れは、情報発信力の強い都市部の考え方が当然とされ、右に倣えの方式で地方にも波及している。このままでよいのであろうか。学生とともに現状について考えたい。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
現代社会における葬祭のあり方は、社会環境やライフスタイルの変化に伴って、急激に変化している。本授業では、そうした変化を取り上げ、その背景も含めて理解することを目標とする。あらゆる生命体の中で、人間だけが行ってきた葬送儀礼を無用なものとする今日の考え方は、社会の基本であった家や地域社会の崩壊と密に関連するのだが、現代社会の実態を、僧侶を目指す学生諸君は、しっかり把握しておくべきである。葬祭業界の現場では働く方にご出講いただく機会も授業日程に盛り込むことができれば、と考えている。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
基本的には講義によって授業を進めていく。講義内容については、まとめて板書していくので、ノート筆記に努めること。みずから筆記し、整理したノートは筆記試験に臨む際にも欠かせないものとなるので、この点、手を抜かないこと。口頭で伝えたことをどのようにノートするかについては、受講生諸君の主体性に任せる。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前・事後の学修を通して、ノートの再読・整理と、教科書のほか、関連する参考書の読書に努めること。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中に、自筆のノートおよび授業中配布資料の持込参照による試験を実施する（60％）。また、授業への取り組みが大事であるとの考えから、受講態度（20％）、毎回の授業内容をまとめたレポート提出（20％）を重視する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	現代社会と葬儀・供養について				
第2回	埋葬と供養の歴史				
第3回	現代社会と散骨 1				
第4回	現代社会と散骨 2				
第5回	現代社会と仏教 文献解題 1				
第6回	現代社会と仏教 文献解題 2				
第7回	多様化する葬送 無宗教葬				
第8回	僧侶はどう考えているか 1				
第9回	僧侶はどう考えているか 2				
第10回	葬祭の現場ではどう考えているか 1				
第11回	葬祭の現場ではどう考えているか 2				
第12回	葬送の民俗 1				
第13回	葬送の民俗 2				
第14回	授業のまとめ				
第15回	まとめと試験				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『今、先祖観を問う』長澤宏昌（石文社）2016 仏教考古学と共用し、初回授業時に頒布する。参考書：『葬式仏教正当論』鈴木隆泰（興山社）2013 『葬式は、要らない』島田裕巳（幻冬舎新書）2010 なお、授業ごとに必要に応じて関連資料を配布する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
葬祭をめぐる変化の具体相を知っておくことは、僧道を志す諸君にとっても必ず役に立つはずである。必須の知識であるといってもよい。しっかり学修してほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週、授業の前後に教室にて受け付けます。					

**【実務経験】**

住職24年、博物館学芸員20年。葬送の歴史と現代の実態を把握している。

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				社会探求科目		
講義名	[06107] 社会学 法定科目						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	1 年	2 年	--	--			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
<p>先ず社会学とはどういう学問から始め、主な社会学説、人間関係、家族、地域社会についての概説、日本社会の構造、現代の社会問題等について概説します。</p>							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
<p>社会学とは、社会関係・社会行為とその生成・変動を人間の社会的行為やそれを規制する文化と関連付けながら理論的・経験的に研究する学問である。社会学というものの考え方を押さえた上で、基本的概念、現実的諸問題についてふれていきたい。社会学の歴史と基本的概念、および社会学が直面する課題を理解することを目標とする。</p>							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
<p>講義を中心とする。適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。</p>							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
<p>事前に指示された資料を読み、出された課題を行っておく（120分）。 講義終了後には、ノートを整理しながら復習を行い、次回の講義に備えること（120分）。</p>							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
<p>学力確認テスト80%、小レポートを含む授業への積極性20%。</p>							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	社会学とはどんな学問か						
第2回	社会学の成立、歴史と展開						
第3回	デュルケームの社会学						
第4回	ウェバーの社会学						
第5回	社会的存在としての人間						
第6回	家族（1）						
第7回	家族（2）						
第8回	地域社会						
第9回	社会構成						
第10回	ライフスタイル						
第11回	戦後日本社会の変容（1）						
第12回	戦後日本社会の変容（2）						
第13回	現代の社会問題（1）格差と貧困						
第14回	現代の社会問題（2）環境問題						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
<p>テキストは使用しないが必要に応じて資料を配布する。福祉士養成講座編集委員会編『新版社会福祉士養成講座11社会学』（中央法規出版）は、社会福祉士国家試験受験希望者には有益である。講義の中で適宜参考文献を紹介する。宮島喬編『岩波小辞典社会学』、那須壽編『クロニクル社会学』（有斐閣）、岩波講座『現代社会学』（岩波書店 26巻）をとりあえず参考文献として挙げておく。</p>							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
<p>日頃から社会問題に関心を持ってほしい。</p>							
<b>【オフィスアワー】</b>							
<p>月曜日12時から13時 火曜日12時から12時30分 水曜日12時から13時</p>							
<b>【実務経験】</b>							
<p>なし</p>							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				社会探求科目		
講義名	[06114] 日本国憲法						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	堀 保彦		ホリ ヤスヒコ		hori yasuhiko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本国憲法は、国民の自由と権利を守り、自由で公正な社会を築くことを目指す法です。本授業では、日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則とそれを実現するための統治機構を概説し、私たちと憲法の関わりについて考えます。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
憲法を体系的に修得するとともに、現代社会における憲法問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に憲法について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した事件や判例についての資料調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	憲法とは何か						
第2回	明治憲法と日本国憲法						
第3回	日本国憲法の成立						
第4回	憲法の法源と解釈						
第5回	国民主権						
第6回	象徴天皇制						
第7回	平和国家						
第8回	人権尊重の原理						
第9回	包括的人権と法の下での平等						
第10回	精神的自由権						
第11回	表現の自由						
第12回	身体的自由権、経済的自由権						
第13回	社会権						
第14回	権力分立と統治機構の原理						
第15回	プレゼンテーション（憲法と現代社会の問題点について）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『憲法入門（第4版補訂版）』伊藤正己（有斐閣）2006年、参考書：『憲法とは何か』長谷部恭男（岩波新書）2006年、『憲法入門（六訂版）』樋口陽一（勁草書房）2017年、『憲法（第7判）』芦部信喜（岩波書店）2019年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
日本国憲法施行から70有余年となりますが、その理念が完全に実現しているとは言い難く、また、社会の変化とともに新たな憲法問題が生じています。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで憲法に関する自分自身の意見を形成することを望みます。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
毎回授業の前後に教室にて受け付けます。							
<b>【実務経験】</b>							
株式会社中部銀行24年。銀行における内部通報担当の経験から得た実例を基に憲法の今日的意義について考える授業をします。							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目	社会探求科目

講義名	[06116] 自然と環境
-----	---------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	神宮寺 守	ジングウジ マモル	jinguji mamoru
-----	-------	-----------	----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

基礎的な知識として宇宙の歴史や地球システム、そして世界の人口とエネルギーについて解説する。地球システムの資源や回復力の有限性および物質やエネルギーの循環に基づいて、人間活動の拡大が自然環境（大気・水・土壌）や生物（植物・動物）に及ぼす影響、そしてその結果として起こる地球システムの変動について概説する。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

人間活動の拡大による地球システムへの影響について習得し、地球には多種多様な生物が調和のとれた自然環境の中で生態系を形成して生命活動を営んでいることを理解するとともに、自然環境と生物多様性の重要性および地球システムの変動と持続可能性について自分の考えを述べる力を身につけることを目標とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

授業では、基礎的な知識および人間活動が国内および地球規模の自然環境に及ぼす影響として重要と考えられるテーマについて、板書とともにPowerPointを活用して授業内容を理解できるように講義するとともに、テーマに応じて受講生が自分の考えや意見を述べるディスカッションを行います。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

事前の学習では、毎回あらかじめ配布するプリントの内容について参考書を活用して予習を2時間以上行うこと。事後の学習では、授業で使ったスライドのプリントを参考にして復習を2時間以上行うこと。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業への取り組み姿勢（10%）、コメント(20%)、レポート（30%）、学力確認テスト(40%)により総合評価します。（コメント：毎回の授業終了時に配るコメント用紙に、授業内容の要点や感想、また質問を書くこと。）

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	ガイダンス
第2回	宇宙カレンダー（ビッグバン宇宙、地球、生命誕生、生物進化、人類の登場）
第3回	地球システム（地球の有限性、大気・水・地・生物の4つの圏と人間圏）
第4回	世界の人口とエネルギー（人口増加、食糧問題、化石燃料、原子力）
第5回	大気環境（大気の構造、対流圏、大気汚染、光化学スモッグ、酸性雨）
第6回	水環境（水質の汚濁と汚染、汚濁の指標 BOD、生活排水、下水処理）
第7回	土壌環境（土壌の役割、土壌汚染、地下水汚染、ダイオキシン類問題）
第8回	地球温暖化(その1)（平均気温の上昇、温室効果、地球温暖化のメカニズム）
第9回	地球温暖化(その2)（気候変動と影響、将来予測と対策、二酸化炭素問題）
第10回	成層圏オゾン（オゾン層破壊のメカニズム、紫外線、南極オゾンホール）
第11回	海洋環境（汚染物質の種類と経路、漂着ゴミ、マイクロプラスチック汚染）
第12回	森林環境（森林の多機能性、森林特に熱帯雨林の減少と劣化）
第13回	生物多様性（生態系・種・遺伝子、生態系サービス、野生生物種の減少）
第14回	地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）と持続可能な開発目標（SDGs）
第15回	まとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：なし。プリントを配布する。参考書：『令和元年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』環境省（<https://www.env.go.jp>）、『各種データ・資料』気象庁（<https://www.jma.go.jp>）、『地球システムを科学する』伊勢武史著（ベレ出版）2013年、『環境科学入門』川合真一郎・張野宏也・山本義和著（化学同人）2018年、『小さな地球の大きな世界プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発』J.ロックストローム・M.クルム著、武内和彦・石井菜穂子監修（丸善出版）2018年。

**【学生へのメッセージ】**

日常生活においても自然環境とその変化に関心を持ち、インターネットやテレビ、ラジオ、新聞、雑誌等で授業内容に関連する情報を見たり、聞いたり、読んだりするように心がけること。

**【オフィスアワー】**

水曜日2時限目の授業の前後に教室にて受け付けます。

**【実務経験】**

危険物取扱者（甲種）資格。山梨県森林審議会委員。山梨県環境科学研究所課題評価委員。

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				社会探求科目
講義名	[06117] 法学				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	堀 保彦		ホリ ヤスヒコ		hori yasuhiko
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
法は、社会規範（社会のルール）の一つですが、道徳や宗教などの他の社会規範にはない物理的強制力・国家的強制力を有しています。法とは何かを考え、法の発展を振り返ることで法の本質を理解し、私たちの身近な法である憲法・民法（家族・契約・財産・過失責任）・刑法（犯罪と刑罰）・労働法・商法・会社法等を概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
法の本質を理解し、社会人として必要とされる身近な法律を体系的に習得することで、現代法治国家の問題点について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に現代社会における法の問題点（法分野は問わない）について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した判例・新聞記事・Webニュースについての調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	法学を学ぶにあたって				
第2回	法とは何か（法律と道徳・宗教等との相違点）				
第3回	法の発展と社会の発展				
第4回	法と裁判				
第5回	裁判の基準（法源）と法の解釈				
第6回	近代国家と憲法				
第7回	犯罪と刑罰				
第8回	家族1（夫婦・親子）				
第9回	家族2（相続）				
第10回	契約の自由				
第11回	財産				
第12回	損害賠償と過失責任				
第13回	労働者の権利				
第14回	ビジネスに関する法律				
第15回	プレゼンテーション（現代社会における法の問題点）				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『法学入門（第6版補訂版）』末川博（有斐閣）2014年、参考書：『日本人の法意識』川島 武宜（岩波新書）1967年、『現代法学入門（第4版）』伊藤 正己・加藤一郎（有斐閣）2005年、『法律学入門（第3版補訂版）』佐藤幸治（有斐閣）2008年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
現代法治国家が抱えるさまざまな問題点を受講生一人一人が自らの問題として考え、自分自身の意見を形成することを望みます。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで自分自身の意見を形成することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎回授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
株式会社中部銀行24年。銀行における法務担当の経験から日常生活とビジネスに関する法を中心に具体的事例をあげて授業をします。					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				社会探求科目		
講義名	[06120] 政治学						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	堀 保彦			ホリ ヤスヒコ		hori yasuhiko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
政治とは、社会における利害や意見を調整する営みです。本授業では、政治体制と政治制度、政治制度と政治過程、国民代表の政治過程、利益代表の政治過程、政治と経済・福祉の関係、政策決定過程と政策評価、政党制、政治意識と政治文化など政治学の基礎的理論について概説します。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
社会におけるさまざまな利害や意見を調整する営みである政治の仕組み（政治制度・政治過程・政策決定過程など）を理解し、現代社会における政治問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に現代社会における政治の問題点について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した新聞記事・Webニュースについての調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	政治学のアイデンティティー（政治学とはどのような学問か）						
第2回	政治の世界 - 政治とは何か						
第3回	政治体制と変動						
第4回	主要国の政治制度 - 権力分立制度の相違						
第5回	政治と経済、政治と福祉						
第6回	福祉国家の危機と再編						
第7回	政治過程と政治制度、国民代表の政治過程						
第8回	利益代表の政治過程						
第9回	政治と公共政策、政策過程と政策評価						
第10回	行政 - 行政統制と行政責任						
第11回	政党と政党制						
第12回	政治意識と政治行動						
第13回	政治文化						
第14回	主権国家のゆくえ						
第15回	プレゼンテーション（現代政治の問題点について）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『現代政治学（第4版）』加茂利男・大西 仁（有斐閣）2012年、参考書：『行政学（新版）』西尾勝（有斐閣）2001年、『政策学的思考とは何か - 公共政策学原論の試み』足立幸男（勁草書房）2005年、『現代政治の思想と行動（新装版）』丸山眞男（未来社）2006年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
現代社会が抱えるさまざまな政治的問題点を受講生一人一人が自らの問題として考え、自分自身の意見を形成することを望みます。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで自分自身の意見を形成することを望みます。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
毎回授業の前後に教室にて受け付けます。							
<b>【実務経験】</b>							
株式会社中部銀行24年。銀行業界の要望を政策提言に集約する業務（利益代表活動）の経験から具体的な事例をあげて授業をします。							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目		情報科目		
講義名	[06200] 情報処理入門				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	笠井 健次		カサイ ケンジ	kasai kenji	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
情報化社会と言われる現代、コンピュータは情報の伝達、蓄積、検索、そして加工を行う便利なツールであります。本授業では、パーソナルコンピュータにおける基本ソフト (Windows) や応用ソフト (Word・Excel・PowerPoint) の操作を学び、実習を行います。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業を受講し適切な反復学習を行うことで、受講生は大学生に相応しいコンピュータスキルを身に付けます。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義中心のテーマもありますが、ほとんどのテーマは実習中心です。 第1回、第2回は配布プリントを使用し、以降は市販のテキストを使用します。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分 テキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学習120分 受講後は内容の習得を確実にするため必ず反復すること。 怠っている場合は評価のマイナス要素となります。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業への取り組み姿勢（50%）、学力確認テスト（50%）にて評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	情報処理室についての説明。 Windows入門 1				
第2回	Windows入門 2				
第3回	ワープロ (MS-Word) 入門				
第4回	ワープロ (MS-Word) レポートの作成				
第5回	表計算 (MS-Excel) 数式・関数				
第6回	表計算 (MS-Excel) 数式・関数・書式・ページ設定				
第7回	表計算 (MS-Excel) シートの操作・グラフ作成				
第8回	プレゼンテーション (MS-PowerPoint) プレゼンテーション基礎				
第9回	プレゼンテーション (MS-PowerPoint) スライド作成 1				
第10回	プレゼンテーション (MS-PowerPoint) スライド作成 2				
第11回	プレゼンテーション (MS-PowerPoint) プレゼンテーション				
第12回	インターネットとセキュリティ				
第13回	情報検索				
第14回	課題作成				
第15回	まとめ及び振り返り				
<b>【教科書・参考書】</b>					
配布プリントおよび市販のテキストを使用します。 noa出版「学生のためのアカデミック情報リテラシー Office2013対応版」					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
これまでに修得したコンピュータスキルを十分に復習してから本講義に臨んでください。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週の授業後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
メーカー系SEとして職歴スタート。現在も企業向けシステム開発に従事。情報活用の指導機会も多くその基礎を学生に伝授したい。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目		情報科目		
講義名	[06201] 情報処理応用				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	--	--	
担当者	笠井 健次		カサイ ケンジ	kasai kenji	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
情報化社会と言われる現代、コンピュータは情報の伝達、蓄積、検索、そして加工を行う便利なツールであります。本授業では表計算ソフト (MS-Excel) を集中的に学び、実習していきます。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業を受講し適切な反復学習を行うことで、受講生は社会人となった時に即応できる実践的なスキルを身に付けます。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
短めの講義も行いますが、ほとんどの時間は実習にあてます。第1回、第2回は配布プリントを使用し、以降は市販のテキスト（問題集）を使用した実習を行います。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分 テキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学習120分 受講後は内容の習得を確実にするため必ず反復すること。 怠っている場合は評価のマイナス要素となります。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業への取り組み姿勢（50%）、学力確認テスト（50%）にて評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	情報処理室についての説明。表計算 (MS-Excel) 再入門 1				
第2回	表計算 (MS-Excel) 再入門 2				
第3回	表計算 (MS-Excel) 表作成 スキルチェック				
第4回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 1				
第5回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 2				
第6回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 3				
第7回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 4				
第8回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数を利用した表作成 スキルチェック				
第9回	表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 1				
第10回	表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 2				
第11回	表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 スキルチェック				
第12回	表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 1				
第13回	表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 2				
第14回	表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 3				
第15回	まとめ及び振り返り				
<b>【教科書・参考書】</b>					
配布プリントおよび市販の問題集を使用します。 noa出版「使える技術が身に付く！Excel問題集 全102題」					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
情報処理入門を受講済み、または同等のExcelスキル修得者を対象とした講義内容です。 （重要）Excelを初めて学ぶ人は、先に情報処理入門を受講すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週の授業後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
メーカー系SEとして職歴スタート。現在も企業向けシステム開発に従事。情報活用の指導機会も多くその基礎を学生に伝授したい。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				総合科目
講義名	[06202] 人間の尊厳と自立 法定科目				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--	
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。人間の尊厳と自立を理解する為、基本的人権の理念、人権侵害等の社会問題を通して学ぶ。介護における尊厳の保持・自立支援を理解するために、具体的な生活場面の事例を取り上げて学ぶ。人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
講義毎の予習と復習のレポート：100%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	人間の多面的理解				
第2回	人間の尊厳と人権・福祉理念				
第3回	人間の尊厳 普遍的尊厳				
第4回	人間の尊厳 個別的尊厳・多様性				
第5回	自立の概念				
第6回	事例を通して「自立・自律」を考察				
第7回	事例を通して「自立・自律」を考察				
第8回	人権と尊厳 基本的人権				
第9回	権利擁護				
第10回	アドボカシー				
第11回	人権尊重				
第12回	スティグマ				
第13回	身体的な自立支援				
第14回	精神的な自立支援				
第15回	社会的な自立支援				
<b>【教科書・参考書】</b>					
『介護概論』三訂 介護福祉士養成講座 1 2 福祉士養成講座編集委員会（編） 中央法規					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
積極的に授業に参加するのを望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
腎臓内科医					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				総合科目
講義名	[06203] 人間関係とコミュニケーション				
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
最近重要視される「コミュニケーション能力」とは何か、何を指してコミュニケーション能力というのか、幅広い領域にわたる「コミュニケーション」について、具体的な技術も含めて様々な角度から「コミュニケーション」について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
コミュニケーションを形成する上で必要な人間の関係性を理解し、人間関係、コミュニケーションの基礎的な知識について学習します。また、自分の言いたいことを他者に理解できるよう具体的に述べられる力を身に付けることを、本授業の目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解するよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと。事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポート（60%）、授業内テスト（20%）、授業参画度（20%）授業参画度は毎回のリアクションペーパーにより総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	人間関係と心理（自己覚知）				
第2回	人間関係と心理（他者理解）				
第3回	人間関係と心理（ラポール）				
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）				
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）				
第6回	コミュニケーションを促す環境				
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）				
第8回	コミュニケーションの技法（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション）				
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）				
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）				
第11回	機器を用いたコミュニケーション（プレゼンテーション）				
第12回	記述によるコミュニケーション				
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本				
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術				
第15回	まとめ・総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：なし。プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）					
<b>【実務経験】</b>					
山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				総合科目
講義名	[07585] 山梨県と峡南地域				
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（2）	種 類 演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ		hayashi zekyo
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見を行う。予め巡見場所に関する調べ学習を行い、予備知識を得た上で巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
峡南地域の中でも、身延町、南部町、富士川町にスポットをあて、3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。また、「やまなし観光カレッジ」事業と連携しているので授業中に山梨県内のイベントに参加し、レポートを提出してもらう。毎回、1限は大学図書館で調べ学習を行い、それから巡見を行う。授業は集中講義で、6月6日、7月11日、10月24日の3回を予定している。諸般の事情によりこの日に授業ができない場合の予備日として11月21日、11月28日を設定する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
3回それぞれの巡見のための事前学修10時間、事後学修10時間を行なうこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業態度（10%）、授業に取り組む姿勢（50%）、レポート点（40%）にて評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学習				
第2回	巡見1回目				
第3回	巡見1回目				
第4回	巡見1回目				
第5回	巡見1回目				
第6回	2回目巡見場所の調べ学習				
第7回	巡見2回目				
第8回	巡見2回目				
第9回	巡見2回目				
第10回	巡見2回目				
第11回	3回目巡見場所の調べ学習				
第12回	巡見3回目				
第13回	巡見3回目				
第14回	巡見3回目				
第15回	巡見3回目				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特になし。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもある。巡見は学バスで行くので基本的に交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡する。昼食は各自持参。バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日1限～5限、開講日は年度当初に掲示します。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1時間目に調べ学習を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員に聞いてください。メール可 smochi(a)min.ac.jp					
<b>【実務経験】</b>					
峡南地域の博物館学芸員、高等学校教員（日本史）の勤務経験あり。 身延山宝物館の学芸員として勤務。					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目	総合科目

講義名	[07588] 身延町の福祉文化
-----	------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
	高橋 賢充	タカハシ マサミツ	takahashi masamitsu

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

地域福祉を志向するとき、その地域の特徴や地理的条件などを知り、それぞれの状況にあった問題解決を図らねばならない。本講義では、地域福祉に向かうために必要な基礎力を養う。地域の資料を集め、それを読み込み、精査してまとめ、一つの連続する情報として、他者へ提供するための発表を行う。このようなスキルを身に付けられるように、講義形式と学外への研修と実習を併用する。キーワード：地域福祉、共生社会、社会的弱者、地域課題、福祉文化

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

われわれが暮らしている「地域」ある福祉の多様性を理解し、豊かな「暮らし」を障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の「地域」にある福祉文化を概観し、その実像を把握できるようになることを目的の第一とする。インターネット上から得られる情報をプロジェクターを用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられようようになることが目的の第二である。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになることが目的の第三である。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。大学を離れて地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学習型の演習形式、そして実験的な観察形式によるPBL型の授業となる。特に11回～15回の授業では、「超高齢化社会のまちづくり」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

講義形式：事前に指定された事項の理解に120分、事後には全体の復習と与えられた課題をまとめることに120分程度が必要となる。  
 演習形式：得られた情報加工をするために、事前に120分、事後には120分程度は必要となる。  
 実践形式：実際の現場に出て情報を収集することに120分、得られた情報を整理加工することに120分までが事前学修、事後はプレゼンテーションの不具合の訂正や修正に150分程度は必要となる。

**【成績評価（方法・基準）】**

講義形式30%（プレゼンテーション20%、講義中の取り組みに10%）、演習形式ではプレゼンテーション発表に20%とその取り組みに10%、実践形式では講義形式と演習形式の基礎を踏まえているかどうか10%、最終のプレゼンテーションに20%、その取り組みに10%となる。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲
第2回	身延町を理解しよう
第3回	身延町の福祉実践と民間の活動
第4回	資料から見る身延町の福祉（1）
第5回	資料から見る身延町の福祉（2）
第6回	プレゼンテーション（1）
第7回	地域図書館の活用（地域情報の入手と加工）
第8回	地域図書館の活用（情報加工技術）（1）
第9回	地域図書館の活用（情報加工技術）（2）
第10回	プレゼンテーション（2）
第11回	福祉に関する地域課題の検出（PBL型）
第12回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）
第13回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）
第14回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）
第15回	身延町の福祉文化の多様性理解と問題解決案のプレゼンテーション（3）

**【教科書・参考書】**

教科書：特に指定しない。授業において適宜に指定する。参考書：講義中に紹介する。

**【学生へのメッセージ】**

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目「福祉文化」という聞きなれない言葉であるが、欠席することなく履修していただきたい。履修した学生で質問をお持ちの方は、ikegami(a)min.ac.jpまで、メールにて質問するようにしてください。

**【オフィスアワー】**

池上要靖：火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可。

高橋賢充：火曜日8:50～10:20 水曜日10:25～11:55

**【実務経験】**

池上要靖：宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員

高橋賢充：社会福祉士資格・精神保健福祉士資格・北海道社会福祉協議会・札幌市麻生総合センター館長・厚真町地域包括支援センター社会福祉士

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				総合科目		
講義名	[07589] サービスラーニング						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。 キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を感じ取ってもらうことを目的とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域の課題を明確にする。 地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。 実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化して行う。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	オリエンテーション：サービスラーニングとは？						
第2回	活動計画の構成と計画書の作成						
第3回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）						
第4回	地域活動						
第5回	地域活動						
第6回	地域活動						
第7回	地域活動						
第8回	地域活動						
第9回	地域活動						
第10回	地域活動						
第11回	地域活動						
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし						
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正						
第14回	解決案の事業者への提案						
第15回	事後報告会と全体の振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことをとおして学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動をおして地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)							
<b>【実務経験】</b>							
元身延町教育委員							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目	総合科目

講義名	[07590] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	--------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。サービスラーニングとの継続でも可であるが、なるべくならば他社、他所での異なる体験を積むことを良とする。  
キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を感じ取ってもらうことを目的とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を実践できる力を成果とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域課題への解決を図る活動を行っていく。  
地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。  
実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化する。

**【成績評価（方法・基準）】**

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画立案
第2回	活動計画書の具体的な作成
第3回	地域活動
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	中間のまとめ、何が課題か、その課題を解決する方策について(プレゼンテーション)
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	地域活動
第13回	事後の振り返り・報告書作成
第14回	事後報告会
第15回	事後報告会と全体の振り返り

**【教科書・参考書】**

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年

**【学生へのメッセージ】**

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目  
受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことをとおして学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動をおして地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。

**【オフィスアワー】**

火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)

**【実務経験】**

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				保健体育科目		
講義名	[06300] 健康とスポーツの科学						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	藤本 俊		フジモト シュン		fujimoto syun		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
生活習慣病の発症の予防等や健康で生活することのできる運動処方について講義する。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
人々が健康な生活を真に実行するためには、何が「健康」であり、何が「不健康」であるかをまず知らなければならない。健康とスポーツについて、理解と認識を深め、健康の保持増進について講義する。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
パソコン接続プロジェクター（パワーポイント）を使用して講義をする。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習120分：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：配布資料を読み直し、ノートをまとめる。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
学力確認テスト70%、授業への取り組み姿勢20%、レポート10%を総合して評価する。 出席は授業数の2 / 3以上、授業中瞑想にふける学生は出席扱いとしない。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	運動不足による身体の影響						
第2回	運動と健康						
第3回	生活習慣病と健康						
第4回	食事と健康						
第5回	睡眠と健康						
第6回	飲酒・喫煙と健康						
第7回	メタボリックシンドローム						
第8回	運動とヘモグロビン・ドーピング						
第9回	健康のための正しいトレーニング方法						
第10回	ウォーキング、ジョギング						
第11回	ストレッチングの目的と方法						
第12回	スポーツマッサージの目的と方法 (演習)						
第13回	テーピングの目的と方法 (演習)						
第14回	応急手当の方法						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
特に指定しない。その都度資料を配付する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
身体は生涯にわたり、つき合わなければなりません。快適に今日を生きるための知識をしっかりと身に付けて下さい。自分のための健康法です。授業中は携帯・スマートホン・タブレット等の使用禁止とする。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業終了後							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				保健体育科目		
講義名	[06301] トレーニングと身体						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	藤本 俊		フジモト シュン		fujimoto syun		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
テニスの基礎技術の理論と発展技術の理論についてスキル指導をする。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
テニスの実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
テニスコートを使用して実技を中心に講義・指導でホローアップする。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習120分：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：反復練習すること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
スキル確認テスト70%、授業への取り組み姿勢30%を総合して評価する。出席は授業数の2 / 3以上。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	テニスの基礎技術の理論と実践（1）						
第2回	テニスの基礎技術の理論と実践（2）						
第3回	テニスの基礎技術の理論と実践（3）						
第4回	テニスの発展技術の理論と実践（1）						
第5回	テニスの発展技術の理論と実践（2）						
第6回	テニスの発展技術の理論と実践（3）						
第7回	テニスのゲームについて（1）						
第8回	テニスのゲームについて（2）						
第9回	テニスのゲームについて（3）						
第10回	テニスのゲームについて（4）						
第11回	テニスのゲームについて（5）						
第12回	テニスのゲームについて（6）						
第13回	テニスのゲームについて（7）						
第14回	テニスのゲームについて（8）						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。週1回のトレーニングと身体の実技では、技術・健康・体力の向上は得られません。受講後は必ず内容の習得が得られるように反復練習をすること。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
トレーニングウエア・テニスシューズを用意し、徒歩でテニスコートに集合、バイク・自動車の移動は禁止。単位取得のための目的でなく、生涯スポーツとしての実践を身に付けて下さい。授業中は携帯等の使用を禁止とする。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業終了後							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				保健体育科目		
講義名	[06302] トレーニングと身体						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	藤本 俊		フジモト シュン		fujimoto syun		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
バドミントン・卓球・ソフトバレーボールの基礎技術と発展技術の理論と実践について、スキル指導する。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
各種のスポーツ種目の実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
体育館で実技を中心に講義・指導でホローアップする。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習120分：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：反復練習すること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
スキル確認テスト70%、授業への取り組み姿勢30%を総合して評価する。出席は授業数の2 / 3以上。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	バドミントンの基礎技術の理論と実践（1）						
第2回	バドミントンの基礎技術の理論と実践（2）						
第3回	バドミントンの発展技術の理論と実践（1）						
第4回	バドミントンの発展技術の理論と実践（2）						
第5回	バドミントンのゲームについて（1）						
第6回	バドミントンのゲームについて（2）						
第7回	バドミントンのゲームについて（3）						
第8回	卓球の基礎技術の理論と実践						
第9回	卓球の発展技術の理論と実践						
第10回	卓球のゲームについて（1）						
第11回	卓球のゲームについて（2）						
第12回	ソフトバレーボールの基礎技術の理論と実践						
第13回	ソフトバレーボールのゲームについて（1）						
第14回	ソフトバレーボールのゲームについて（2）						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。週1回のトレーニングと身体の実技では、技術・健康・体力の向上は得られません。受講後は必ず内容の習得が得られるように反復練習をすること。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
トレーニングウェア・体育館シューズを用意し、グラウンド用特別すること。単位取得のための目的でなく、生涯スポーツとしての実践を身に付けて下さい。又、授業中は携帯等の使用禁止とする。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業終了後							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目	語学科目

講義名	[06400] 英語 A		
-----	--------------	--	--

期 間	前期 (30回)	単 位 数	選択 (2)	種 類	演習
-----	----------	-------	--------	-----	----

対象学年	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	ジル・エマ・ストロースマン	ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman
-----	---------------	---------------	---------------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

着実に単語や文法を学び、徐々に英語を使える言語にしましょう。

**【授業修了時の達成課題 (到達目標)】**

英語 A はバランスよく英単語、英文法と英会話の学習を行います。本講義を受講することにより、学生は自信を持って英語を使えるようになります。

**【授業方法 (フィードバックの内容)】**

2週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を復讐するためのミニテストをします。その後、新しい学習をします。学力確認試験は15回目の授業時間に行います。

**【授業外学修の方法 (時間数)】**

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。

**【成績評価 (方法・基準)】**

評価は授業に対する取り組みと学力確認試験とミニテストを基準に行います。目安として、授業に対する取り組みは30%、ミニテストは50%、学力確認試験は20%です。

**【授業計画 (各回の授業内容)】**

第1回	自己紹介、course orientation
第2回	Unit 1 (1)
第3回	Unit 1 (2)
第4回	Unit 1 (3)
第5回	Unit 1 (4)
第6回	Unit 2 (1)
第7回	Unit 2 (2)
第8回	Unit 2 (3)
第9回	Unit 2 (4)
第10回	Unit 3 (1)
第11回	Unit 3 (2)
第12回	Unit 3 (3)
第13回	Unit 3 (4)
第14回	Unit 4 (1)
第15回	Unit 4 (2)
第16回	Unit 4 (3)
第17回	Unit 4 (4)
第18回	Unit 5 (1)
第19回	Unit 5 (2)
第20回	Unit 5 (3)
第21回	Unit 5 (4)
第22回	Unit 6 (1)
第23回	Unit 6 (2)
第24回	Unit 6 (3)
第25回	Unit 6 (4)
第26回	Grammar (1)
第27回	Grammar (2)
第28回	Grammar (3)
第29回	Grammar (4)
第30回	まとめ及び振り返り

<b>【教科書・参考書】</b>
openMind 2nd edition AE Level 1, Mickey Rogers 他著、Macmillan Education
<b>【学生へのメッセージ】</b>
15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでいてください。本講義は2時限連続の授業ですので、1回の講義は2時限をもって行います。
<b>【オフィスアワー】</b>
月曜日 5時限
<b>【実務経験】</b>
なし

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				語学科目		
講義名	[06401] 英語 B						
期 間	後期 (30回)		単 位 数	選 択 (2)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	--	--			
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
着実に単語や文法を学び、徐々に英語を使える言語にしましょう。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
英語 B では、英単語、英文法と英会話の学習を続けます。教室で行う英語学習と会話練習を通して、深い英語の理解を目指します。本講義を受講することにより、学生は自信を持って英語を使えるようになります。「英語B」で取り上げるのは、教科書のUnit7からUnit12まで。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
2週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を復讐するためのミニテストをします。その後、新しい学習をします。学力確認試験は15回目の授業時間に行います。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
評価は授業に対する取り組みと学力確認試験とミニテストを基準に行います。目安として、授業に対する取り組みは30%、ミニテストは50%、学力確認試験は20%です。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	夏休みの話						
第2回	Unit 7 (1)						
第3回	Unit 7 (2)						
第4回	Unit 7 (3)						
第5回	Unit 7 (4)						
第6回	Unit 8 (1)						
第7回	Unit 8 (2)						
第8回	Unit 8 (3)						
第9回	Unit 8 (4)						
第10回	Unit 9 (1)						
第11回	Unit 9 (2)						
第12回	Unit 9 (3)						
第13回	Unit 9 (4)						
第14回	Unit 10 (1)						
第15回	Unit 10 (2)						
第16回	Unit 10 (3)						
第17回	Unit 10 (4)						
第18回	Unit 11 (1)						
第19回	Unit 11 (2)						
第20回	Unit 11 (3)						
第21回	Unit 11 (4)						
第22回	Unit 12 (1)						
第23回	Unit 12 (2)						
第24回	Unit 12 (3)						
第25回	Unit 12 (4)						
第26回	Grammar (1)						
第27回	Grammar (2)						
第28回	Grammar (3)						
第29回	Grammar (4)						
第30回	まとめ及び振り返り						

<b>【教科書・参考書】</b>
openMind 2nd edition AE Level 1, Mickey Rogers 他著、Macmillan Education
<b>【学生へのメッセージ】</b>
15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでいてください。本講義は2時限連続の授業ですので、1回の講義は2時限をもって行います。
<b>【オフィスアワー】</b>
月曜日 5時限
<b>【実務経験】</b>
なし

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				語学科目		
講義名	[06402] 韓国語 A						
期 間	前期 (30回)		単 位 数	選 択 (2)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語と韓国語は文法構造における類似性が高いので、文字と発音に慣れさえすれば、他の外国語より習得しやすい言語です。韓国語能力試験TOPIK (初級)のレベル認定を目指しますので、志ある人の受講を望みます。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
自己紹介、買い物、飲食店での注文など生活に必要な基礎的な言語(ハングル)を駆使でき、身近な話題の内容を理解、表現できる。約800語程度の基礎的な語彙と基本文法を理解でき、簡単な文章を作れる。簡単な生活文や実用文を理解し、構成できる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト(成績評価の対象)を行いますので、予習・復習に励んでください。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢(20%)、小テスト(20%)、中間テスト(30%)、学力確認テスト(30%)により総合評価します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス、あいさつのことば、教室のことば						
第2回	第1課：韓国語と文字						
第3回	第2課：基本母音字						
第4回	第3課：基本子音字						
第5回	第4課：基本子音字						
第6回	第5課：基本子音字						
第7回	第6課：合成子音字						
第8回	第7課：合成母音字						
第9回	第8課：パッチム						
第10回	第9課：連音化						
第11回	中間テスト						
第12回	第10課：私は日本人です。						
第13回	第11課：これは何ですか。						
第14回	第12課：誰の本ですか。						
第15回	中間テスト						
第16回	第13課：学校はどこにありますか。						
第17回	第14課：何をしますか。						
第18回	第15課：どこに行きますか。						
第19回	中間テスト						
第20回	第16課：天気はどうですか。						
第21回	第17課：今日は何日ですか。						
第22回	第18課：ひとついくらですか。						
第23回	第19課：何時に起きますか。						
第24回	第20課：どちらにお住まいですか。						
第25回	中間テスト						
第26回	第21課：週末に何をしますか。						
第27回	第22課：昨日、何をしましたか。						
第28回	第23課：いま、何をされていますか。						
第29回	第24課：何を食べましょうか。						
第30回	まとめ						

<b>【教科書・参考書】</b>
教科書：『韓国語をはじめよう：書いて身につくテキスト；初級』李昌圭著（朝日出版社）2009年。参考書：『新・合格できる韓国語能力試験；TOPIK I』李志暎監修（アスク出版）2015年。
<b>【学生へのメッセージ】</b>
交換留学を希望する学生は必ず受講してください。〔 <a href="http://www.min.jp/about/International.html">http://www.min.jp/about/International.html</a> 〕 韓国語能力試験の試験日は、第71回：7月12日（日）、第72回：10月18日（日）です。〔 <a href="https://www.kref.or.jp/moushikomi">https://www.kref.or.jp/moushikomi</a> 〕
<b>【オフィスアワー】</b>
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。
<b>【実務経験】</b>
同時通訳・翻訳業務の実績あり

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				語学科目		
講義名	[06403] 韓国語 B						
期 間	後期（30回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語と韓国語は文法構造における類似性が高いので、文字と発音に慣れさえすれば、他の外国語より習得しやすい言語です。韓国語能力試験TOPIK（初級）のレベル認定を目指しますので、志ある人の受講を望みます。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
電話やお願い程度の日常生活に必要な言語（ハングル）や、郵便局、銀行などの公共機関での会話ができる。約1,500～2,000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる。公式的な状況か非公式的な状況かの言語（ハングル）を区分し、使用できる。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト（成績評価の対象）を行いますので、予習・復習に励んでください。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業への取り組み姿勢（20%）、小テスト（20%）、中間テスト（30%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	第1課：数字の復習						
第3回	第2課：語尾の復習						
第4回	第3課：助詞の復習						
第5回	第4課：遅くなって申し訳ありません。						
第6回	第5課：ビビンパが食べたいです。						
第7回	第6課：最近、忙しいですか。						
第8回	第7課：復習						
第9回	中間テスト						
第10回	第8課：どこで撮った写真ですか。						
第11回	第9課：詳しく説明させていただきます。						
第12回	第10課：韓国に来てどのくらい経っていますか。						
第13回	第11課：復習						
第14回	中間テスト						
第15回	第12課：美術館はここから近いですか。						
第16回	第13課：運転しながら電話しないでください。						
第17回	第14課：復習						
第18回	中間テスト						
第19回	第15課：雨がたくさん降るようです。						
第20回	第16課：風邪はもう治りましたか。						
第21回	第17課：ここで写真を撮ってもいいですか。						
第22回	第18課：景福宮にはどのように行けばいいですか。						
第23回	第19課：週末にも学校にいかねばなりません。						
第24回	第20課：お腹がいっぱいでもう食べられません。						
第25回	第21課：復習						
第26回	中間テスト						
第27回	第22課：十時まで来られますか。						
第28回	第23課：慶州に行ってみたことはありますか。						
第29回	第24課：雪がたくさん降ったそうです。						
第30回	まとめ						

<b>【教科書・参考書】</b>
教科書：『韓国語をはじめよう：書いて身につくテキスト；中級』李昌圭著（朝日出版社）2009年。参考書：『新・合格できる韓国語能力試験；TOPIK I』李志暎監修（アスク出版）2015年。
<b>【学生へのメッセージ】</b>
交換留学を希望する学生は必ず受講してください。〔 <a href="http://www.min.jp/about/International.html">http://www.min.jp/about/International.html</a> 〕 韓国語能力試験の試験日は、第71回：7月12日（日）、第72回：10月18日（日）です。〔 <a href="https://www.kref.or.jp/moushikomi">https://www.kref.or.jp/moushikomi</a> 〕
<b>【オフィスアワー】</b>
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。
<b>【実務経験】</b>
同時通訳・翻訳業務の実績あり

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				語学科目		
講義名	[06412] 現代中国語 A						
期 間	前期（30回）		単位数	選択（2）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	樺 正美		ツバキ マサミ		tsubaki masami		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
現在、日本と中国は観光や経済の面で盛んに交流が続いているが、今後も両国間の正常な関係を維持するためには、多くの日本人が中国社会の実状や文化面等に対する理解を更に深めることも必要となる。この授業では、中国語の発音の指導や文法の講義を進めながら、中国の文化や中国人の価値観等についても紹介していく。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
本授業を受講することにより、中国語による簡単な挨拶や日常会話が可能となり、中国についての基本的な知識も身につけることができる。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
テキストの内容は、発音表記について説明された発音編、挨拶等の簡単な表現が収録された基本編、本文と文法の解説で構成された構文編に分かれている。構文編の授業方法では、まず文法規則について説明し、次に本文の発音と日本語訳について指導し、最後に練習問題について受講生に答えさせる。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前の学習（120分）では、当日の授業で扱う予定の範囲に含まれる新出単語や例文の発音と意味を調べ、授業の内容を受け入れられる態勢を整えておくこと。事後の学習（120分）では、授業で習得した事柄について再チェックし、問題点を解決しておくこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業への熱意や授業態度(30%)、テストの成績(70%)により総合評価する。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	発音編：声調、母音						
第3回	発音編：子音						
第4回	基本編：挨拶言葉、数字						
第5回	基本編：地名、漢詩						
第6回	第1課：人称代名詞、名前の尋ね方						
第7回	第1課の本文と練習						
第8回	第2課：指示代名詞、動詞述語文						
第9回	第2課の本文と練習						
第10回	第3課：形容詞述語文、反復疑問文						
第11回	第3課の本文と練習						
第12回	第4課：願望の助動詞、疑問詞疑問文						
第13回	第4課の本文と練習						
第14回	おさらい						
第15回	第5課：方位詞、助数詞						
第16回	第5課の本文と練習						
第17回	第6課：可能の助動詞、連動文						
第18回	第6課の本文と練習						
第19回	第7課：選択疑問文、使役文						
第20回	第7課の本文と練習						
第21回	おさらい						
第22回	第1課の復習						
第23回	第2課の復習						
第24回	第3課の復習						
第25回	第4課の復習						
第26回	第5課の復習						
第27回	第6課の復習						
第28回	第7課の復習						

第29回	総復習
第30回	まとめ
<b>【教科書・参考書】</b>	
教科書：『はじめまして中国語』椿正美・戚長纓著(駿河台出版社)2014年。参考書：『中国語わかる文法』興水優他著(大修館書店)2009年、『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著(同学社)2016年。	
<b>【学生へのメッセージ】</b>	
語学力を上達させるためには、授業で習得した内容の積み重ねが大事なので、受講した後の復習は怠らないこと。多くの受講生にとっては、初めて学ぶ教科なので、基本的な部分は繰り返し勉強しておくように。	
<b>【オフィスアワー】</b>	
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。	
<b>【実務経験】</b>	
なし	

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学部 共通基礎科目				語学科目		
講義名	[06413] 現代中国語 B						
期間	後期 (30回)		単位数	選択 (2)		種類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	椿 正美		ツバキ マサミ		tsubaki masami		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
中国語の発音の方法や文法の規則の基本的な部分については、現代中国語Aの授業で既に講義したので、現代中国語Bでは、書く・話す・聞くの総合的な能力を実践面で応用できるよう授業を進めていく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
本授業を受講することにより、受講生は更に複雑な内容について習得し、街の歩き方や家族の紹介等の実用的な会話力を身につけることができるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
授業では、まず各課の新出単語を発音練習し、続いて文法の規則について説明した後、本文を日本語訳し、練習問題にも取り組んでいく。基本的には、現代中国語Aと同じ方法で授業を進めていく。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
事前の学習では、当日の授業で扱う予定の範囲に含まれる新出単語や例文の発音と意味を調べ、授業の内容を受け入れられる態勢を整えておくこと。事後の学習では、授業で習得した事柄について再チェックし、問題点を解決しておくこと。事前・事後学習は、それぞれ120分以上設定しておく。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への熱意や授業態度(30%)、テストの成績(70%)により総合評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	現代中国語Aの復習						
第3回	第8課：主述述語文、時間帯の表現						
第4回	第8課の本文						
第5回	第8課の練習						
第6回	第9課：動量補語、時刻の表現						
第7回	第9課の本文						
第8回	第9課の練習						
第9回	第10課：様態補語、名詞述語文						
第10回	第10課の本文						
第11回	第10課の練習						
第12回	おさらい						
第13回	第11課：結果補語、二重目的語文						
第14回	第11課の本文						
第15回	第11課の練習						
第16回	第12課：方向補語、当然を示す助動詞						
第17回	第12課の本文						
第18回	第12課の練習						
第19回	第13課：程度の強調、比較の表現						
第20回	第13課の本文						
第21回	第13課の練習						
第22回	おさらい						
第23回	第8課の復習						
第24回	第9課の復習						
第25回	第10課の復習						
第26回	第11課の復習						
第27回	第12課の復習						
第28回	第13課の復習						
第29回	総復習						
第30回	まとめ						

<b>【教科書・参考書】</b>
教科書：椿正美・戚長纓著『はじめまして中国語』（駿河台出版社）2014年。参考書：『中国語わかる文法』興水優他著（大修館書店）2009年、『why？にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著（同学社）2016年。
<b>【学生へのメッセージ】</b>
授業は現代中国語Aより少し難しくなるが、真剣な気持ちで出席し、習得した事柄を必ず再確認し、難解な部分は積極的に質問するよう心掛けていれば、内容を完璧に把握することができる。安心した気持ちで取り組んで欲しい。
<b>【オフィスアワー】</b>
毎週授業の前後に教室にて受けつけます。
<b>【実務経験】</b>
なし

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目			専門基礎科目	
講義名	[06529] 仏教学概論（仏教思想の基礎知識）				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
この授業では、仏教学の基礎知識を修得するために基本的な仏教用語の意味を学びます。仏教学の伝統において教科書として用いられてきた『俱舎論』に基づいて仏教教義の基本を解説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義を受講することにより、仏教思想形成する基礎知識を理解することができる。これらの用語を理解することにより、仏教学のさらなる知識を習得できるようになる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
古来より仏教学の教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舎論』を用いて、仏教用語の基礎知識を講義する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション				
第2回	アビダルマについて				
第3回	部派仏教の成立について				
第4回	『俱舎論』とヴァスバンドゥ				
第5回	存在の基盤について				
第6回	認識について				
第7回	存在について				
第8回	世界の形成について				
第9回	行為について				
第10回	煩惱について				
第11回	修行階梯について				
第12回	智について				
第13回	禅定について				
第14回	我について				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：世親（ヴァスバンドゥ）著『阿毘達磨俱舎論』（大正新修大蔵経、No.1558）。参考書：『俱舎論』桜部建（大蔵出版）1981年、『存在の分析』桜部建（角川文庫）1996年青、原令知編『唯識 絶ゆることなき法の流れ』（自分照出版）2015年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 『俱舎論』は、奈良時代より仏教学の教科書として用いられているテキストであるので、僧侶としての基本的な学習内容を学んでもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		専門基礎科目		
講義名	[06530] インド仏教史				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ	mochizuki kaie	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
インドにおいて仏教の改革運動として誕生した大乘仏教についてその成立から展開までを講義する。具体的には、様々な大乘経典から論書への展開を経て金剛乗に至るインド仏教の思想的変遷を解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
釈尊が開いた仏教の教えは、インドにおいて大乘仏教として大きく展開し、東アジアに伝わった。インドにおける大乘仏教の展開を理解することにより、東アジアの仏教思想の基盤となったものが明らかになる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義であるから、教科書として用いるテキストに従って講義をしていく。それゆえにノートに要点を筆記することに終始することになるであろう。事前学修（2時間）としてテキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修（2時間）としては、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	大乘仏教とは何か				
第2回	大乘仏教起源論				
第3回	上座部仏教と大乘仏教				
第4回	戒律と教団				
第5回	菩薩思想				
第6回	般若経				
第7回	華嚴経				
第8回	法華経				
第9回	浄土経典				
第10回	中観思想				
第11回	瑜伽行唯識思想				
第12回	如来蔵思想				
第13回	仏教論理学				
第14回	密教				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：大正大学仏教学部編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎 1 インド編』（大正大学出版会）2016年。参考書：『シリーズ大乘仏教 全10巻』桂紹隆他編（春秋社）2011年、『講座・大乘仏教 全10巻』平川彰他編（春秋社）1981年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 日本に伝わった仏教が、本来はどのような姿だったのかを考えながら、インドの仏教を理解してもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		専門基礎科目		
講義名	[06532] 日本仏教史				
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
紀元前5世紀、仏陀によって開かれた仏教は、その後東漸して、西域を伝わって中国から朝鮮半島を経て日本に伝えられた。これは6世紀のことで、日本における仏教伝来といわれるできごとである。以降、仏教は日本社会に定着していくが、本講義では、仏教伝来から明治仏教までを概説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日本に伝来した仏教がどのように社会に定着し、日本社会に展開していったのか理解することを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
テキストの他に随時プリントや参考資料を提供し、授業を進めることにする。ビデオ・DVDといった映像資料も活用する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回2時間以上の事前・事後学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
小テスト（60%）、授業に取り組む姿勢（30%）、学力確認テスト（10%）によって評価します。毎回授業中に小テストを行うので出席が大事です。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	授業の概要				
第2回	古代仏教 仏教伝来				
第3回	古代仏教 聖徳太子と飛鳥文化				
第4回	奈良仏教 国分寺と東大寺				
第5回	奈良仏教 律令制下の仏教				
第6回	平安仏教 天台真言宗の成立				
第7回	鎌倉仏教 浄土系の展開				
第8回	鎌倉仏教 禅系の展開				
第9回	鎌倉仏教 法華系の展開				
第10回	室町仏教 禅宗の展開と教団一揆				
第11回	安土桃山仏教 織豊政権と仏教				
第12回	江戸仏教 幕藩体制と仏教				
第13回	江戸仏教 庶民仏教の展開				
第14回	明治仏教 神仏分離と廃仏毀釈				
第15回	総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『仏教史概説～日本篇』千葉乗高・北西弘・高木豊共著（平楽寺書店）1969年。参考書：『日本仏教史』10巻、辻善之助著（岩波書店）1969年、『日本仏教史 一思想史としてのアプローチ』末木文美士著（新潮社）1992年、『日本仏教史年表』平岡定海他（雄山閣）1899年、『日本仏教史辞典』大野達之助編（東京堂出版）1979年、図説『日本仏教の歴史』飛鳥時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・明治時代（佼成出版）1996年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 基本的には毎回小テストを実施するので、授業に出席すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の開始前、終了前後に質問等があれば研究室、教室で対応する。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗の教師資格があり、高等学校教員（日本史）の経験あり。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		専門基礎科目		
講義名	[06535] 法華経概論				
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
法華経の概要について学修します。成立、原典、構成、思想内容、仏教における位置づけなど、法華経の基本的事項について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、法華経の概要を総合的に理解することにより、法華経の教えをとおして大乘仏教の基本的思想や日本仏教の原点および天台大師・伝教大師・日蓮聖人の法華仏教の内容を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
法華経の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト（80%）、課題発表などの授業への取り組み姿勢（20%）を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	法華経の成立				
第2回	法華経の原典				
第3回	法華経の構成				
第4回	法華経説法の場所				
第5回	法華経説法の開始				
第6回	日本仏教における法華経の位置づけ				
第7回	法華経迹門の思想				
第8回	法華経本門の思想				
第9回	法華経の開会思想				
第10回	法華経の題号喩				
第11回	法華経品中の譬喩				
第12回	法華経の菩薩思想				
第13回	法華経の娑婆即寂光思想				
第14回	法華経の世出不二思想				
第15回	法華経学修のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公著（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
講義内容の関係から後期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目			専門基礎科目	
講義名	[06536] 法華経概論				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
法華経各品の概要について学修します。とくに方便品第二・如来寿量品第十六・如来神力品第二十一などの主要品をはじめ、虚空会の思想や起顕竟の法門のなど、法華経各品の基本的事項について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、法華経各品の概要を総合的に理解することにより、法華経全体の思想内容を印度・中国・日本の三国仏教を踏まえて把握し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
法華経各品の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト（80％）、課題発表などの授業への取り組み姿勢（20％）を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	序品第一・方便品第二				
第2回	譬喩品第三・信解品第四				
第3回	薬草喩品第五・授記品第六				
第4回	化城喩品第七・五百弟子受記品第八				
第5回	授学無学人記品第九・法師品第十				
第6回	見宝塔品第十一・提婆達多品第十二				
第7回	勸持品第十三・安楽行品第十四				
第8回	従地涌出品第十五・如来寿量品第十六				
第9回	分別功德品第十七・随喜功德品第十八				
第10回	法師功德品第十九・常不輕菩薩品第二十				
第11回	如来神力品第二十一・属累品第二十二				
第12回	薬王菩薩本事品第二十三・妙音菩薩品第二十四				
第13回	観世音菩薩普門品第二十五・陀羅尼品第二十六				
第14回	妙莊嚴王本事品第二十七・普賢菩薩勸発品第二十八				
第15回	法華経全体のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公著(大蔵出版)1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
講義内容の関係から前期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		専門基礎科目		
講義名	[06539] 日蓮聖人伝				
期 間	後期（15回）	単位数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人に関わる研究は「日蓮教学史」「日蓮教団史」の分野はもとより、昨今では「仏教学」や「日本史学」、または「仏教思想史」や「日本仏教史」など、様々な分野から深められています。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、これら各分野の最新の研究成果をもとに「日蓮聖人の生涯」について、その「行動」と「思想」の両面から探究していきます。本授業を受講することにより、受講生は伝承に偏ることのない、史実に基づいた「日蓮聖人像」を構築します。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
日蓮聖人伝の基礎資料は、聖人が書き遺された「御遺文」になります。本授業では担当教員の長きにわたる研究成果を基とした新知見により、日蓮聖人の生涯に関する内容を再構築し、項目ごとに並べた当該「御遺文」を紹介しながら、受講者の理解度を深めていきます。加えて種々の日蓮聖人伝関連書籍を適宜提示しながら、宗学に対する基本的素養を高めていきます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学修では、授業ごとに該当する御遺文の予習を行うこと。事後の学修では、授業中に提示した御遺文及び関連書籍を基として「まとめノート」の作成を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
中間レポート（30%）、学力確認テスト（70%）により総合評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	誕生・清澄登山と出家				
第3回	諸宗遊学・立教開宗				
第4回	清澄退出・鎌倉弘通				
第5回	『立正安国論』上呈・松葉谷法難				
第6回	伊豆流罪				
第7回	小松原法難				
第8回	鎌倉での布教・蒙古の国書				
第9回	良観房忍性との対決・龍口法難				
第10回	佐渡流罪～『開目抄』執筆				
第11回	『観心本尊抄』執筆～佐渡赦免				
第12回	頼綱との対談～身延入山				
第13回	身延での生活・檀越の苦悩				
第14回	身延離山～入滅				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：適宜、配布する。参考書：『日蓮とその弟子』宮崎英修著（毎日新聞社）1971年、『日蓮とその門弟；再版』高木豊著（弘文堂新社）1968年、『日蓮：その行動と思想；増補改訂』高木豊著（太田出版）2002年、『日蓮』中尾堯著（吉川弘文館）2001年、『日蓮と鎌倉文化』川添昭二著（平樂寺書店）2002年、『法華の行者日蓮』佐々木馨編（吉川弘文館）2004年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 授業中に指示した各関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。そのため受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		専門基礎科目		
講義名	[06540] 中国仏教史				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン	kim byung kon	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
一世紀頃にシルクロードを通して中国に伝わった仏教は、儒教や道教と対立・融合しながら受容され、支謙・竺法護・鳩摩羅什といった訳経僧に加え、法顕・玄奘など求法僧の活躍により多くの仏典が漢訳され、その後、三論・天台・三階教・法相・律・華嚴・密教・浄土教・禅など各宗派・学派の形成により、中国仏教という独自の宗教思想が展開されるようになる。本講義は、仏教の中国における歴史的展開の理解に努めるものである。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
中国仏教の歴史的な展開について理解することができ、日本仏教との関係性の中で、その独自性についての私見を深めることができる。中国仏教を中心とする東西の仏教事情について理解することができ、これまでの仏教思想の推移とこれからの仏教学の進展についての素養を身につけることができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	初期の仏教				
第3回	羅什及び南北朝の仏教				
第4回	羅什及び南北朝の仏教				
第5回	羅什及び南北朝の仏教				
第6回	隋唐時代				
第7回	隋唐時代				
第8回	隋唐時代				
第9回	隋唐時代				
第10回	隋唐時代				
第11回	隋唐時代				
第12回	宋代以後の仏教				
第13回	宋代以後の仏教				
第14回	朝鮮半島（海東）の仏教				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『インド・中国・日本仏教通史 [新版]』平川彰著（春秋社）2006年。参考書：『新中国仏教史』鎌田茂雄著（大東出版社）2001年、『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎；2 中国・日本編 [改訂版]』大正大学仏教学科編（大正大学出版会）2016年、『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017年。辞書・事典類：『中国仏教史辞典』鎌田茂雄編（東京堂出版）1981年、『世界宗教百科事典』世界宗教百科事典編集委員会編（丸善出版）2012年、『仏教の事典』末木文美士他編集（朝倉書店）2014年。その他、授業中に適宜資料を配付する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
2007年より(社)法華弘通会(大韓民国)の奨学研究員として研究を行う。仏教学研究に対する姿勢について示教していく。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		専門基礎科目		
講義名	[06542] 宗学概論（日蓮思想の基礎知識）				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
宗学とは何か、宗学を学ぶ意義を確認し、宗学の基本事項となる五義や三大秘法などの教義を概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
宗学とは何であるか、その意義を認識し、宗学の内容を体系的に理解し自分の言葉で説明することができる力を身につけ、自らが主体的に実践していく素地を築くことを、本授業の目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
先師の法華経観・五義・一念三千・三大秘法などの宗学の基本事項を体系的に学修する。毎回課題を提示し、学生が発表をおこなう。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
試験(80%)、平常点(20%)。平常点はリアクションペーパーの内容、授業内における質問等によって評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	宗学概論の意義				
第2回	宗祖 その1				
第3回	宗祖 その2				
第4回	体系（相承）				
第5回	五義 その1				
第6回	五義 その2				
第7回	三大秘法 その1				
第8回	三大秘法 その2				
第9回	信行				
第10回	成仏				
第11回	靈山往詣				
第12回	撰折				
第13回	祈祷				
第14回	僧俗				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：なし。参考書：『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編(日蓮宗新聞社)1989年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2003年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編(東京堂出版)1981年等。その他、授業の中で紹介していきます。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
「日蓮学入門」を受講し、しっかり理解した上で併せて受講することを望みます。自分なりにまとめてわかりやすいノートを作成し、授業内で理解できない事柄は必ず図書館などで納得できるまで調べて下さい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日 1 時限目と水曜日 2 時限目					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06710] 観心本尊抄概説				
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人遺文の中で最も重要とされている『観心本尊抄』の概要について学修します。真蹟・写本・対告者・述作由来・題号・署名・構成・遺文中の位置・末註・概要など、『観心本尊抄』の基本的事項について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、法開頭の書とされている『観心本尊抄』の概要を総合的に理解することにより、日蓮教学における『観心本尊抄』の位置づけと重要性を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
『観心本尊抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト(80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	『観心本尊抄』の真蹟・写本				
第2回	『観心本尊抄』の述作地				
第3回	『観心本尊抄』の述作年・聖寿				
第4回	『観心本尊抄』の対告者				
第5回	『観心本尊抄』の述作由来 1 ー外的理由ー				
第6回	『観心本尊抄』の述作由来 2 ー内的理由ー				
第7回	『観心本尊抄』の題号				
第8回	『観心本尊抄』の署名				
第9回	『観心本尊抄』の構成				
第10回	『観心本尊抄』の遺文中の位置				
第11回	『観心本尊抄』の末註				
第12回	『観心本尊抄』の概要 1				
第13回	『観心本尊抄』の概要 2				
第14回	『観心本尊抄』の概要 3				
第15回	観心本尊抄概説のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)1988年。参考書：『観心本尊抄・仏典講座38』浅井円道著(大蔵出版)1982年、『本尊抄講讃』上・中・下 茂田井教亨述(山喜房佛書林)1987年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業内容の関係から後期の「観心本尊抄講読」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06711] 観心本尊抄講読				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人遺文の中で最も重要とされている『観心本尊抄』の講読をとおして、観心・十界互具・一念三千などの日蓮教学の基本的事項について学修します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、『観心本尊抄』を講読することにより、『観心本尊抄』の内容を体系的に理解し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
『観心本尊抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト(80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	摩訶止観結成理境の文				
第2回	一念三千の名目出处				
第3回	天台大師の功績と末学の無知				
第4回	教門と観門の難信難解				
第5回	草木国土と色心因果				
第6回	観心の心				
第7回	十界互具の証文 1				
第8回	十界互具の証文 2				
第9回	十界互具の難信 1				
第10回	十界互具の難信 2				
第11回	十界互具の事実 1				
第12回	十界互具の事実 2				
第13回	十界互具の現証 1				
第14回	十界互具の現証 2				
第15回	観心本尊抄講読のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)1988年。参考書：『観心本尊抄・仏典講座38』浅井円道著(大蔵出版)1982年、『本尊抄講讀』上・中・下 茂田井教亨述(山喜房佛書林)1987年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業内容の関係から前期の「観心本尊抄概説」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06756] 宗史特講				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
現代社会の問題を仏教思想・法華思想・日蓮聖人の思想に基づいて考察する応用力を養う。本講義では特に五大部の一つ『撰時抄』の講読を行う。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義と「宗学特講」を受講することにより五大部すべての講読を行ったこととなり、聖人の思想の変遷を理解する。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
様々な資料（遺文）を提示しながら、受講生が遺文を講読しその内容を確認しつつ授業を進める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修として資料の語句調べ、並びに内容把握（120分以上）。事後学修として内容についての読み直し、および理解の整理、ノート作り（120分以上）。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業に取り組む姿勢（事前・事後学修を含む）50%と課題レポート50%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション				
第2回	『撰時抄』 解題				
第3回	『撰時抄』 講読(1)				
第4回	『撰時抄』 講読(2)				
第5回	『撰時抄』 講読(3)				
第6回	『撰時抄』 講読(4)				
第7回	『撰時抄』 講読(5)				
第8回	『撰時抄』 講読(6)				
第9回	『撰時抄』 講読(7)				
第10回	『撰時抄』 講読(8)				
第11回	『撰時抄』 講読(9)				
第12回	『撰時抄』 講読(10)				
第13回	『撰時抄』 講読(11)				
第14回	『撰時抄』 講読(12)				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書：『昭和定本日蓮聖人遺文』（身延山久遠寺）1954年 / 『平成新脩日蓮聖人遺文集』米田淳雄（地人館）1995年 / 『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年 / 『妙法蓮華経開結』法華経普及会（平楽寺書店）1924年ほか。授業の中で適宜紹介していく。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
『撰時抄』は大部である。集中力を切らさず、意欲的な受講姿勢を望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06757] 宗史特講				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
現代社会の問題を仏教思想・法華思想・日蓮聖人の思想に基づいて考察する応用力を養う。本講義では特に五大部の一つ『報恩抄』の講読を行う。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義と「宗史特講」を受講することにより五大部すべての講読を行ったこととなり、聖人の思想の変遷を理解する。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
様々な資料（遺文）を提示しながら、受講生が遺文を講読しその内容を確認しつつ授業を進める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修として事前に知らされる講義内容を予習し問題点を探る（120分以上）。事後学修として学修した部分をノートなどにまとめ理解不十分な点を探る（120分以上）。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業参加を中心とした受講姿勢50%とレポート50%で総合的に評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション				
第2回	『報恩抄』 解題				
第3回	『報恩抄』 講読(1)				
第4回	『報恩抄』 講読(2)				
第5回	『報恩抄』 講読(3)				
第6回	『報恩抄』 講読(4)				
第7回	『報恩抄』 講読(5)				
第8回	『報恩抄』 講読(6)				
第9回	『報恩抄』 講読(7)				
第10回	『報恩抄』 講読(8)				
第11回	『報恩抄』 講読(9)				
第12回	『報恩抄』 講読(10)				
第13回	『報恩抄』 講読(11)				
第14回	『報恩抄』 講読(12)				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書：『昭和定本日蓮聖人遺文』（身延山久遠寺）1954年 / 『平成新脩日蓮聖人遺文集』米田淳雄（地人館）1995年 / 『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年 / 『妙法蓮華経開結』法華経普及会（平楽寺書店）1924年ほか。授業の中で適宜紹介していく。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
『報恩抄』は大部である。集中力を切らさず、意欲的な受講姿勢を望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目	
講義名	[06758] 宗学特講			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
近代以降の仏教諸宗派の動向を見ると、日蓮系の仏教運動が最も目立った展開を見せたと言っても過言ではありません。近代においては、日蓮の影響を自認する多彩な人物たちが社会・政治の領域で力を持ち、また民衆文化においても大きな影響を与えました。しかし一方で、そうした近代の日蓮仏教運動は、総括・評価の難しい面もあります。そこで本授業では、近代における日蓮の仏教の展開を受講生の皆さんと一緒に検討していくことを目的とします。本授業によって受講生は、日蓮思想の広がり多様性、そして近代という時代について理解を深め知識を得ることができるでしょう。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
近代における日蓮思想の展開について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。				
<b>【授業外学習の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（ノート持ち込み可の自由論述形式を予定。50%）により、総合的に評価を行ないます。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	ガイダンス			
第2回	明治以降の日蓮門下の流れ			
第3回	文献学と民衆信仰：小川泰堂			
第4回	教学革新の試み：優陀那日輝			
第5回	国柱会概論（1）：その成立と展開			
第6回	国柱会概論（2）：田中智学の活動			
第7回	本多日生の活動			
第8回	内村鑑三『代表的日本人』の日蓮観			
第9回	日蓮主義と文学（1）：高山樗牛			
第10回	日蓮主義と文学（2）：宮沢賢治			
第11回	国家主義との関わり：北一輝・石原莞爾			
第12回	近代の日蓮研究：山川智応・姉崎正治			
第13回	日蓮系新宗教（1）：その台頭			
第14回	日蓮系新宗教（2）：その展開			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：レジュメをもって代替とする。				
参考書：田村芳朗・宮崎英修編『講座日蓮4（日本近代と日蓮主義）』（春秋社、1972）				
大谷栄一『近代日本の日蓮主義運動』（法蔵館、2001）				
西山茂編『シリーズ日蓮4 近現代の法華運動と在家教団』（春秋社、2014）				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）				

**【実務経験】**

日蓮宗布教研修所で講師担当。社会に還元や貢献のできる日蓮思想の学びを志向します。

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			日蓮教学系科目
講義名	[06760] 日蓮教団史			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日蓮聖人入滅から近代までの日蓮教団の展開について講義していく。DVD・ビデオといった映像資料や画像資料も活用する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
日蓮教団と他教団を比較することにより、日蓮教団の歴史と特徴を理解してもらうことを到達目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
具体的な教団史関係の史料を紹介しつつ、授業を進める。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修120分 該当するテキストの部分を読んでおくこと。 事後学修120分 授業で学習した主な用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト10%、小テスト60%、授業に取り組む姿勢30%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業の概要 中世・近世・近代における日蓮教団の動向			
第2回	六老僧			
第3回	門流の成立			
第4回	日蓮宗の京都進出			
第5回	東国から上洛と寛正の盟約			
第6回	天文法難			
第7回	西国・東国への展開			
第8回	日親の諫暁と永祿の規約			
第9回	安土宗論			
第10回	受・不受の論争			
第11回	檀林教育と仏教書の出版			
第12回	祖師信仰と霊場参詣			
第13回	明治維新と廃仏毀釈			
第14回	在家仏教運動と大正・昭和期の日蓮宗			
第15回	全体のまとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書 『仏教の教え』 改訂版 日蓮宗テキスト編集委員会（日蓮宗宗務院刊） 参考書 『日蓮宗布教の研究』 影山堯雄（平楽寺書店）、『日親・日興』 北村行遠・寺尾英智（吉川弘文館）、『禁制不受不施派の研究』 宮崎英修（平楽寺書店）、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』 望月真澄（平楽寺書店）				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
小テストを随時実施するので授業に欠席しないこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業内容に関する質問等があれば授業の開始前・終了後に教室、研究室で対応する。				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師の資格あり。				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			日蓮教学系科目
講義名	[06761] 日蓮教学史			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	--
担当者	都守 基一	ツモリ キイチ	tsumori kiichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日蓮聖人以降の先師たちが、日蓮聖人の教学をどのように受容したかを概説していく。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
日蓮聖人以降の先師たちが、日蓮聖人の教学をどのように受容したかを理解すること、これが本授業の目標である。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義によって授業を進める。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学習120分 テキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学習120分 テキストを読み直し、ノートをまとめる。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
期末レポート80%、授業への取り組み姿勢20%で評価する。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	日蓮教学史を学ぶ意義			
第2回	日蓮教団史の概要			
第3回	日蓮聖人直弟の教学			
第4回	五一相対と本迹論			
第5回	中山門流の教学			
第6回	四条門流の教学			
第7回	日朝と身延門流の教学			
第8回	浜門流・六条門流の教学			
第9回	日什門流の教学			
第10回	日陣門流の教学			
第11回	日隆門流の教学			
第12回	日真門流の教学			
第13回	室町期富士門流の教学			
第14回	江戸初期の教学			
第15回	江戸後期の教学			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：執行海秀『日蓮宗教学史』平楽寺書店。参考書：執行海秀『日蓮宗信仰の種々相』教育新潮社、望月歓厚『日蓮宗宗学説史』平楽寺書店、立正大学日蓮教学研究所編『日蓮宗読本』、平楽寺書店日蓮宗事典刊行委員会編『日蓮宗事典』日蓮宗宗務院。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
積極的な講義参加を望む。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業時間の前後に教室にて受け付ける。				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師・日蓮仏教研究所主任				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06762] 日蓮聖人真蹟研究				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人の思想・行動などを究明する基本的な資料は、聖人が書き遺した遺文（著書・書状など）である。聖人の自筆 遺文(真蹟)は数多く伝わっており、これらを多角的に考察する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義を受講することによって遺文の中で真蹟の持つ意味を明らかにし、併せて真蹟そのものに親しむことにより、より深く遺文を理解することができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
日蓮聖人真蹟書状を写真版によって講読する。二紙程度の短文の書状や長文の書状と講読する。真蹟の書写などの課題を通し、日蓮聖人の「くずし字」を習得する。またタブレット端末を使用し、視覚的にも理解を深める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修として配付される資料を熟読し、解らない文字についてチェックを行うこと（120分以上）。事後学修として配付された活字資料を基に筆跡などを熟知すること（120分以上）。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学期末レポート50%、中間レポート20%、課題に対する評価30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	日蓮聖人真蹟の種類と内容				
第2回	料紙の使用法と書状の特徴				
第3回	著作と消息（手紙）についての検討				
第4回	図録・要文・書写本についての検討				
第5回	新発見の日蓮聖人真筆遺文について				
第6回	真蹟書状『富木殿御書』の解題と講読（1紙、『昭和定本日蓮聖人遺文』809頁）				
第7回	真蹟書状『五人土籠御書』の解題（2紙、同506頁）(その1)				
第8回	真蹟書状『五人土籠御書』の講読(その2)				
第9回	真蹟書状『御衣并単衣御書』の解題（4紙、同1111頁）(その1)				
第10回	真蹟書状『御衣并単衣御書』の講読(その2)				
第11回	真蹟書状『御衣并単衣御書』の講読(その3)				
第12回	真蹟書状『国府尼御前御書』の解題（7紙、同1062頁）(その1)				
第13回	真蹟書状『国府尼御前御書』の講読(その2)				
第14回	真蹟書状『国府尼御前御書』の講読(その3)				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：講読する日蓮聖人真蹟書状については、写真版のプリントを用意する。参考書：『仏教古文書字典』川澄勲編(山喜房仏書林)、『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』寺尾英智(雄山閣出版)、『ご真蹟にふれる』中尾堯(日蓮宗新聞社)、『日蓮聖人真蹟集成』全10巻(法蔵館)、『日蓮聖人書体字典』松本慈恵編(国書刊行会)、『日蓮聖人真蹟の世界』上・下、山中喜八(雄山閣出版)、『日蓮大聖人御真蹟対照録』全3巻、立正安国会編(立正安国会)。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
講読にあたっては受講生を順次指名するので、積極的な予習・復習が望まれる。講読の順序は変更する場合もある。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06763] 日蓮宗の歴史資料				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮教団史の史料、特に宗門関係古文書に親しみ基礎的な史料読解力をつけることを目的とする。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義を受講することにより、近世日蓮教団が為政者（幕府）より課せられた宗教統制や当時の寺院と民衆との関係、さらに社会情勢を理解することができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
史料を読解して内容を理解するためには、さまざまな辞典や参考文献を駆使して「調べる」ことが必要となる。受講生諸君にテキストの各部分を割り当てて順次発表してもらい、割り当て部分の発表は必須である。視聴覚教材を用い、一部タブレット端末等を使用して双方向授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。内容としては、あらかじめ配布したプリント並びに指示した参考書は必ず読んでおくこと（事前）。受講後は講読した古文書についてまとめノートを作成すること（事後）。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学期末レポート70%、授業及び課題に対する取り組み姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	日蓮教団史の参考文献				
第2回	「宗門改」関係書状 概説				
第3回	「宗門改」関係書状 講読（その1）				
第4回	同上（その2）				
第5回	同上（その3）				
第6回	同上（その4）				
第7回	同上（その5）				
第8回	同上（その6）				
第9回	同上（その7）				
第10回	同上（その8）				
第11回	同上（その9）				
第12回	同上（その10）				
第13回	「宗門改」と日蓮宗				
第14回	「縁付」と「寺送」に対する日蓮宗寺院の対応				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：事前にプリントを用意する。参考書：『日蓮宗の成立と展開』中尾堯(吉川弘文館)、『日蓮教団全史上』立正大学日蓮教学研究所編(平楽寺書店)など。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
割り当て部分の発表・講読が必須である。各講義終了前に要点を述べるので、その要点に基づいた積極的な予習・復習を希望する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員 日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06764] 立正安国論概説				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	--	
担当者	都守 基一		ツモリ キイチ	tsumori kiichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人著作の中で三大部の一つと数えられている立正安国論は、時の為政者へ建白された論述書である。日蓮聖人生涯の中で諸御書に言及され、書写されたことが知られている。法華經の行者日蓮聖人の宗教を理解するために、立正安国論が必須であることを概説してゆく。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
法華經の行者日蓮聖人の宗教を理解するために、立正安国論が必須であることを学び理解する、これが本授業の目標である。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
日蓮聖人がなぜ立正安国論を執筆されたのか。時代背景と宗教的環境等を考察し、日蓮聖人にとっての「立正安国」を学び、現代における立正安国とは、を課題としてゆきたい。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 事前学習は、あらかじめ指示された資料や文献を読んでおく。 事後学習は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末レポート60%、授業への取り組み姿勢40%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	立正安国論が書かれた時代背景				
第2回	日蓮聖人思想の中の立正安国論				
第3回	立正安国論真跡の考究				
第4回	題号?立正とは				
第5回	題号?安国とは				
第6回	問答体による内容 災難の原因				
第7回	問答体による内容 謗法の現状				
第8回	問答体による内容 災難の対治				
第9回	問答体による内容 謗法の禁断				
第10回	問答体による内容 正法への帰依				
第11回	問答体による内容 娑婆即寂光土				
第12回	問答体による内容 宗教と国家・仏法と王法				
第13回	立正安国論の建白とその後				
第14回	破邪顕正				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：『立正安国論』日蓮宗宗務院伝道部編（日蓮宗新聞社）2005年 参考書は春秋社発行『日蓮聖人全集』第一巻、『日蓮聖人御遺文講義』第一巻などがある。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
立正安国論を学ばずして日蓮聖人を語ることはできない。その思いをもって、難解を厭わずチャレンジしてほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業時間の前後に教室にて受け付ける。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師・日蓮仏教研究所主任					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			日蓮教学系科目
講義名	[06765] 立正安国論講読			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	--
担当者	都守 基一	ツモリ キイチ		tsumori kiichi
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
立正安国論は、日蓮聖人の思想・信仰の出発点であり帰結でもある。旅客と主人との問答を進める内容から、日蓮聖人の主張を概説する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
日蓮聖人の思想・信仰の出発点であり帰結でもある立正安国論における旅客と主人との問答を進める内容から、日蓮聖人の主張を理解することが本授業の目標である。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
立正安国論を読むこと。わかりやすい書き下し文の冊子をテキストに内容を理解しやすいように進めたい。また真跡影写本を部分的に読む試みも体験し、御遺文に親しむ学習の契機としたい。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 事前学習は、あらかじめ指示された資料や文献を読んでおく。 事後学習は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
期末レポート60%、授業への取り組み姿勢40%で評価する。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	第一問答から順次、受講生の輪読を進める			
第2回	同上			
第3回	立正安国論真蹟を読む			
第4回	問答体について			
第5回	引用經典の解説			
第6回	同上			
第7回	七難中の他国侵逼と自界叛逆の二難について			
第8回	法然の浄土教「選択集」について			
第9回	同上			
第10回	捨閉閻抛について			
第11回	謗法について			
第12回	「汝早く信仰の寸心を改めよ」について			
第13回	「実乗の一善」について			
第14回	三界仏国、即身成仏			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『立正安国論』日蓮宗宗務院伝道部編（日蓮宗新聞社）2005年。参考書は春秋社発行『日蓮聖人全集』第一巻、『日蓮聖人御遺文講義』第一巻 山喜房発行『傍註立正安国論通解』などがある。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
御遺文に近づくこと、そのために読み慣れること、くりかえし読み、読解力が身につくよう、予習と復習を怠らず、講義に欠席せぬようにつとめよう。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業時間の前後に教室にて受け付ける。				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師・日蓮仏教研究所主任				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06766] 教化学				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	桑名 貴正		クワナ カンショウ	kuwana kansyo	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
<p>教化とは衆生に教えを説き仏道に導き、利益を与えることであるが、その教化方法には随自意・随他意・四悉檀等が見られる。また釈尊の悟り内容は三時説の重視に従い、布教上の展開において異なりが見られる。これらの教化上の諸問題について概説します。</p>					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
<p>教化学とは、教学を基として布教現場に活かす学問であり、布教現場に立脚した教学のあり方を論理的に考察する学問である。具体的には、釈尊・『法華経』・日蓮聖人の教法を現代に活かし、人々を覚知へと導くための方策を探ることにある。</p>					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
<p>キーワードを挙げ、講義資料を読みながら、その言葉・項目について詳説し、質問をしながら、問題点について共に考えていく。</p>					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
<p>この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。</p>					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
<p>期末レポート（50%）。授業参加の状況と受講態度も重視する（50%）。</p>					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	イントロダクション：教化学について				
第2回	釈尊の出自と釈尊の教化方法 その1				
第3回	釈尊の教化法 その2				
第4回	釈尊の教化法 その3				
第5回	釈尊の教化法 その4				
第6回	一仏乗の思想について				
第7回	法華経の譬喩について				
第8回	中国仏教における布教展開 その1				
第9回	中国仏教における布教展開 その2				
第10回	日本仏教における布教展開 その1				
第11回	日本仏教における布教展開 その2				
第12回	日蓮聖人における布教展開 その1				
第13回	日蓮聖人における布教展開 その2				
第14回	日蓮聖人における布教展開 その3				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
<p>テキストは当方で用意して配布する。参考書：『教化学概論ノート』浜島典彦著（ミック刊）2004年。</p>					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
<p>教化学に関する総合的理解を得るために、配付資料に基づいて復習し、また次回の講義資料も毎回配布するのでしっかり予習して授業に臨むこと。</p>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
<p>毎週授業の前後に教室にて受け付けます。</p>					
<b>【実務経験】</b>					
<p>宗教法人妙法寺代表役員</p>					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[06767] 教化学				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	桑名 貴正		クワナ カンショウ	kuwana kansyo	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
<p>教化とは衆生に教えを説き仏道に導き、利益を与えることであるが、その教化方法には随自意・随他意・四悉檀等が見られる。また釈尊の悟り内容は三時説の重視に従い、布教上の展開において異なりが見られる。これらの教化上の諸問題について概説します。</p>					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
<p>教化学とは、教学を基として布教現場に活かす学問であり、布教現場に立脚した教学のあり方を論理的に考察する学問である。具体的には、釈尊・『法華経』・日蓮聖人の教法を現代に活かし、人々を覚知へと導くための方策を探ることにある。</p>					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
<p>キーワードを挙げ、講義資料を読みながら、その言葉・項目について詳説し、質問をしながら、問題点について共に考えていく。</p>					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
<p>この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。</p>					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
<p>期末レポート（50％）。授業参加の状況と受講態度も重視する（50％）。</p>					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	イントロダクション：教化学について				
第2回	釈尊の出自と釈尊の教化方法 その1				
第3回	釈尊の教化法 その2				
第4回	釈尊の教化法 その3				
第5回	釈尊の教化法 その4				
第6回	一仏乗の思想について				
第7回	法華経の譬喩について				
第8回	中国仏教における布教展開 その1				
第9回	中国仏教における布教展開 その2				
第10回	日本仏教における布教展開 その1				
第11回	日本仏教における布教展開 その2				
第12回	日蓮聖人における布教展開 その1				
第13回	日蓮聖人における布教展開 その2				
第14回	日蓮聖人における布教展開 その3				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
<p>テキストは当方で用意して配布する。参考書：『教化学概論ノート』浜島典彦著（ミック刊）2004年。</p>					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
<p>教化学に関する総合的理解を得るために、配付資料に基づいて復習し、また次回の講義資料も毎回配布するのでしっかり予習して授業に臨むこと。</p>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
<p>毎週授業の前後に教室にて受け付けます。</p>					
<b>【実務経験】</b>					
<p>宗教法人妙法寺代表役員</p>					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			日蓮教学系科目
講義名	[99999] 開目抄概説			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	--
担当者	庵谷 行亨	オオタニ ギョウコウ		otani gyoko
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日蓮聖人遺文の中で『観心本尊抄』と共に重要とされている『開目抄』の概要について学修します。真蹟・写本・述作年代・述作地・対告者・遺文上の位置・述作由来・題号・構成・概要など、『開目抄』の基本的事項について概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本授業では、人開頭の書とされている『開目抄』の概要を総合的に理解することにより、日蓮教学における『開目抄』の位置づけと重要性を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
『開目抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト(80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	『開目抄』の真蹟・写本			
第2回	『開目抄』の述作年代・述作地			
第3回	『開目抄』の対告者・聖寿			
第4回	『開目抄』の遺文上の位置			
第5回	『開目抄』の述作由来 1			
第6回	『開目抄』の述作由来 2			
第7回	『開目抄』の述作由来 3			
第8回	『開目抄』の述作由来 4			
第9回	『開目抄』の題号			
第10回	『開目抄』の構成			
第11回	『開目抄』の末註			
第12回	『開目抄』の概要 1			
第13回	『開目抄』の概要 2			
第14回	『開目抄』の概要 3			
第15回	開目抄概説のまとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)1988年。参考書：『日本の仏典9 日蓮』小松邦彰・渡辺宝陽著(筑摩書房)1988年。『開目抄講讀』上・下 茂田井教亨述(山喜房佛書林)1988年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
授業内容の関係から後期の「開目抄講讀」と併せて受講することを望みます。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗宗長寺代表役員				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			日蓮教学系科目
講義名	[99999] 開目抄講読			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	--
担当者	庵谷 行亨	オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日蓮聖人遺文の中で『観心本尊抄』と共に重要とされている『開目抄』の講読をとおして、三徳と三道・儒家の教え・外道の教え・仏教の教え・文底の一念三千・十界互具などの日蓮教学の基本的事項について学修します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本授業では、『開目抄』を講読することにより、『開目抄』の内容を体系的に理解し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
『開目抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト(80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	三徳と三道			
第2回	儒家の教え			
第3回	外道の教え			
第4回	仏教の教え			
第5回	文底の一念三千			
第6回	十界互具の法門			
第7回	諸宗の誤り			
第8回	諸宗の中国渡来			
第9回	法相宗			
第10回	真言宗			
第11回	華嚴宗			
第12回	日本の仏教			
第13回	法華経の二大思想			
第14回	二乗の成仏			
第15回	開目抄講読のまとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)1988年。参考書：『日本の仏典9 日蓮』小松邦彰・渡辺宝陽著(筑摩書房)1988年。『開目抄講讀』上・下 茂田井教亨述(山喜房佛書林)1988年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
講義内容の関係から前期の「開目抄概説」と併せて受講することを望みます。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗宗長寺代表役員				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		日蓮教学系科目		
講義名	[99999] 宗学特講				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人の思想は単に知識として学べば良いだけでなく、それを現実の社会問題の解決や改善に活かすという実践が求められます。本授業では日蓮聖人の思想を活かし、どのように現代に生きる我々が抱える諸問題を考えていくべきかを、受講生の皆さんと一緒に考えていくものです。将来皆さんが、本学で学んだ日蓮聖人の精神を社会に還元していくにあたり、その一助となるような授業にしていきたいと思えます。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日蓮教学に立脚して現代を捉える上で、基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業の最後に次回のテーマを指示するので、それについて自分なりの意見をまとめておいてください。そして翌週、その意見を発表してもらいます。そして講師の補足説明を加えた上で、テーマについて自由にディスカッションをします。ディスカッション後、リアクションペーパーを配布し、学べたことや感想等を記入してもらいます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
授業での意見発表やディスカッションに備え、事前に参考書等で調べ物をするを推奨する。授業後は授業内で学べたことについて、自分なりにノート等に整理しておくこと。授業時間以外に毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修をすること。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業での参画（発言やリアクションペーパーなどで評価、70%）と、学期末の試験（各人興味のあるテーマについて、ノート持ち込み可の自由論述を予定。30%）で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	現代における日蓮思想の親和性と異質性				
第3回	宗教間の衝突をめぐる問題				
第4回	宗教観の衝突をめぐる問題				
第5回	「宗教離れ」の問題				
第6回	「宗教離れ」の問題				
第7回	政治と宗教				
第8回	政治と宗教				
第9回	環境問題				
第10回	生命倫理				
第11回	生命倫理				
第12回	ジェンダー問題				
第13回	高齢化社会問題				
第14回	現代における日蓮思想の有効性				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：レジュメ等を使用。参考書：『日蓮聖人の教えと現代社会』庵谷行亨著(山喜房佛書林)1993年、『法華信仰の道』庵谷行亨著(日蓮宗新聞社)1998年、『日蓮聖人の教え』庵谷行亨著(山喜房佛書林)2012年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
ディスカッション主体の授業にしていきたいので、受講生の皆さんが主体的に問題意識を持つことが求められます。自由に発言がしやすい場となるよう、最大限に努めます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗布教研修所で講師担当。社会に還元や貢献のできる日蓮思想の学びを志向します。					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				宗教学系科目		
講義名	[06832] 宗教と民俗						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
宗教は民俗（古くから民間社会に根づいてきた風習・習慣）に影響を与え、また同時に民俗は宗教に影響を与えています。このように「宗教と民俗」という切り離せない関係にある二つのトピックを主軸とし、本授業では仏教を始めとする世界の多様な信仰、日本を始めとする各国の文化について理解を深めることを目的とします。本授業を受講することにより、受講生は諸宗教および様々な文化伝統への理解を深め知識を得ることができるでしょう。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
宗教と民俗について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（50%）により、総合的に評価を行ないます。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	インドの民俗						
第3回	仏教とフォークロア						
第4回	仏教と美術						
第5回	神仏習合（1）：その理論と文化						
第6回	神仏習合（2）：祖師たちと神祇信仰						
第7回	葬式の諸相（1）：インド、中国						
第8回	葬式の諸相（2）：日本の葬式仏教						
第9回	お盆の諸相（1）：その由来・意味と風習						
第10回	お盆の諸相（2）：日蓮遺文『盂蘭盆御書』講読						
第11回	日蓮遺文に見る民俗						
第12回	世界宗教と民俗：キリスト教、イスラム教の事例						
第13回	隠れキリシタンの文化						
第14回	南方熊楠の視座						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』（吉川弘文館、2014）、蓑輪顕量『日本仏教史』（春秋社、2015）、南方熊楠『十二支考』（岩波文庫、1994）							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				宗教学系科目		
講義名	[99999] 世界宗教史						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
<p>本学は基本的に日蓮聖人を中心とする仏教の修学を主とするものですが、その理解を深めるためにも、また現代世界の趨勢を知るためにも、世界における宗教の知識と歴史を身につけておくことが必要になります。そこで本講義では、世界の宗教について学びます。前期では、世界でも多くの信者を有する一神教のユダヤ教・イスラム教を中心に取り上げます（キリスト教は後期「キリスト教史」で扱う）。</p>							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
世界の諸宗教について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
<p>教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。</p>							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
<p>この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。</p>							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
<p>授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（ノート持ち込み可の自由論述形式を予定。50%）により、総合的に評価を行ないます。</p>							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	ユダヤ教 : 概論						
第3回	ユダヤ教 : 国家形成からバビロン捕囚まで						
第4回	ユダヤ教 : ヘレニズム文化以降						
第5回	ユダヤ教 : ラビ・ユダヤ教の時代						
第6回	東洋の宗教: ヒンドゥー教と仏教など						
第7回	イスラム教 : 概論						
第8回	イスラム教 : ムハンマドの登場						
第9回	イスラム教 : イスラム世界の確立						
第10回	イスラム教 : スンナ派とシーア派						
第11回	イスラム教 : スーフィズム						
第12回	世界各地の宗教: ゾロアスター教、マニ教など						
第13回	イスラム教 : イスラム世界の拡大化と近代化						
第14回	イスラム教 : イスラム世界の拡大化と近代化（承前）						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
<p>教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：市川裕『宗教の世界史7ユダヤ教の歴史』2009、佐藤次高『宗教の世界史11イスラムの歴史1』2010、小杉泰『宗教の世界史12イスラムの歴史2』2010。</p>							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
キリスト教については後期の「キリスト教史」で取り上げるので、併せて受講することが望ましい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			宗教学系科目
講義名	[99999] 現代宗教事情			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	金 炳坤	キム ビョンコン		kim byung kon
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
毎年「地域」と「宗教」を選択し集中して学修していく。今年は「韓国」の「仏教」がその対象になる。本授業では、韓（朝鮮）半島を中心として展開し、かつ中国、日本といった東アジアの仏教文化形成にも少なくない影響を与えてきた海東（朝鮮）仏教（Korean Buddhism）の歴史的展開並びにその特質（Koreanized Buddhism）について概説し、東アジア仏教研究のための海東仏教研究の意義と必要性を認識し、その理解を深めることを主眼とする。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
海東仏教の歴史と特質を学習し東アジア仏教研究に対する理解を深めることができる。受講者それぞれの研究意欲や課題設定のための視野を広げることができる。卒業論文に向けての研究の方法を習得し論文作成のためのスキルを高めることができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
毎回4時間程度の授業外学修が望めます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	ガイダンス、海東仏教通史			
第2回	同上			
第3回	中国仏教と日本仏教			
第4回	海東仏教と日本仏教			
第5回	朝鮮（韓国）仏教の特徴：歴史的背景、普遍性の自覚			
第6回	同上：韓国仏教の思想傾向			
第7回	現代にいたる思惟の諸特徴：序、人間結合の重視			
第8回	同上：個人崇拜の問題、呪術信仰、気概			
第9回	同上：現実的適応性、諸思想の対立と宥和			
第10回	同上：合理的思惟の問題、審美感の問題			
第11回	四国時代の仏教：高句麗、百濟、伽椰、新羅			
第12回	南北朝時代の仏教：統一新羅、渤海			
第13回	高麗時代の仏教			
第14回	朝鮮時代の仏教			
第15回	代の仏教、まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：授業中に適宜資料を配付する。参考書：『朝鮮仏教史の研究』江田俊雄（国書刊行会）1977年、『朝鮮仏教史』鎌田茂雄著（東京大学出版会）1987年、『チベット人・韓国人の思惟方法』中村元著（春秋社）1989年、『1900-1999韓国仏教100年：朝鮮・韓国仏教史図録』金光植編（皓星社）2014年、『韓国仏教史』金龍泰著・佐藤厚訳（春秋社）2017年、『はじめての韓国仏教：歴史と現在』佐藤厚著（佼成出版社）2019年。その他、授業中に適宜資料を配付する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			宗教学系科目
講義名	[99999] 世界の宗教思想			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	諏訪 是隆		スワ ゼリユウ	suwa zeryu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
世界の宗教・思想を概観することによって、視野を広げる目を養っていく。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本学においては、法華経、日蓮教学の理解・習得が基本目的とするが、他の宗教を学ぶことによって自身の宗教理解を深めことを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義によって授業を進めていくが、DVD鑑賞などを使い視覚的に理解を深めていく場合もある。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
日常生活の中で、常に宗教的な意義を考察する。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
出席。講義最終日にレポート提出。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	イントロダクション			
第2回	宗教と文化			
第3回	キリスト教の成立			
第4回	キリスト教と文化			
第5回	キリスト教と哲学			
第6回	世界の宗教			
第7回	世界の宗教			
第8回	仏教以前のインド思想			
第9回	仏教の成立			
第10回	法華経の成立意義			
第11回	中国在来思想			
第12回	中国仏教			
第13回	法華経の内容			
第14回	日蓮聖人と法華経			
第15回	レポート提出			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：特に指定はしない。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
宗教という枠組みを俯瞰的に見ることで、自身と宗教との関わり方が見えてくる。自分なりの宗教を語れるようになって欲しい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業の前後に教室にて対応します。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学科 開設科目	宗教学系科目

講義名	[99999] キリスト教史
-----	----------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	岡田 文弘	オカダ フミヒロ	okada fumihiro
-----	-------	----------	----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

キリスト教は周知の通り、現在の世界で最も多くの信者を有する巨大な宗教です。本学は基本的に日蓮聖人を中心とする仏教の修学を主とするものですが、その理解を深めるためにも、また現代社会の趨勢を知るためにも、キリスト教について学ぶことは必須といえましょう。そこで本講義ではキリスト教の歴史を学び、その基礎的な知識を身につけることをめざします。（前期「世界宗教史」の後続講義）

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

キリスト教の歴史について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（ノート持ち込み可の自由論述形式を予定。50%）により、総合的に評価を行ないます。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	ガイダンス
第2回	キリスト教前史
第3回	イエスと原始キリスト教
第4回	初期キリスト教
第5回	ローマ帝国とキリスト教
第6回	迫害の時代からコンスタンティヌス革命まで
第7回	十字軍の時代まで
第8回	宗教改革 : その起こり
第9回	宗教改革 : その展開
第10回	近代のキリスト教
第11回	近代のキリスト教
第12回	東方のキリスト教
第13回	東方のキリスト教
第14回	日本とキリスト教
第15回	まとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：松本宣郎『宗教の世界史8キリスト教の歴史1』2009、松本宣郎・高柳俊一『宗教の世界史9キリスト教の歴史2』2009、廣岡正久『宗教の世界史10キリスト教の歴史3』2018。

**【学生へのメッセージ】**

一神教（母体となるユダヤ教、関連の深いイスラム教）については前期の「世界宗教史」で扱うので、併せて受講することが望ましい。

**【オフィスアワー】**

水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）

**【実務経験】**

なし

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教学系科目		
講義名	[06946] サンスクリット語						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
講義形式の授業が中心となるが、練習問題を解くことは演習形式となる。実際のサンスクリット文献を読むための基礎力を養う。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
中期インドアリアン語に属する標準的なパーニニ文法に基づく名詞、代名詞、形容詞、数詞の変化と音韻の変化などの基礎を習得して、サンスクリット語仏典講読のための基礎力を養うことを目的とする。この講義では、音韻・連声・名詞・形容詞・数詞・代名詞の文法理解ができることを目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
テキストの文法解説を行いながら、テキストに掲載されている練習問題を解く。最初は教員が解答の解説を行うが、途中からは受講生が板書をして、自らその解を示す。専門言語はたいへん難しい！そのため、毎日欠かさず文法内容を反芻して、体に覚えこませるようにすること。受講後は特にホッとせずに、必ず文法書と練習問題を見直して、不明な箇所を残さないようにすること。受講前には、文法書の当該ページを必ず読み、理解できない箇所は必ず質問すること。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、次回のテキスト内容を熟読して、文法の理解に努めること。事後学修では、講義の練習問題を整理して、ノートを作成し、文法や発音のチェックを行うこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
実力診断試験60%（筆記試験、サンスクリット文の和訳と文法説明を付す）。授業での取組40%（練習問題にどれくらい真剣に取り組み、その内容を理解できたか）。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	サンスクリット語とは何か						
第2回	文字と発音						
第3回	文字と発音						
第4回	音の変化 - 母音の変化 -						
第5回	音の変化 - 内連声 -						
第6回	音の変化 - 外連声 -						
第7回	名詞・形容詞の変化 - 母音の活用 -						
第8回	名詞・形容詞の変化 - 母音の活用 -						
第9回	名詞・形容詞の変化 - 子音の活用 -						
第10回	名詞・形容詞の変化 - 子音の活用 -						
第11回	名詞・形容詞の変化 - 子音の活用 -						
第12回	代名詞の変化						
第13回	比較法と数詞の変化						
第14回	実力診断試験						
第15回	試験の解答と解説、全体の総括						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書は、『サンスクリット語初等文法』j.ゴンダ著、辻直四郎校閲、鑑淳訳(春秋社)。参考書は、『サンスクリット文法』辻直四郎著(岩波全書)、『新・サンスクリットの基礎』上・下、菅沼晃著(平河出版社)など。辞書は、『梵和大辞典』(講談社)など。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
原典研究を志すものは、最初でつまづかないように、特に欠席は厳に謹んでもらいたい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人智寂坊代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教学系科目		
講義名	[06947] サンスクリット語						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
講義形式の授業が中心となるが、練習問題を解くことは演習形式となる。実際のサンスクリット文献を読むための基礎力を養う。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
中期インドアリアン語に属する標準的なパーニニ文法に基づく動詞の変化と文章論などの基礎を習得して、サンスクリット語仏典講読のための基礎力を養うことを目的とする。具体的には、動詞の活用を理解して、標準的なサンスクリット文章（テキストの選文）を読むことができるようになることを目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
テキストによる練習問題を解きながら、該当する範囲の文法解説を行う。その後、テキスト末の練習問題と選文を和訳してゆく。サンスクリットは語学である。そのため、毎日欠かさず文法内容を反芻して、体に覚えこませるようにすること。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学修では、前回の内容を復習した上で当該授業の内容をシラバスで確認して、テキストの当該頁を熟読して文法の理解を行うこと。特に、ホームワークとして練習問題を課すことがあるので、課された問題は必ず説くようにすること。その折に、解らなかった文法や構文については、必ず次の授業時に質問して解決するようにしていただきたい。事後学修では、授業中の文法内容をよく理解できるように、ノート整理をしておくこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
実力診断試験70%、授業での取組30%。講義はテキストに沿って行うので、各講義の前には必ずテキストを熟読しておくこと。また復習は、ノート整理を中心に、特にテキスト末に掲載されている各単元毎の練習問題に取り組むこと。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	動詞の種類と変化について - 総論 -						
第2回	現在語幹 - 第1種活用 -						
第3回	現在語幹 - 第1種活用 -						
第4回	現在語幹 - 第2種活用 -						
第5回	現在語幹 - 第2種活用 -						
第6回	現在語幹 - 第2種活用 -						
第7回	一般時制 - 未来とアオリスト -						
第8回	一般時制 - アオリスト -						
第9回	一般時制 - アオリスト -						
第10回	一般時制 - 完了と受動態 -						
第11回	一般時制 - 使役と意欲 -						
第12回	準動詞						
第13回	韻律の種類						
第14回	文章論 - 六合釈 -						
第15回	学期末実力診断テストと振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書は、『サンスクリット語初等文法』j.ゴンダ著、辻直四郎校閲、鑑淳訳(春秋社)。参考書は、『サンスクリット文法』辻直四郎著(岩波全書)、『新・サンスクリットの基礎』上・下、菅沼晃著(平河出版社)など。辞書は、『梵和大辞典』(講談社)など。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
「サンスクリット語」を履修済であること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人智寂坊代表役員							

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教学系科目	
講義名	[06948] チベット語				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
チベットの文字とチベット語の基礎的文法を講義する。それとともに、簡単なチベット文を解説することで、自分一人でチベット語仏典を購読する方法を解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
そのサンスクリット原典の多くが失われてしまった現在では、チベット語に翻訳された大蔵経は、仏教学研究の上での貴重な資料となる。本講義は、これらのチベット語資料を自由に扱うことができる迫力を習得することを目的とする。チベット語は、その文法が日本語に近い言語であり、親しみやすい言葉である。文字に慣れてしまえば、容易に理解できるようになる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
教科書に従って、チベット語文法の基礎を学ぶ。ただし、ドイツ語のできない学生には、教科書の和訳を用意する。事前学習（90分）としては、シラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。事後学習（90分）としては、学習した文字・単語を覚え、講義内容の理解を含め次回に備えること。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	チベット文字				
第2回	名詞				
第3回	指示代名詞				
第4回	文末不変化辞				
第5回	具格と動詞				
第6回	命令文				
第7回	格不変化辞(1)				
第8回	格不変化辞(2)				
第9回	人称代名詞				
第10回	動詞(1)				
第11回	動詞(2)				
第12回	代名詞				
第13回	動詞のモルフォロジー				
第14回	例文読解				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：Michael Hahn, Lenbuch der klassischen Schriftsprache. Swisttal-Odendorf1996. 参考書：『[概説]チベット語文法』山口瑞鳳（春秋社）2002年、『チベット語初頭文法』高橋尚夫・前田亮道（ノンブル社）2004年、『蔵英辞典』H.A.イェシュケ（臨川書店）1987年、『蔵漢大辞典』（北京）1985年					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
チベット語を身につけることは、チベット語文献を読むためや、チベット旅行を容易にするための手段である。チベット語に興味があるだけでは、学習が続かないので、明確な目的をもって学んでもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教学系科目	
講義名	[06949] チベット語				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
対象学年	--	2 年	3 年	--	
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ		mochizuki kaie	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
チベットは、インドの大乗仏教が直接に伝わった地である。その仏教伝承から、チベット仏教の各宗派の歴史と思想、および内陸アジアにおける展開について解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
チベットは、インドの大乗仏教が直接に伝わった地域である。それ故に、チベットの仏教を理解することで今は滅びてしまったインドの大乗仏教の様子を知ることができる。また、チベット仏教を理解することで、現在の日本仏教の在り方を再認識することができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
教科書に従って、チベット仏教を講義する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末試験70%、授業への取り組み30%で評価を行う。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	チベットの文化				
第2回	チベットの歴史				
第3回	インド仏教の受容				
第4回	カダム派				
第5回	ニンマ派				
第6回	カギュ派				
第7回	シチェ派				
第8回	サキャ派				
第9回	チョナン派				
第10回	ゲルク派				
第11回	ボン教				
第12回	中国西域仏教				
第13回	モンゴル仏教				
第14回	現代のチベット				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『チベット仏教思想史』望月海慧（身延山大学）1998年 参考書：『新アジア仏教史09チベット 須弥山の仏教世界』（佼成出版社）2010年					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
チベット仏教は現在も存在する仏教なので、実際にチベットの僧院を訪問し、どのような仏教なのかを体験してもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教学系科目		
講義名	[06950] 外書講読						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（1）		種 類	演習
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
我などの存在の基盤となるものを徹底的に批判することで、仏教の基本的教義である縁起・空性思想を論証しようとしたナーガールジュナの中観思想について解説をする。テキストとしてアティシャの『菩提道灯論』を用いて講義する。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
本講義は、インドにおける大乘仏教の2大学派のうち、ナーガールジュナを開祖とする中観学派の思想を講義する。彼らが釈尊の教えをどのように解釈したのかを理解することにより、インド大乘仏教の思想史を理解することを目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
授業では、アティシャの『菩提道灯論』に基づいて講義を行う。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	オリエンテーション						
第2回	ナーガールジュナと『中論』						
第3回	パーヴィヴェーカとチャンドラキールティ						
第4回	カマラシーラとシャーンタラクシタ						
第5回	ハリパドラとアピサマヤ文献						
第6回	アティシャと『菩提道灯論』						
第7回	三種のブドガラ						
第8回	三宝帰依						
第9回	発菩提心						
第10回	小乗戒						
第11回	菩薩戒						
第12回	神通と止観						
第13回	空性論証						
第14回	金剛乗						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：望月海慧『全訳アティシャ 菩提道灯論』（起心書房）2015年 参考書：桂紹隆他『シリーズ大乘仏教 6 空と中観』（春秋社）、平川彰他『講座・大乘仏教7 中観思想』（春秋社）1982年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
仏教の歴史にはさまざまな時代・地域においてそれぞれの仏教思想が成立している。その源流であるインドの仏教に興味を持って学んでほしい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限							
<b>【実務経験】</b>							
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授							

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教学系科目	
講義名	[06951] 外書講読			
期間	後期（15回）	単位数	選択（1）	種類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ	mochizuki kaie	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
<p>仏教の基本的教義である縁起・空性思想を心のあり方により分析した唯識思想について、アサンガが著した『撰大乘論』に基づいて解説する。</p>				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
<p>本講義は、インドにおける大乘仏教の2大学派のうち、マイトレーヤ、アサンガを開祖とする唯識学派の思想を講義する。彼らが釈尊の教えをどのように解釈したのかを理解することにより、インド大乘仏教の思想史を理解することを目標とする。</p>				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
<p>授業では、アサンガの『撰大乘論』に基づいて唯識思想の各教義について講義を行う。</p>				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
<p>この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。</p>				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
<p>期末レポート 70%、授業に取り組む姿勢 30%</p>				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	マイトレーヤとアサンガ			
第3回	ヴァスバンドゥ			
第4回	唯識思想の展開			
第5回	アーラヤ識説			
第6回	三性説			
第7回	唯識性			
第8回	六波羅蜜			
第9回	十地			
第10回	菩薩戒			
第11回	禅定			
第12回	無分別智			
第13回	涅槃			
第14回	三身説			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
<p>参考文献：長尾雅人『撰大乘論 上・下』講談社、上田義文『撰大乘論講読』春秋社、勝呂信静・下川辺季由『新国訳大蔵経 撰大乘論釈』大蔵出版</p>				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
<p>仏教の歴史にはさまざまな時代・地域においてそれぞれの仏教思想が成立している。その源流であるインドの仏教に興味を持って学んでほしい。</p>				
<b>【オフィスアワー】</b>				
<p>月曜日第3時限並びに木曜日第3時限</p>				
<b>【実務経験】</b>				
<p>日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授</p>				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教学系科目
講義名	[06952] 天台学			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byung kon	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
この授業では、大乘仏教の代表的な経典の一つである『法華経』の仏教史上における歴史的展開について概観する。とりわけ、本経に対する東アジアの三国（中国・海東・日本）における事例を取り上げ、法華弘通史の全体像の把握に努める。かつ折に触れて『法華経』の漢訳を用い、法華教学史上の重要な経文について紹介・解説する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
この授業を受けることにより、仏典をより身近に感じることができるようになり、本学本宗の所依経典である『法華経』の中心思想並びにその思想史の展開について理解することができるようになる。と同時に原典を読み解く力を身につけることができるようになる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	ガイダンス、法華経研究史			
第2回	法華経の成立と展開			
第3回	法華経の成立と展開			
第4回	法華経の思想			
第5回	法華経の思想			
第6回	鳩摩羅什と妙法蓮華経			
第7回	鳩摩羅什と妙法蓮華経			
第8回	智顛と中国天台宗			
第9回	智顛と中国天台宗			
第10回	最澄と日本天台宗			
第11回	最澄と日本天台宗			
第12回	日蓮と日蓮宗			
第13回	日蓮と日蓮宗			
第14回	海東における法華天台思想の展開			
第15回	海東における法華天台思想の展開、まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：授業中に適宜資料を配付する。参考書：『法華思想』横超慧日編著（平楽寺書店）1969年、『法華経の思想と文化』坂本幸男編（平楽寺書店）1965年、『法華経の中国的展開』坂本幸男編（平楽寺書店）1972年、『智慧 / 世界 / ことば』桂紹隆他編（春秋社）2013年、『法華経：あなたもブッダになれる』植木雅俊著（NHK出版）2018年。その他、授業中に適宜資料を配付する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教学系科目		
講義名	[06953] 天台学				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン	kim byung kon	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
「日本仏教の故郷となった比叡山の宗派は天台宗である。そのために日本仏教の教理の淵源も天台宗にもとづくことになる。天台宗の教えを知らなければ、日本仏教の教えのほんとうの意味は分からないことになる。本書は、鎌倉時代の大学者、凝然大徳が書いた『八宗綱要』のなかの「天台宗」の一章の講義である。それは、天台宗の歴史と思想の大綱を初学者が理解するには恰好の書である」（参考書より）					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
最澄は入唐して円戒禅密の四宗を相承し、比叡山に天台法華宗を開創する。門下の円仁や円珍の入唐求法により天台密教は隆盛し、円仁の伝えた弥陀念仏が叡山浄土教となって鎌倉期の浄土教に展開する。平安中期にいたると中古天台といわれる観心主義の教学となって本覚思想を生むにいたり、鎌倉仏教の成立をうながすことになる。このような日本天台宗の展開を踏まえたくて、『八宗綱要』を通して天台教学の理解を深め、延いては日蓮学へと繋げることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	天台宗の歴史：天台山国清寺と日本仏教				
第3回	天台宗の歴史：天台宗の宗名と経論				
第4回	天台宗の歴史：天台宗の宗名と経論				
第5回	天台宗の歴史：天台宗の成立と展開				
第6回	天台宗の歴史：天台宗の成立と展開				
第7回	天台宗の教理：五時八教、化法の四教、三蔵教				
第8回	天台宗の教理：三蔵教				
第9回	天台宗の教理：三蔵教				
第10回	天台宗の教理：通教				
第11回	天台宗の教理：別教				
第12回	天台宗の教理：円教、仏身、仏土				
第13回	天台宗の教理：化儀の四教、五時				
第14回	天台宗の実践：一心三観と四種三昧				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『八宗綱要；下』平川彰著（大蔵出版）1981年。参考書：『八宗綱要：仏教を真によく知るための本』鎌田茂雄全訳注（講談社）1981年、『天台思想入門：天台宗の歴史と思想』鎌田茂雄著（講談社）1984年、『天台四教儀』李永子訳注（経書院）1988年、『法華玄義を読む：天台思想入門』菅野博史著（大蔵出版）2013年、『天台四教儀談義：法華経理解を深める天台学へのいざない』三友健容著（大法輪閣）2016年。辞典類：『天台学辞典』河村孝照編著（国書刊行会）2013年。その他、授業中に適宜資料を配付する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教学系科目	
講義名	[06954] 仏教史特講			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	桑名 貴正	クワナ カンショウ	kuwana kansyo	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
漢文は中国語という外国語で、中国の純粋な記載言語としての文語文であるが、その形を模倣した日本人の文章も含む。仏教漢文の法華経要文を繰り返し訓読することにより、句読点・返り点・送りがない・読まない文字・二度読む文字・返読文字等が自然に会得でき、より漢文に慣れ親しめるために、その要文内容をも深める。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
仏教を研究する上で、漢文体で書かれた仏教文献が多く、漢文読解力は仏書研究上、必要不可欠である。そこで、漢文学修の基礎として、私達が手にしている妙法蓮華経を中心に学修し、漢文に慣れ親しみ、漢文読解力を身につけることを、本授業の目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
妙法蓮華経の要文をテキストとし、漢文の訓読を反復することを中心として、その要文の内容理解を深め、漢文に慣れ親しむ。繰り返し訓読を重ねることにより、漢文読解の力が養えられる。漢文の訓読の訓練に重点を置き習練をする。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前の学修では、各回の講義内容・テキストの配付資料により、事前学修を2時間以上行うこと。事後の学修では、配付テキスト資料に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業内の漢文読解修得度テスト50%、授業への取り組み状況も重視する50%。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	序品第一の要文・文殊師利菩薩と弥勒菩薩との修行の相違			
第2回	方便品第二の要文・諸法実相の内容			
第3回	方便品第二の要文・諸仏の世に出現する理由			
第4回	譬喩の要文・成仏の理解			
第5回	法師品第十の要文・成仏の方法 末法悪世に生まれた理由			
第6回	提婆達多品第十二の要文・悪人成仏と女人成仏			
第7回	勸持品第十三の要文・衣座室の修行 二十行の偈			
第8回	如来寿量品第十六の要文・娑婆の本国土性の開頭			
第9回	如来寿量品第十六の要文・良医良薬の譬え 毎自の悲願			
第10回	分別功德品第十七の要文・仏の寿命の聞説の功德 一念信解の功德			
第11回	常不軽菩薩品第二十の要文 但行礼拝			
第12回	如来神力品第二十一の要文 別付属・四句の要法			
第13回	観世音菩薩普門品第二十五の要文 供養の真意 観音の名前の因縁			
第14回	普賢菩薩勸発品第二十八の要文 四法成就等			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：本山頂妙寺蔵版『妙法蓮華経（改正訓点・句読・清濁）』（平楽寺書店）2004年。プリントを配布する。参考書：法華経普及会編『真訓両読 妙法蓮華経並開結』（平楽寺書店）2000年、岩波文庫『法華経』上・中・下 坂本幸男・岩本裕訳注（岩波書店）1997年				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
これまで、漢文に接する機会はあまりなかったと思うが、反復練習をすれば、容易にそのコツが得られ、仏教専門科目のレポート・卒業論文等において大いに役立つであろう。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業時間の前後に教室にて対応する。				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人妙法寺代表役員				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教学系科目		
講義名	[06956] 仏教学特講				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義と演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
本授業では、カリキュラムポリシーを踏まえて、英語で書かれた欧米の仏教に関する思想書を輪読し、割り当てられた箇所の和訳を数回行い、翻訳能力を培い、ディプロマポリシーに見合った英語の読解力を養う。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
欧米で書かれた現代の仏教事情を論じている研究書を読むことで、専門的な語学力をスキルアップすることを目標とする。また、欧米の仏教学研究状況を知るだけでなく、仏教用語の翻訳を通して外国語による仏教思想の理解を深め、専門用語の表現方法を獲得する。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業では、英文テキストを講読するだけでなく、欧米の仏教学研究の現状や仏教用語の解説も行い。指定したテキストの通読を中心に進める。学生一人一人に翻訳箇所を指定し、必ず複数回の発表が課される。発表の後は、そのパラグラフの持つ意味を述べて、ディスカッションを英語で行う。一人の持ち時間は15分とする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行い、事前学習は十分な翻訳作業をすることと、発表後に提起する割り当て箇所の問題となる内容を明らかにしておくこと。事後学習では、咀嚼が充分でなかった箇所の再確認とディスカッションで得られた知識を整理しておくこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト50%（授業の中間と最後に各自持ち時間10分で内容の総括と問題提起を英語で行い質疑応答も英語で10分行う）、授業への取り組み50%（授業時間中の発表内容と英語での質疑応答）で評価を行う。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	テキストの紹介と成績評価の考え方				
第2回	テキスト講読と発表、解説				
第3回	テキスト講読と発表、解説				
第4回	テキスト講読と発表、解説				
第5回	テキスト講読と発表、解説				
第6回	テキスト講読と発表、解説				
第7回	テキスト講読と発表、解説				
第8回	中間発表会（発表内容の要旨を述べる）				
第9回	テキスト講読と発表、解説				
第10回	テキスト講読と発表、解説				
第11回	テキスト講読と発表、解説				
第12回	テキスト講読と発表、解説				
第13回	テキスト講読と発表、解説				
第14回	テキスト講読と発表、解説				
第15回	総括と問題提起発表会				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：S.Sivaraksa, Conflict, Culture, Change: engaged buddhism in a globalizing world, Wisdom Publication, Boston, 2005.					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
語学力は自分で辞書を引かなければ身につけません。しかし身についた力は、将来必ず役立ちます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人智寂坊代表役員					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教学系科目	
講義名	[06957] 仏教学特講			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
中国の5～8世紀に著された漢文と、その注釈書を読みこみ、時代背景と照らし合わせて、思想の変遷と専門用語に精通する。使用するテキストは「大乘起信論」である。この本文を受講生に割り当て、1回に10行ほど、後半には20行ほどの段落毎に和訳して、解説してもらう。キーワード：大乘起信論、大乘起信論義疏、起信論海東疏、覚、本覚、如来蔵				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
「大乘起信論」は、インドのアシュヴァゴーシャ（馬鳴）の著作とされているが、その成立問題について長く議論されており、中国撰述説が有力となっている。本論の講読と2種の注釈書を参照して、東アジアに大きな影響を与えた如来蔵思想の理解を深め、日本仏教の本覚思想の源泉となった理論を理解することと、仏教漢文を読み込む力を養う。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
授業では、馬鳴の「大乘起信論」と2種の注釈書（いずれも漢文テキスト）を配布して、各自の担当を割り当て、それを学生自らが事前学習により調べた読み下しとその意味を解説し和訳を発表する。教員はその内容の不足を補い、如来蔵思想について講義を行う。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前・事後学修とも2時間以上を目途に十分な読解を行うこと。事前学修では白文を書き下し、注釈書を参考にしてその意味を調べる。事後学修では、難語を中心にしてその意味を大漢和辞典などを活用して例を調べ、表意文字から文意を理解できるようにすること。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み50%（授業時間中の発表内容と質疑応答の適正）をルーブリック方式により評価する。授業の中間と最後に、自分の発表した内容から一つを選び、さらに詳細な解説を行う。1人の所要時間は20分とする。25%×2回。評価は、ルーブリック方式による。シートは事前に示す。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業の進め方と評価方法の説明。テキストの紹介と成立の背景、その後の思想的影響。発表者の割当て2回分。			
第2回	テキスト講読と解説			
第3回	テキスト講読と解説			
第4回	テキスト講読と解説			
第5回	テキスト講読と解説			
第6回	テキスト講読と解説			
第7回	テキスト講読と解説			
第8回	中間発表			
第9回	テキスト講読と解説			
第10回	テキスト講読と解説			
第11回	テキスト講読と解説			
第12回	テキスト講読と解説			
第13回	テキスト講読と解説			
第14回	テキスト講読と解説			
第15回	学期末発表(まとめ)			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：大乘起信論（大正新修大蔵経 No.1666） 参考文献：宇井伯寿『大乘起信論』岩波文庫、平川彰『大乘起信論』大蔵出版など				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
『大乘起信論』の成立問題は、仏教学研究において近年で最も注目されているテーマである。最新の研究を知ること、仏教の研究方法を身につけてもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人智寂坊代表役員				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教文化系科目		
講義名	[07005] 仏像の基礎知識				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
仏像一般についての説明					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
仏像を鑑賞する場合、それぞれ色々な方法があると思う。ここでは仏像の種類・時代などの方面から仏像の基礎知識を身につけることを目的とし、受講生は仏像についての基礎知識を身につけることができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
仏像は、如来・菩薩・明王などと様々な種類に分けられる。それぞれの姿・技義・制作年代をスライド・図を中心に解説し、できれば実物を鑑賞したい。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前・事後学修とも120分程度を目途とする。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認試験50%、授業への取り組み姿勢25%、事前学修（予習）・事後学修（復習）25% 受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	授業の進め方 仏像の種類について				
第2回	釈迦如来				
第3回	薬師如来				
第4回	阿弥陀如来				
第5回	大日如来・如来両脇侍				
第6回	聖観音菩薩・十一面観音・千手観音				
第7回	文殊菩薩・普賢菩薩				
第8回	如意輪観音・馬頭観音				
第9回	地藏菩薩・虚空蔵菩薩				
第10回	不動明王・愛染明王				
第11回	梵天・帝釈天				
第12回	四天王				
第13回	金剛力士				
第14回	肖像彫刻・羅漢				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：図像辞典『日本の美術』（至文堂） / 『仏像彫刻の基礎知識』光森正士・岡田健著（至文堂） 参考書：鑑賞を基とし適宜指示する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 授業に合わせ身延山内の仏像見学を予定している。その折りには大勢の参加を望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教文化系科目
講義名	[07033] 仏教考古学				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	長澤 宏昌		ナガサワ コウショウ		nagasawa kosyo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
あらゆる生命体の中で人間だけがやってきた葬送行為やその儀礼を知るとは、言い換えれば人間らしさを確認することでもある。埋葬の歴史を通じて改めてそれを意識すると同時に、葬送行為を簡略化もしくは不要なものとする現代社会の実態を知ること、僧侶を目指す学生諸君がこれから何を為すべきかを、学生とともに考える。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
仏教考古学とは、遺跡からの出土品と寺院その他の伝世品を通して、仏教の成り立ちや変遷を調査研究する考古学の分野である。本来、仏教考古学の目的はこれらの遺物にどのような種類や存在意義があるのかを学ぶことであるが、この講義では、考古学の成果に基づき仏教受容に重要なかわりがある「伝来以前の日本列島の埋葬や信仰形態」を理解することに主眼を置き、現代社会で仏教意識が希薄になっている状況との対比を行う。それにより、僧侶を目指す学生に、これから僧侶として何をなすべきかを認識してもらうためである。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義により、埋葬や信仰の歴史及び遺跡出土仏教関係遺物・遺構の概説を行う。日本においては、古墳時代前期以前は基本的には仏教とは無縁であるが、旧石器時代以降、頑なな埋葬や信仰への思いを学ぶことによって、現代社会で急激におろそかにされつつある祖先や家族・一族の繋がりを再確認する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。授業の理解度を確保するため、翌週に前回授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括では、このレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末試験を60%、受講態度（20%）毎の授業内容をまとめたレポート提出（20%）を重視する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	仏教考古学の定義と講座内容概説				
第2回	発掘調査の理論・旧石器時代の埋葬と信仰				
第3回	縄文時代の埋葬と信仰 1				
第4回	縄文時代の埋葬と信仰 2				
第5回	弥生時代の埋葬と信仰				
第6回	古墳時代の埋葬と信仰				
第7回	古代・中世の埋葬と信仰				
第8回	近世・近現代の埋葬と信仰				
第9回	伝来した仏教と埋葬儀礼のかかわり（古墳と仏教）				
第10回	遺跡にみられる先祖供養の痕跡				
第11回	民俗学から見た先祖観 1				
第12回	民俗学から見た先祖観 2				
第13回	現代社会と先祖観				
第14回	総括				
第15回	まとめと試験				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：長沢宏昌『今、先祖観を問う 埋葬の歴史と現代社会』石文社 初回授業時に頒布する。					
参考書：仏教考古学講座、仏教考古学辞典（ともに雄山閣）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
講義で学ぶこと、現代社会の仏教を取り巻く状況がいかに乖離しているかに気付いてほしいと同時に、その認識のもと現代社会に身を置く僧侶として何をなすべきかを考えてほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週、授業の前後に教室で受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
住職24年、博物館学芸員20年。葬送の歴史と現代の実態を把握している。					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学科 開設科目	仏教文化系科目

講義名	[07034] 文化財研究
-----	---------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	長澤 宏昌	ナガサワ コウショウ	nagasawa kosyo
-----	-------	------------	----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

文化財は人体に例えればDNAに相当する。これを知ることによって、地域や国の大本（おおもと）を知ることになる。また、現在では知ることのできない、途絶えたモノや習俗などを知ること、現在に伝わる儀礼などの意味を真に理解できる。それらはすべて必要であったからこそ、先人の智慧によって編み出されたのであり、一度途絶えたら、二度と得られないかけがえのないものであることを学生に考えてほしい。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

文化財研究とは聞き慣れないうえ抽象的な言葉であるが、遺跡出土遺物や絵画、彫刻、民具などを研究対象として、モノ自体の研究と同時に、それらが作り出された背景や自然環境、さらには使用法を通して、地域の生活を知ることが目的とした学問である。この授業では遺跡出土の埋蔵文化財を中心とした有形文化財を対象とし、「地域」を理解することを目標とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

講義により、文化財の区分や文化財から何がわかるかを理解し、地域の生活習慣や歴史を明らかにする。また、現代社会においては、あらゆる情報が、大都市から発信されたものに画一化されるが、文化財の研究と保護によって、失ってはならない地域の重要性を再確認する。また、必要に応じて、博物館等の見学を行う。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。授業の理解度を確認するため、翌週に前回授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括では、このレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。

**【成績評価（方法・基準）】**

期末試験60%、受講態度（20%）、毎回の授業内容をまとめたレポート提出（20%）で評価する。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	文化財研究の意義と講座内容概説
第2回	文化財とは何か
第3回	伝世した文化財と危機
第4回	文化財の現在
第5回	文化財を伝える
第6回	どこまで復元するのか
第7回	文化財の展示
第8回	文化と技術・縄文時代の酒造り
第9回	文化と技術・日本酒ができるまで
第10回	富士山と文化財・富士山とはどのような文化財か
第11回	富士山と文化財・富士山経ヶ岳の出土遺物
第12回	民俗文化財・伝承の重要性
第13回	民俗文化財・葬儀と墓をめぐる民俗
第14回	総括
第15回	試験

**【教科書・参考書】**

毎週、講義のはじめに必要な資料を配付する。

**【学生へのメッセージ】**

文化財は、その地域の生活を形に示したモノである。これを認識することはまさに地域を知ることであり、学生諸君が将来生活するいかなるところにも、それぞれの地域の文化と文化財が存在することを意識し、そのことが寺院経営の大きな柱となることを理解してほしい。

**【オフィスアワー】**

毎週、授業の前後に教室で受け付けます。

**【実務経験】**

山梨県立考古博物館学芸員20年、山梨県埋蔵文化財センター文化財主事25年。

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教文化系科目		
講義名	[07037] 世界遺産研究						
期 間	通年（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	柳本 伊左雄			ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
世界遺産研究							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
身延山大学が行っている、世界遺産ラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトを通してインド・インドシナの世界遺産に指定されている遺跡の学習を行う。本講義を受講することにより日本仏教にとらわれないグローバルな視点で仏教文化遺産に親しむことができる。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
基本的にはラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトに参加して、実際に修復や調査を行う。プロジェクトの実施がない場合に講義（スライド・ビデオ等使用）のみで進めて行きたい。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前事後の学習として、120分程度を要する。各自問題意識をもって各講義を受講してもらいたい。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
作業報告書あるいは学力確認試験50% 授業への取り組み姿勢25% 事前学修（企画書あるいは予習）・事後学修（日報あるいは復習）25%							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	授業の進め方、世界遺産の概略						
第2回	ラオス・ルアンプラバン、ランサーン王朝の歴史						
第3回	ラオス・ルアンプラバンの建築及び町並み						
第4回	ラオス・ルアンプラバン及びピエンチャンの仏像						
第5回	ラオス・ルアンプラバン仏像の修復過程						
第6回	インド・アジャンタ						
第7回	インド・エローラ						
第8回	スリランカ・アヌラーダプラ他						
第9回	タイ・スコータイ遺跡						
第10回	タイ・アユタヤ遺跡						
第11回	ミャンマー・バガン						
第12回	カンボジア・バイヨン（仏教寺院）						
第13回	カンボジア・アンコールワット（ヒンドゥー教寺院）						
第14回	インドネシア・ボロブドゥール（大乘仏教寺院）						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：ラオス・ルアンプラバン仏像修復プロジェクト日報及び報告書（身延山大学東洋文化研究所所報）紹介する。 参考書：ユネスコなどから発行されている世界遺産関連書類など。随時指示する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
世界遺産仏像修復プロジェクトは選抜制で厳しい審査が在る為、だれでも参加できるわけではない。したがってプロジェクト参加が基本なので、受講に際しては必ず担当教員の所まで受講の有無を確認に来ること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後に教室にて対応します。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教文化系科目
講義名	[07038] 書道実践(仏教)				
期間	前期(15回)	単位数	選択(2)		種類 実技
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	秋山 恵子		アキヤマ ケイコ		akiyama keiko
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
書道史を学びながら、書道の世界を認識し、書のもつ美の芸術域を理解すると共に実技指導を行う。					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b>					
楷書・行書・写経又は仮名の実習を通して手書き文字の大切さを学ぶ。日本における文字の変遷について名品を鑑賞しながら理解を深める。指導者の育成にあたる。学童への指導法を学ぶ。現代社会における書道の役割について研究し学生自らの発信をサポートする。					
<b>【授業方法(フィードバックの内容)】</b>					
書とは徳業を積む一つの行学である。事前に目で習い、手習いを重ね、五感を養うよう講義と実技を行う。加えて美術鑑賞・拓本・刻字などの体験を通して自己研鑽を積みながら書に対する学習意欲を高めてもらいたい。					
<b>【授業外学修の方法(時間数)】</b>					
事前学習120分:テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分:テキストを読み直しと実技稽古を重ねる。					
<b>【成績評価(方法・基準)】</b>					
授業への取り組み姿勢50%及び提出作品50%で評価する。書道実践は年度により授業内容が変わります(楷書、行書、写経又は仮名作品評価)					
<b>【授業計画(各回の授業内容)】</b>					
第1回	書道史、中国・日本の文字の歴史的流れについて				
第2回	書之美を求めて。書の学習の意義を学ぶ				
第3回	書体、書風、字形の研究と創作 又は 写経・仮名実習(第3回～第15回)				
第4回	文房四宝、用材、執筆法の研究と創作(半紙)				
第5回	北魏、随、唐の楷書から学童楷書まで学ぶ(半紙) 又は 王羲之を学ぶ(半紙)				
第6回	楷書作品の臨書、鑑賞、制作(条幅)				
第7回	楷書作品の制作(条幅) 又は 王羲之研究(7回～15回)				
第8回	楷書作品の制作(条幅)				
第9回	楷書作品の制作(条幅)				
第10回	楷書作品の制作(条幅)				
第11回	楷書作品の制作(条幅)				
第12回	楷書作品の完成				
第13回	生活の中の書いろいろ(リハピリの書)				
第14回	生活と書 硬筆(漢字と仮名交じりの書)				
第15回	作品及びレポート他提出				
<b>【教科書・参考書】</b>					
書道の古典(全三冊) 大東文化大学書道文化センター編、学童楷書参考手本					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
真の教育として、直筆の必要性和精神の向上ならびに、伝統文化の継承を望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
質問などは授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
秋山書道教室松恵書院主宰					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教文化系科目
講義名	[07039] 仏教と文学			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	ジル・エマ・ストロースマン	ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
様々な国の文学を通して宗教、仏教を考えるきっかけとなる授業です。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義はインドから始まって、中国、韓国、日本へと伝わって来た仏教や、キリスト教・イスラムなどの宗教の波はどのように文学に影響を与えてきたのかを探求します。本講義を受講することにより、それぞれの宗教文学作品から短めな例を用いて諸宗教文学と仏教文学を比較検討することができます。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
プリントを読んで、多少の歴史を学んで、話し合います。西遊記とDaVinci Codeの回はビデオとDVDを用います。中間発表で日本以外の国の文学について自習的に研究して発表し、総合発表では、日本の文学について調べて発表してもらいます。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
中間発表25%、総合発表25%、授業への取り組み30%、学力確認試験20%。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	どんぐりと山猫 日本			
第2回	西遊記 中国)			
第3回	杜子春 中国版vs日本版)			
第4回	中国の仏教文学に大きな影響を与えた道教(老子・荘子・天問) 中国)			
第5回	韓国の昔話 日本と比較しましょう)			
第6回	三国史記 韓国)			
第7回	春香伝 韓国			
第8回	中間発表			
第9回	千夜一夜 アラビア)			
第10回	日本文学			
第11回	往生要集vs.Danteの神話の天国と地獄			
第12回	ベトナムとラオスの昔話 日本と比較しましょう)			
第13回	DaVinci Code			
第14回	古事記と日本書紀			
第15回	まとめ及び振り返り			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：プリントを用意いたします。参考書：受講生の興味に応じ、適宜指示します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
知らない国のほんの少しの知識を身につけることで、シルクロードを渡って来た仏教、そしてイスラム・キリスト教など他の宗教がどのように人々の考えを変えたかについて事前に学習し、もっと知りたいと興味を持って復習してほしい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日 5 時限				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教文化系科目
講義名	[07040] 寺院建築の基礎知識			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日本の寺院に所蔵されている資料（史料）やその保存建築について、基本的な分類の理解などを中心として理解を深める。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義を受講することにより寺院資料や建築における基礎的知識を得ることができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
資料等を配布して授業を進めるが、建築物を実際に見学しての授業も行う予定である。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
事前事後の学修確認25% 授業に対する取り組み姿勢25% 学力確認レポート50%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	資料護持			
第3回	寺院資料の現状			
第4回	修理と保存の姿			
第5回	卷子・軸装・折り本			
第6回	保存と管理設備			
第7回	保存設備（建築）と目録作成 その1			
第8回	保存設備（建築）と目録作成 その2			
第9回	宝蔵 その1			
第10回	宝蔵 その2			
第11回	虫損とその対策			
第12回	曝涼 その1			
第13回	曝涼 その2			
第14回	その他、宝蔵建築の事例			
第15回	まとめ。			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：適宜、プリントなどを配布する。				
参考書：『寺宝護持の心得』（ISBN4890451218、1996、日蓮宗宗務院）、その他進捗状況を鑑み、随時指示する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
実際の寺院等の見学も行う予定である。日ごろ問題意識をもって講義に取り組んで貰いたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人法養寺代表役員 日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教文化系科目	
講義名	[07043] 仏教美術史				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
仏像を中心に仏教美術の展開と変遷を説明する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義は日本の仏教美術、特に一般的に言われている日本史との相違について探求する。本講義を受講することにより飛鳥から鎌倉までを時代順に追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
時代順に沿って、スライド・写真・ビデオ等を用いて授業を進めていく。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認試験50%、授業への取り組み姿勢25%、事前学修・事後学修25%。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	仏像の誕生以前、大月氏・バクトリア				
第2回	ガンダーラ・マトゥーラ				
第3回	仏教美術の東進、シルクロードの石窟、北魏様式等				
第4回	法隆寺の建立と法隆寺再建論・非再建論				
第5回	法隆寺・薬師寺、飛鳥・白鳳美術				
第6回	興福寺から東大寺へ、天皇家・藤原氏と壬申の乱から長屋王の変				
第7回	東大寺法華堂と天平美術				
第8回	東大寺大仏建立				
第9回	貞観・弘仁彫刻、東寺と密教美術				
第10回	阿弥陀信仰と藤原彫刻				
第11回	平等院と定朝様式の完成				
第12回	京都仏師と慶派の興亡				
第13回	東大寺南大門と運慶・快慶				
第14回	三十三間堂と鎌倉彫刻				
第15回	まとめと確認				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『日本の美術』（至文堂）/ 『日本の国宝』（朝日新聞社）/ 『原色日本の美術』（小学館）。参考書：進捗状況を鑑み、随時指示する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
興味を失わず、積極的な授業参加を望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教文化系科目	
講義名	[07044] 仏教彫刻の鑑賞と実践				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2 年	3 年	--	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
仏像制作					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日本人にとって仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。この授業では実際に仏像を制作する立場から授業を進め、仏像に対する理解を深めることができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
現在工房ではその時々には仏像の制作が行われている。それらの作業工程を鑑賞する。工房作成のテキスト・石膏原型（仏頭）を用いて如来仏頭の摸刻を行う。制作を行うには個人差がある為、遅れが生じた学生は授業外にも工房にて制作可。また指定以外の仏像制作希望についても考慮する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
作品50%、授業への取り組み姿勢25%、事前学習・事後学習25%					
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	原型石膏取り 如来仏頭				
第2回	道具作り ノミ研ぎ・木製定規（寸）作成・竹製コンパス作成・木槌作成				
第3回	型紙作成・木取り・墨出し・				
第4回	粗彫り 1				
第5回	粗彫り 2				
第6回	粗彫り 3				
第7回	こなし 1				
第8回	こなし 2				
第9回	こなし 3				
第10回	小作り 1				
第11回	小作り 2				
第12回	小作り 3				
第13回	仕上げ彫り 1				
第14回	仕上げ彫り 2				
第15回	まとめ・批評				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：工房作成の教科書・石膏像（仏頭）。参考書：随時指示する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
履修人数制限あり。実際に作品を完成させたいので、作業が遅れた学生は授業外に事前学習・事後学習として彫ってもらおう。ノミ等道具類については工房所有の道具類を使用する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日 5 時限以降に行う。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教文化系科目
講義名	[07045] 仏教彫刻の鑑賞と実践			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
仏像制作				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
日本人にとって仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。この授業では実際に仏像を制作する立場から授業を進め、仏像に対する理解を深めることができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
現在工房ではその時々には仏像の制作が行われている。それらの作業工程を鑑賞する。工房作成の動画テキスト・石膏原型（大黒天）を用いて仏像の摸刻を行う。制作を行うには個人差がある為、遅れが生じた学生は授業外にも工房にて制作可。また指定以外の仏像制作希望についても考慮する。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
作品50%、授業への取り組み姿勢25%、事前学習・事後学習25%				
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	粗彫り 1			
第2回	粗彫り 2			
第3回	粗彫り 3			
第4回	粗彫り 4			
第5回	こなし 1			
第6回	こなし 2			
第7回	こなし 3			
第8回	こなし 4			
第9回	小作り 1			
第10回	小作り 2			
第11回	小作り 3			
第12回	仕上げ 1			
第13回	仕上げ 2			
第14回	仕上げ 3			
第15回	まとめと批評			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：工房作成の動画テキスト・石膏像（大黒天）。参考書：随時指示する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
履修人数制限あり。実際に仏手を完成させたいので、作業が遅れた学生は授業外に事前学習・事後学習として彫ってもら。ノミ等道具類については工房所有の道具類を使用する。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日 5 時限以降に行う。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教文化系科目
講義名	[07046] 仏像修復の理論と実践			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	柳本 伊左雄	ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
仏像修復				
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義は実践的に仏像修復を経験することにより、仏像を身近に感じてもらう。本講義を受講することにより僧職を志す学生には、特に仏像等を修復に出す場合の知識を身につけることができるようになる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
現在工房では実際に仏像修復が行われている。過去行われた修復実例と合わせて修復課程等を紹介していく。実習作業では、レンの作成を計画しているが、各自の希望による修復関連の実習も考慮する。作業においては個人差もある為、遅れた学生は事後学習として、工房でシラバスの行程に則り作業をしてもらう。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み姿勢50%、講義中における発表、質疑応答25%、作品25%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業内容の説明。			
第2回	修復実例の紹介 1 その他実習			
第3回	修復実例の紹介 2 その他実習			
第4回	修復実例の紹介 3 その他実習			
第5回	修復実例の紹介 4 その他実習			
第6回	修復実例の紹介 5 その他実習			
第7回	修復実例の紹介 6 その他実習			
第8回	修復実例の紹介 7 その他実習			
第9回	修復実例の紹介 8 その他実習			
第10回	修復実例の紹介 9 その他実習			
第11回	修復実例の紹介10その他実習			
第12回	修復実例の紹介11その他実習			
第13回	修復実例の紹介12その他実習			
第14回	修復実例の紹介13その他実習			
第15回	批評・採点			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『日本の美術』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『身延山大学仏像修復報告書』 参考書：随時指示する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
実習作業を行う為人数に制限がある。道具類については工房の道具を使用させるので、手入れ及び整理整頓には特に注意をするように。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日 5 時限以降に行う。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教文化系科目	
講義名	[07047] 仏像修復の理論と実践			
期間	後期（15回）	単位数	選択（2）	種類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
仏像修復				
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>				
<p>仏像修復作業を行う上で漆・金箔作業は重要である。この授業ではこれらの実習（金箔を貼る等）を経験することにより修復技術を身近に感じてもらいたい。本授業を受講することにより僧職を志す学生にはこの機会に仏像等を修復に出す場合の知識を身につけることできる。</p>				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
<p>現在工房では実際に仏像修復が行われている。過去行われた修復実例と合わせて修復課程等を紹介していく。実習作業では、金箔貼り・彩色を計画しているが、各自の希望による修復関連の実習も考慮する。作業においては個人差もある為、遅れた学生は事後学習として、工房でシラバスの行程に則り作業をしてもらう。</p>				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み姿勢25%、授業中の発表、質疑応答25%、作品50%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業内容の説明			
第2回	修復実例の紹介14その他実習			
第3回	修復実例の紹介15その他実習			
第4回	修復実例の紹介16その他実習			
第5回	修復実例の紹介17その他実習			
第6回	修復実例の紹介18その他実習			
第7回	修復実例の紹介19その他実習			
第8回	修復実例の紹介20その他実習			
第9回	修復実例の紹介21その他実習			
第10回	修復実例の紹介22その他実習			
第11回	修復実例の紹介23その他実習			
第12回	修復実例の紹介24その他実習			
第13回	修復実例の紹介25その他実習			
第14回	修復実例の紹介26その他実習			
第15回	批評・採点			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『日本の美術』（至文堂）、『日本の古典装飾』（青幻社）。道具及び金箔については工房の物を使用。参考書：随時指示する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
その他必要と思われる事項：受講前に前回のノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行ない、講義内容の理解を深め次回に備えること。図書館で参考文献を読んで欲しい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日 5 時限以降に行う。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教文化系科目		
講義名	[07048] 仏教文化演習				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
仏像制作					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
仏教文化を探究する上で仏像の知識得る事は重要だと思ふ。本講義を受講することにより実際に仏像を制作する場から授業を進め、仏像に対する理解を深めることができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
この授業では、テキスト・石膏原型（鬼子母神）を使用して、楠材の一木作りによる模刻を行い、その工程を通して授業を進めたい。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前・事後学習とも120分を目途とする。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
作品（制作過程）50%、授業への取り組み姿勢25%、事前・事後学習25%。受講前テキストの該当箇所を熟読し、制作手順を確認しておく事。受講後は時間内に達成できなかった箇所の彫刻を行うこと。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	荒彫り 1				
第2回	荒彫り 2				
第3回	こなし 1				
第4回	こなし 2				
第5回	こなし 3				
第6回	こなし 4				
第7回	こなし 5				
第8回	小作り 1				
第9回	小作り 2				
第10回	小作り 3				
第11回	小作り 4				
第12回	仕上げ 1				
第13回	仕上げ 2				
第14回	小槌の作成				
第15回	まとめ・批評				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書・参考書：随時指示する。工房自作の教科書・石膏原型（鬼子母神）を使用して模刻を行う。ノミ等道具類については工房所有の専属道具類を使用するので、関連書籍を紹介する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
履修人数に制限あり。本格的制作を行うため仏教彫刻の鑑賞と実践 1、2 を終えてから受講するのが望ましい。仏像制作には個人差があり、時間的にも内容の消化に困難が伴うので完成できない学生は文化演習 に於いて引続き受講して完成を目指してもらいたい。また授業外に工房での制作も推奨する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日 5 時限以降に行う。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教文化系科目		
講義名	[07049] 仏教文化演習				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
仏像彫刻					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
<p>仏教文化を探究する上で仏像の知識得る事は重要だと考える。本講義を受講することにより実際に仏像を制作する場から授業を進め、仏像に対する理解を深めることができる。</p>					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
<p>この授業では、テキスト・石膏原型（日蓮聖人）を使用して、楠材の一木作りによる摸刻を行い、その工程を通して授業を進めたい。また、文化演習1で作品が完成できなかった学生は、引き続きこの授業で完成を目指すことも可とする。さらに遅れている学生は、空き時間に工房で制作する事を推奨する。</p>					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前・事後学習とも120分を目途とする。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
<p>作品（制作過程）50%、講義への取り組み姿勢25%、事前学習・事後学習25%。受講前テキストの該当箇所を熟読し、制作手順を確認しておく事。受講後は時間内に達成できなかった箇所の彫刻を行うこと。</p>					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	荒彫り1				
第2回	荒彫り2				
第3回	こなし1				
第4回	こなし2				
第5回	こなし3				
第6回	小作り1				
第7回	小作り2				
第8回	小作り3				
第9回	小作り4				
第10回	仕上げ1				
第11回	仕上げ2				
第12回	仕上げ3				
第13回	仕上げ4				
第14回	経巻の作成				
第15回	まとめ・批評				
<b>【教科書・参考書】</b>					
<p>教科書：工房自作の教科書・石膏原型（日蓮聖人像）を使用して模刻を行う。ノミ等道具類については工房所有の専属道具類を使用する。それに関連する書籍を紹介する。参考書：随時指示する。</p>					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
<p>履修人数は先着順で3名まで。本格的制作を行うため仏教彫刻の鑑賞と実践1、2を終えてから受講するのが望ましい。仏像制作には個人差があり、時間的にも内容の消化に困難が伴うので完成を目指す学生は授業外に彫ってもらおう。</p>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日5時限以降に行う。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教文化系科目		
講義名	[07050] 仏教文化特講				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	雨宮 弥太郎		アメミヤ ヤタロウ		amemiya yatarou
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
<p>仏教の多様な藝術表現のあらわれの中あから特に「祈り」と「美」の関係性に着目し、科学的な視点、西洋芸術との対比、また歴史的な造形表現の変遷から俯瞰することにより仏教の精神性がどのように造形に結実しているかを考察する。</p>					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
<p>仏教の多様な藝術表現のあらわれの中あから特に「祈り」と「美」の関係性に着目し、科学的な視点、西洋芸術との対比、また歴史的な造形表現の変遷から俯瞰することにより仏教の精神性がどのように造形に結実しているかを考察する。本授業を受講することにより、仏像の造形性にとどまらず、仏教精神がいかに総合的に寺院空間を満たしているのかを理解することができる。</p>					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
<p>造形芸術の基本要素を歴史的な作品を提示しながら解説する。また「美」にまつわる科学的な知見を紹介することにより自然と造形の関連性、「かたち」に込められる「精神性」について検討する。各論点を討論を重ねることで造形の理解、基本的な素養を深めてゆく。</p>					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
<p>事前学習120分：次回授業で行う資料について予め調べておくこと。事後学習120分：授業で学習した論点を各自整理し、初見を記録する「まとめ」ノートを作成する。</p>					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
<p>授業への取組み姿勢50%、レポート50%により総合的に評価します。</p>					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス 祈りの造形				
第2回	ギリシア彫刻にみる造形美と表現				
第3回	西洋世界にみる祈りの造形				
第4回	日本における仏像造形の変遷				
第5回	美とは何か 人間の営み				
第6回	美とは何か 自然の美				
第7回	プロポーションについて				
第8回	自然の幾何学				
第9回	色彩と調和				
第10回	美的総合（宗教的空間）				
第11回	西洋絵画にみる聖性				
第12回	手から生れるかたち（工芸）				
第13回	表現の社会性（現代美術）				
第14回	仏教精神の造形				
第15回	まとめ 「祈り」と「美」				
<b>【教科書・参考書】</b>					
<p>特になし。参考文献は授業中に紹介する</p>					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
<p>授業で提示された視点で寺院空間をとらえなおすこと。自分の美意識を客観視して言葉で記述する。その記録としての「まとめノート」を作成すること。</p>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
<p>質問などは講義時間の前後で受け付ける。</p>					
<b>【実務経験】</b>					
<p>伝統工芸士、硯作家</p>					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教文化系科目		
講義名	[07051] 仏教文化特講				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	雨宮 弥太郎		アメミヤ ヤタロウ	amemiya yatarou	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
造形的に対象を観察する技術を習得することにより仏像の美の構造を理解する。また、仏像造形の精神性を素材の特性、素材と人との関係性から考察する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
造形的に対象を観察する技術を習得することにより仏像の美の構造を理解する。また、仏像造形の精神性を素材の特性、素材と人との関係性から考察する。実際に素材に触れることから体感する事を目標とする。本授業を受講することにより、対象を見る眼が深まり、「自然」「素材」「祈り」「かたち」の関連性の理解を深める事ができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
対象の考察を実践し造形的な物の見方を解説する。また実際に素材に触れながら、素材から導かれる「かたち」、その中に込められる精神性についての理解を深めていく。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分：授業で行う資料について、下調べをしておくこと。事後学習120分：授業では体感による理解を重視するが、体感したものを言葉に置き換える技術の獲得を目標とする。「まとめノート」の作成を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業への取組み姿勢（50%）。レポート（50%）					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス 仏を写す				
第2回	彫刻造形の観察 比率				
第3回	仏像の観察 比率				
第4回	彫刻造形の観察 構造				
第5回	仏像の観察 構造				
第6回	花の観察 生成の構造				
第7回	花の観察 技法				
第8回	貝の観察 生成の構造				
第9回	手の観察 比率・構造				
第10回	触覚による造形				
第11回	素材としての「木」				
第12回	「木」の造形				
第13回	素材としての「石」				
第14回	「石」の造形				
第15回	まとめ 空間構成				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書は特に用いない。参考書は授業中に紹介する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
体感したことを言葉に置き換える習慣を身につけること。造形の語彙を増やし定着させるために「まとめノート」を作成すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
質問などは講義時間の前後に受け付ける。					
<b>【実務経験】</b>					
伝統工芸士、硯作家					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教文化系科目
講義名	[07058] 仏教文化史				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
インドの仏教文化を時代ごとに学修する。その後、スリランカや東南アジアで発展した仏教美術を概観する。また、シルクロードと中国の仏教芸術と訳経、日本の寺院建築と美術などにも焦点を当て詳述する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
仏教発祥の地であるインドから伝播した各地域で、それぞれの地域文化と融合しながら、独特の発展を遂げた仏教文化を歴史変遷を辿りながら概観し、仏教文化の史的知識を形成することを目的とする。本講義による到達目標は、各国に伝播した仏教の影響を受けた文化の変遷を理解することと、その特徴を把握できることである。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用い、双方向授業を行う。受講生は、積極的に情報を収集して、資料作成に励んでもらいたい。講義に臨む時には、あらかじめ指定された歴史や地域の特徴を調べておくこと。講義後には、地域、年代の特徴とそこに形成された仏教文化の特徴を理解するように努めること。受講生による調べ学習の発表も2回予定している。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を資料ページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約2時間の学修時間を必要とする。事後学修について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を必要とする。発表形式の事前学習は、6時間程度を必要とする。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末レポート40%(課題を最終講義日2週間前に提示する)、中間レポート3回×10%=30%(講義の節目となる箇所でもとめるものを指示する)、授業態度評価(講義中に調べ学習によって発表をしてもらう。最低2回×10%=20%+10%(発表者に対する質問や意見など、積極的な授業参加を評価)=30%の計100%によって評価する。発表時の評価はルーブリック形式で行う。シートは事前に示し、了解を得る。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	仏教文化史の研究方法、授業の進め方、評価方法の説明。				
第2回	仏教文化の地域区分と年代区分 総論				
第3回	インド - 仏教文学の発祥 と仏教美術の発生 無仏時代からガンダーラ様式とマトウラー様式				
第4回	インド-グプタ様式とポストグプタ期～サルナート派の成立				
第5回	インド-グプタ様式とポストグプタ期～サルナート派の成立				
第6回	シルクロードと仏教文化の伝播				
第7回	中国の仏教芸術 - 六朝時代と北魏様式				
第8回	中国の仏教芸術 - 隋・唐代 以降				
第9回	中間発表				
第10回	朝鮮半島の仏教美術				
第11回	日本 - 黎明期の仏教文化と国風文化の成立				
第12回	日本 - 鎌倉期～安土桃山期の仏教文化				
第13回	東南アジア-クメールの仏教美術				
第14回	東南アジア-ミャンマー・タイ・ベトナム・ラオスの仏教美術				
第15回	学期末発表会				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：特にない。辞典：『仏教文化事典』金岡秀夫・柳川啓一共編(佼成出版)他、その国や時代により、適宜授業中に紹介する。必要資料はファイルキャビネットにアップしておくので、各自でダウンロードして、事前に学習に用いること。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
仏教芸術専攻の学生は、必修科目、専門基礎科目であるため、2年次で受講することが望ましい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人智寂坊代表役員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教文化系科目		
講義名	[07059] 日本文化史						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
この授業は日本文化とその歴史について、主に仏教からの影響を中心として勉強していきます。日本文化は仏教を始め様々な外来文化を受容する一方、それを独自に改変・展開することで多彩な広がりを見せています。本講義では文学・美術などの芸術作品や、年中行事などの風習・慣習などを糸口とし、古代から近現代に至るまでの日本文化について理解を深め基本的な知識を習得することを、受講生の到達目標とします。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
日本文化について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（50%）により、総合的に評価を行ないます。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	聖徳太子と日本						
第3回	仏教文学（1）：古典						
第4回	仏教美術						
第5回	神仏習合の文化（1）：その諸様相						
第6回	神仏習合の文化（2）：日蓮聖人と神祇						
第7回	唱える仏教（1）：その創出						
第8回	唱える仏教（2）：その展開						
第9回	お盆の諸相						
第10回	葬式の諸相						
第11回	食文化と仏教						
第12回	日本文化創出の試み						
第13回	仏教文学（2）：近代						
第14回	近代知識人の日本文化論（坂口安吾、南方熊楠らを中心に）						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』（吉川弘文館、2014）、蓑輪顕量『日本仏教史』（春秋社、2015）、末木文美士『日本宗教史』（岩波新書、2006）							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[06680] 地域福祉演習			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充	タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
地域社会と福祉の関係を、共同体と個人の視点から捉え、これからの地域福祉の抱える問題を講義する。その上で、現在想定出来得る地域福祉の課題を取り上げ、演習を通して実際の模擬活動を行い、課題解決のプロセスを体験し、その方法を習得する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
地域社会と社会福祉の関係を理解して、地域における福祉環境の向上に寄与できる視点と、具体的な問題解決能力を培うことを目標にする。そのため、本授業では福祉ニーズに対応できる基礎力を養うことを目標とする。具体的には、事例研究を通して、福祉ニーズの多様性を受容できる感性と、そのニーズを満たすためのスキルを得ることが学修の成果となる。これらの成果を獲得することで、次の実践へ向けてのステップとなる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
これまでの学修により培われてきた社会福祉の知識を、講義形式ではなく、地域社会の中で活かして行く授業形式をとるため、学外における活動が中心となる。具体的には、身延町や身延町社会福祉協議会、社会福祉施設、社会的弱者と呼ばれる方々との面談や、訪問を通じて、ニーズを探り、社会福祉施設との橋渡しを行うことや、事業者の抱える問題点の解決に向けた方策の策定に関わり、実行してPDCAサイクルの方法論を身につける。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
授業の活動内容により、事前学習の内容も異なるため、その都度、事前学習の内容を指示する。概ね、2時間は要する。事後学習は、活動の記録を正確に残し、活動に対する所見を意識して作成することになる。概ね、1時間30分を必要とする。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
地域福祉に関する理解（20%）と、様々な利用者に対応できる能力の獲得（20%）、地域活動の中から見えてくる課題抽出とその方策の策定（20%）、全体を通じた内容の総合的な能力の獲得（40%、学修目標の達成度）といった項目をルーブリック形式によるシートを用いて評価する。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業の進め方と成績評価の考え方の説明。授業に取り入れる活動に関する説明と、留意点の提示。			
第2回	地域共同体とは何か。			
第3回	地域福祉の実際（県、市、町の活動と政策）理解			
第4回	地域福祉の事例			
第5回	地域福祉の事例			
第6回	地域福祉の担い手と活動の内容			
第7回	利用者との関わり（身体障害者）			
第8回	利用者との関わり（高齢者）			
第9回	利用者との関わり（さまざまな人々との関わり）			
第10回	地域課題と解決方法			
第11回	地域課題と解決方法			
第12回	改善策の実行と検証、修正			
第13回	修正策の実行と検証、さらなる修正			
第14回	再修正策の検証とニーズ満足度の調査			
第15回	調査の分析とまとめの作成、事業主体者への報告と評価			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：「事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク」 川村隆彦著 中央法規出版				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 講義形式と演習により模擬的ではあるが実際の地域課題を扱うので、中途半端な姿勢で望むことは厳に慎んでください。個人情報に触れる内容もあるので、十分に注意して行動すること。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
池上要靖：火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.) 高橋賢充：火曜日1限目と水曜日2限目				

【実務経験】

池上要靖：保護司

高橋賢充：社会福祉士

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[06681] 地域福祉実践				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
地域における福祉活動を通して、現状の問題点を抽出して、その具体的な解決方法を、周囲と連携、調整して解決してゆく。PDCAサイクルの考え方と実際に学ぶ。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
福祉現場で求められている「考える力」「言語化する力」「文章化する力」「協働する力」を身につける。事例研究で学んだことを、福祉現場にて実践し、福祉現場で必要な問題解決能力を身につける。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
リアクションペーパーを使用し、教員と学生の双方向の授業を展開していく。2～7回の授業で提出するリアクションペーパーは、授業の理解度だけでなく、自らが考える力を身につけるために実施する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
毎回の授業のリアクションペーパー・授業で出される課題の内容（20%）、レポート（30%）、定期試験（50%）					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	授業の進め方と成績評価の方法（ループリック形式）の説明。福祉実践とは何か。				
第2回	福祉実践に必要なスキルと事例（利用者との関わり）				
第3回	事例をとおして考える（地域共同と多職種協働）				
第4回	PDCAサイクルの考え方と実際の運用方法				
第5回	実践記録の方法				
第6回	福祉実践演習（障害者との関わり方の復習）				
第7回	福祉実践現場の理解と見学				
第8回	福祉実践活動				
第9回	福祉実践活動				
第10回	福祉実践活動				
第11回	福祉実践活動				
第12回	福祉実践活動				
第13回	福祉実践活動総括と振り返り				
第14回	福祉十背における評価とは				
第15回	全体の総括と試験				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：「事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク」 川村隆彦著 中央法規出版 参考図書：「どうすれば福祉のプロになれるか カベを乗り越え活路を開く仕事術」 久田則夫著 中央法規出版					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 社会福祉援助技術論 ～ ・社会福祉援助技術演習 ・ を習得していることが望ましい。福祉現場での就職を志望している学生が積極的に受講してほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
池上要靖：火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.) 高橋賢充：火曜日1限目と水曜日2限目					
<b>【実務経験】</b>					
池上要靖：保護司 高橋賢充：社会福祉士					

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07054] 仏教福祉の実践					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講 義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年		
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>						
社会福祉の分野で、仏教者や仏教の諸要素がいかに係ることができるか、実践例をあげながら考察する。加えて、仏教を基調にした社会福祉法人の運用する施設見学などを通して、仏教福祉の将来的な可能性についても考察する。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
受講生は、公益法人である社会福祉法人の一員としての役割と、人間性の発露としての福祉活動との接点を見据えられるようになることが目標である。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
基本的には講義形式であるが、施設見学と実際のボランティアも経験する。講義に臨む際には、あらかじめ資料を提示するので、予習が必要である。また、見学等に関してはその施設の概略を事前に調べる必要がある。受講後は、レポートが課せられるので、資料をよく整理しておくこと。プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。授業終了時に次回の学修範囲を指定し、資料を配布するので、その資料を熟読して内容の理解を深めることを事前学修とし、事後学修では、当該授業の内容を整理して名オートを作成すること。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
最終確認レポート（40%）、中間レポート3回（30%）、授業への取り組み（30%、含：施設見学）。各講義の最後に次回講義の概略を説明するので、その内容に沿った参考書等を熟読しておくこと。受講後は講義ノートを整理して、内容の理解に努めること。最後にノートの提出を求める。						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	授業のオリエンテーション					
第2回	仏教理念と福祉活動の接点					
第3回	エンゲージド・ブディズムとしての視点					
第4回	社会福祉(生活困窮者自立支援法の行方)と仏教福祉活動					
第5回	仏教福祉の実例					
第6回	仏教福祉の実例					
第7回	仏教福祉技術論～対人技術とコミュニケーション					
第8回	仏教福祉技術論～社会資源と仏教的資源					
第9回	仏教福祉技術演習（1）					
第10回	仏教福祉技術演習（2）					
第11回	仏教福祉技術演習（3）					
第12回	施設見学およびボランティア活動の事前指導					
第13回	施設見学とボランティア活動					
第14回	施設見学とボランティア活動					
第15回	まとめとノート提出					
<b>【教科書・参考書】</b>						
テキストはとくに指定しない。必要な資料を適宜配布する嵐関がある。辞書として、『仏教社会福祉辞典』日本仏教社会福祉学会編(法蔵館)。参考書は、『仏教と社会福祉』志田利著(平楽寺書店)、『心を支える・ビハラー』田代俊孝編(法蔵館)、『仏教とビハラー運動』田代俊孝長(法蔵館)等、授業の進捗に合わせて紹介する。						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
ただ講義を聴くだけでなく、内容を理解した上で、積極的に講義に参加して、技術習得に努めてもらいたい。「仏教福祉学概論」を履修済であること。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)						
<b>【実務経験】</b>						
保護司						

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目			福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07125] キャリア教育				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
一歩進んだ英語を使えるようになるための授業です。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
主に英語の上級コース、特に学生に必要な英語知識の応用コースを提供します。本講義をすることにより学生はその希望に則した、それぞれのキャリアに役立つ英語の修得できます。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
ここ数年、少人数のため時間を決めて研究室で一对一の学習をしていますが、人数が多いと教室での講義となります。TOEIC狙いの学生にはTOEICの教材を使って、英語で会話を希望のある学生には会話学習の教材で対応していきます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
この場合、評価は授業への取り組みと試験と宿題を基準に行います。目安として、授業への取り組みと学力確認試験は40%ずつで、課題などその他は20%です。受講前に用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	Pronunciation				
第2回	Greetings				
第3回	You and Your Family				
第4回	Everyday Life in Minobu				
第5回	Future Dreams				
第6回	High School Days				
第7回	中間テスト				
第8回	Reading Comprehension				
第9回	Telephoning				
第10回	Fixing an Appointment				
第11回	Complaints				
第12回	Requests and Offers				
第13回	Specific Career Terminology 1				
第14回	Specific Career Terminology 2				
第15回	まとめ及び振り返り				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：最初の授業の際、一緒に選びます。参考書：英和・和英辞典 など					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
高度な勉強です。発音などに関しては厳しく指導しますので、しっかり話せるようになりたい方に受講していただきたいです。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日 5時限					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学科 開設科目	福祉・生涯学習関係科目

講義名	[07135] 手話入門
-----	--------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	望月 香代	モチヅキ カヨ	mochizuki kayo
-----	-------	---------	----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

手話を学ぶとはどのようなことなのか。普段学ぶことのない言語としての手話を、自己紹介ができる程度身につけられるように演習していきます。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

人間には「コミュニケーション力」が大切だと言われています。また聴覚障害者が使う「手話」も言語であると認知されています。本授業を受講することにより、聴覚障害者を理解することにつながります。また聴覚障害者の言語である手話を覚え、手話で自己紹介が話でできるようになります。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

初級のテキストを使い手話の語彙を覚えていきます。繰り返し手話単語を練習し、自己紹介ができるように学習します。また、聴覚障害者のことを知るために教材を使用したり、聴覚障害者からの話を見る（聴く）時間も含めていきます。授業中に前回の授業で覚えた単語が身についているか、実技確認をおこないます。また、授業内容に沿ったテーマから関連の言葉について確認をしていきます。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、授業ごとのテキスト内容を確認すること。事後の学習では、授業中に覚えた単語を復習しておくこと。また出された内容についてレポートを書いておくこと。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業への取り組み姿勢（30%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	聴覚障害者について・手話の必要性を学ぶ つたえあってみましょう！
第2回	あいさつの手話を覚えましょう
第3回	自己紹介しましょう（その1）名前を表してみましょう
第4回	自己紹介しましょう（その2）名前を表す手話と指文字を覚えましょう
第5回	自己紹介しましょう（その3）家族について話しましょう
第6回	自己紹介しましょう（その4）家族の手話を使って話しましょう
第7回	実践（聴覚障害者と交流）
第8回	自己紹介しましょう（その5）趣味について話しましょう
第9回	自己紹介しましょう（その6）趣味の手話を使って話しましょう
第10回	自己紹介しましょう（その7）仕事について話しましょう
第11回	自己紹介しましょう（その8）仕事の手話を使って話しましょう
第12回	実践（聴覚障害者と交流）
第13回	自己紹介しましょう（その9）住所について話しましょう
第14回	自己紹介しましょう（その10）住所の手話を使って話しましょう
第15回	まとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2013年、参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年

**【学生へのメッセージ】**

初めて出会う言語である手話に、興味を持って授業に臨んで下さい。授業中に指示した内容を確認し、復習しつつ受講することが授業の理解につながります。

**【オフィスアワー】**

水曜日：11:00～14:00と授業終了後。e-mail:kayomochi(a)min.ac.jp

**【実務経験】**

手話通訳士資格取得し22年。その通訳経験をもとに、演習を繰り返し、聴覚障害者の背景も具体的に学べるように進めます。

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07136] 手話基礎						
期 間	後期（15回）		単位数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	望月 香代		モチヅキ カヨ		mochizuki kayo		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
前期に学んだ手話とはどのようなものだったのか。言語として学んだ手話を、聴覚障害者と実践的に使えるように演習していきます。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
手話の語彙を覚え、聴覚障害者に自己紹介ができたことを元に、さらにコミュニケーションを取るにはどのようにしたらよいのでしょうか。同じ社会に暮らしている聴覚障害者はどのような人達なのでしょう。本授業を受講することにより、手話で話せる内容がより実践的なものになります。また聴覚障害者について、生活面から考えられるようになります。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
テキストをもとに、手話の語彙と手話の基礎を身につけ、学生同士が確認しながら覚えられるように学習します。また聴覚障害者に自分のことを手話で語れるように繰り返し確認していきます。聴覚障害者から生活面の話をしてもらい時間を作ります。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習をおこなうこと。事前の学習では、授業ごとのテキスト内容を確認すること。事後の学習では、授業中に覚えた単語を確認しておくこと。また出された内容についてレポートを書いておくこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業への取り組み姿勢（30%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	自己紹介のまとめ						
第2回	手話の形・基礎（その1）						
第3回	「たずねることば」を覚えましょう						
第4回	手話の形・基礎（その2）						
第5回	時間にかかわることばを覚えましょう						
第6回	まとめの試験						
第7回	実践（聴覚障害者と交流）						
第8回	手話の形・基礎（その3）						
第9回	季節にかかわることばを覚えましょう						
第10回	手話の形・基礎（その4）						
第11回	食べ物を表す手話を覚えましょう						
第12回	手話の形・基礎（その5）						
第13回	いろいろな企画を考えよう						
第14回	話しましょう（テーマにそって手話で話す）						
第15回	実技試験を含めてのまとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2013年、参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
言語としての手話を学び、今後の自分にどう結び付けるかを考えながら、受講して下さい。授業中に指示されたこと、覚えた単語を復習する積み重ねが大切です。最終的には、聴覚障害者を知り、テーマに沿った内容を、聴覚障害者に伝えるように手話でコミュニケーションすることを目指して学んで下さい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日：11:00～14:00と授業終了後。e-mail:kayomochi(a)min.ac.jp							
<b>【実務経験】</b>							
手話通訳士資格取得し22年。その通訳経験をもとに、演習を繰り返し、聴覚障害者の背景も具体的に学べるように進めます。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07137] 手話実践(日常会話)						
期間	前期(15回)		単位数	選択(1)		種類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	望月 香代		モチヅキ カヨ		mochizuki kayo		
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>							
手話を学ぶことで知った聴覚障害者の存在を頭に入れながら、言語としての手話の力を深めていきます。演習することで手話を身に付け、手話を読み取れるようにします。							
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b>							
前年までに、聴覚障害者とのコミュニケーションとはどのようなものか、体験を通して学んで来ています。そのことを基礎とし、本授業では、手話の特徴を学びながら語彙を増やしさらにコミュニケーション力が身につくようになります。また聴覚障害者の理解をさらに深めるため、聴覚障害者から話をしてもらおう時間を作り、実践的に学びます。							
<b>【授業方法(フィードバックの内容)】</b>							
テキストに添いながら、生活で使う手話の語彙を繰り返し覚えていきます。また、自分のことが手話で話せるように、毎回一人一人が発表をおこないます。実践を主にした授業を進めていきます。聴覚障害者とのコミュニケーションにより、聞こえないことを具体的に学べるようにします。							
<b>【授業外学修の方法(時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習をおこなうこと。事前学習では、自分が話したいをまとめ、手話単語の確認をおこなうこと。事後学習では、授業の中で覚えた単語を復習すること。授業中に指示されたことを確認し、レポートを書いておくこと。							
<b>【成績評価(方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢(40%)、小テスト(20%)、レポート(20%)、学力確認テスト(20%)により総合評価します。							
<b>【授業計画(各回の授業内容)】</b>							
第1回	自己紹介(名前・住所・家族・趣味・数字)表現と読み取り						
第2回	自己紹介(仕事・あなたの家・指文字)表現と読み取り						
第3回	話しかけてみましょう(一日・一ヶ月・一年)表現と読み取り						
第4回	話しかけてみましょう 表現と読み取り						
第5回	話しあってみましょう 表現と読み取り						
第6回	まとめ						
第7回	実践(聴覚障害者と交流)						
第8回	具体的表現1(形・動作・状況を工夫して表現しましょう)						
第9回	具体的表現2(意味をつかんで表現しましょう)						
第10回	置き換えの表現(意味に合った手話を表現しましょう)						
第11回	実践(聴覚障害者と交流)						
第12回	表情(表情の強弱・速度を工夫して表現しましょう)						
第13回	主語の明確化(その1)(位置・方向を工夫して表現しましょう)						
第14回	主語の明確化(その2)(位置・方向を工夫して表現しましょう)						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書:『手にことばを』(公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟)2013年、参考書:『手話を学ぼう 手話で話そう』(社会福祉法人全国手話研修センター)2014年、『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう!』(一般社団法人全日本ろうあ連盟)2014年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
前年度学んだことを土台にし、自分が伝えたいことをまとめる準備をし授業に出席して下さい。コミュニケーションを通して伝えること・伝わることを感じられるように進めていきます。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日:11:00~14:00と授業終了後。e-mail:kayomochi(a)min.ac.jp							
<b>【実務経験】</b>							
手話通訳士資格取得し22年。その通訳経験をもとに、演習を繰り返し、聴覚障害者の背景も具体的に学べるように進めます。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07138] 手話実践(通常会話)						
期間	後期(15回)		単位数	選択(1)		種類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	望月 香代		モチヅキ カヨ		mochizuki kayo		
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>							
今まで学んできた手話とはどのようなものなのか。自己紹介、実践会話を通して身に付けた手話をさらに使用言語となるように演習していきます。							
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b>							
聴覚障害者は私たちと同じ社会で暮らしています。今後、出会うこともあるはず。その時、当たり前前にコミュニケーションができるのは大切なことです。また、聴覚障害者について他の人に話せることも大切です。今までの授業で学んだ手話をもとに、本授業では、自分ができるコミュニケーションを身につけられるように、実践を重視した授業を学びます。また、仲間とのコミュニケーションも必要だと再確認ができるように、グループで学びます。							
<b>【授業方法(フィードバックの内容)】</b>							
前半はテキストを使用しながら、語彙の確認を中心に実践練習を行いません。後半は、聴覚障害者を考えて自分ができるコミュニケーションを考え、手話で発表できるように確認していきます。							
<b>【授業外学修の方法(時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習をおこなうこと。事前学習では、授業内容を確認すること。特に後半は自分の内容を考えてくること。事後学習では、授業中自分が気付いたことをまとめ、振り返りを行う。また、授業中指示されたことを確認する。							
<b>【成績評価(方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢(40%)、小テスト(20%)、学力確認テスト(40%)により総合評価します。							
<b>【授業計画(各回の授業内容)】</b>							
第1回	基本文法の確認						
第2回	手話の形・方向・位置のまとめ(その1)						
第3回	手話の形・方向・位置のまとめ(その2)						
第4回	手話の形・方向・位置のまとめ(その3)						
第5回	手話の形・方向・位置のまとめ(その4)						
第6回	手話の形・方向・位置のまとめ(その5)						
第7回	実践(聴覚障害者との交流)						
第8回	自分のコミュニケーション方法を考える(その1)						
第9回	自分のコミュニケーション方法を考える(その2)						
第10回	自分のコミュニケーション方法を考える(その3)						
第11回	自分のコミュニケーション方法を知る(その1)						
第12回	自分のコミュニケーション方法を知る(その2)						
第13回	自分のコミュニケーション方法を伝える(その1)						
第14回	自分のコミュニケーション方法を伝える(その2)						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書:『手にことばを』(公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟)2013年、参考書:『手話を学ぼう 手話で話そう』(社会福祉法人全国手話研修センター)2014年、『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう!』(一般社団法人全日本ろうあ連盟)2014年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業中に仲間通しでやり取りしたことを考え、復習し次の受講をすることが望ましい。今後自分が人として成長していく上で、何が大切なのか、何をしなければならないかを、一人一人が考え、みんなで話せるようにしてほしい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日:11:00~14:00と授業終了後。e-mail:kayomochi(a)min.ac.jp							
<b>【実務経験】</b>							
手話通訳士資格取得し22年。その通訳経験をもとに、演習を繰り返し、聴覚障害者の背景も具体的に学べるように進めます。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07148] ボランティア活動の単位認定						
期間	通年（2回）		単位数	選択（1）		種類	実習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
学外におけるボランティア活動に対し、単位認定を行う。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
ボランティア活動に通算5日以上参加した場合に、単位を認定する。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
各学生がボランティア活動として通算5日以上参加した場合に、単位を認定する。なお、ボランティアの日程・内容及び感想をまとめたレポートを提出すること。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前に出題させる課題についての学修（120分以上） 受講後の理解の深めと応用方法学修（120分以上）							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
提出されたレポートと面接により評価する。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	事前学習（オリエンテーション）						
第2回	事後学習（ボランティア活動報告）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書・参考書：単位認定における関連書籍							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
ボランティアとは、「助ける」ことと「助けられる」ことが融合した、魅力にあふれた活動である。ボランティア活動に、参加することは自分の成長にとっても得るものが多い。積極的に活動することを期待する。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07149] 社会活動の単位認定					
期間	通年（2回）		単位数	選択（1）		種類 実習
対象学年	1年	2年	3年	4年		
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>						
学外における社会活動に対し、単位認定を行う。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
社会的活動に通算5日以上参加した場合又は、大学生レベルの各種資格を取得した場合に単位を認定する。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
1. 社会的活動を通算5日以上参加した場合に、単位を認定する。なお、活動日程・内容及び感想をまとめたレポートを、提出すること。例：地方公共団体等から依頼のあった場合。 2. 在学中に大学生レベルの各種資格を取得した場合に、単位を認定する。認定できる資格か否かは、学務に問い合わせること。例：英検準1級 気象予報士 ホームヘルパー1級 情報処理技術者1級 その他。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
事前に出題させる課題についての学修（120分以上）、受講後の理解の深めと応用方法学修（120分以上）。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
1. 社会的活動の場合 提出されたレポートと面接により評価する。 2. 各種資格の場合 資格を取得したことを証明できる物の写しを提出すること。						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	事前学習（オリエンテーション）					
第2回	事後学習（活動報告）					
<b>【教科書・参考書】</b>						
教科書・参考書：単位認定における関連書籍						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
資格は財産である。在学中に積極的に、資格取得にトライしてみよう。在学中において取得した資格に限る。詳細については、学務に問い合わせること。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）						
<b>【実務経験】</b>						
宗教法人法養寺代表役員						

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07153] 仏教福祉学概論						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
<p>仏教と社会福祉の関係を、仏教発祥の地インドから概観して、現代の社会福祉の問題点を、仏教的活動からどのように理解できるかを考察する。また、仏教は、自己と他者との関係について、特に優れた思想を有している。この思想を社会福祉学の観点から捉えなおし、現代的エートスに置き換えることが可能かどうかを考察する。</p>							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
<p>本学の教育の三本柱の一つである社会貢献を実現してゆくために、現代の福祉社会に有益な思想体系として再構築されたものを仏教福祉学と位置づけて、その概要を把握することを目的とする。そのため、仏教思想に裏付けられた福祉ワークの重要性を理解し、現代の社会福祉へどのようなアプローチが可能かについて、立案し自ら主体的に考えられるようになることを目標とする。</p>							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
<p>テキストにそって、プロジェクターなどを用いて、解説を加える講義形式である。必要な資料は、予め本学HP上にあるファイルキャビネットに収納してあるので、そこからダウンロードすること。講義中には、専門用語に関する質問や、課題を出すので、検索用使用するタブレットは必携である。</p>							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
<p>事前学修について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容をテキストページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約2時間を要する。 事後学修について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を要する。</p>							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
<p>最終確認テスト50%、授業中の取り組み30%、中間レポート10%、ノート提出10%。 ・授業中の取り組みの基準は、テキストの当該箇所の理解と、質問、授業中の積極的な姿勢により判断する。 ・中間レポートの内容は、テキスト・資料の理解が深まっているかを判断する。 ・ノート提出は、事前事後の学習成果も含んだ講義内容についてまとめたものを、最終回の講義終了1週間以内に提出してもらう。</p>							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	オリエンテーション - 授業の進め方とテキストと資料の紹介 -						
第2回	仏教社会福祉とは何か？(テキストpp.9-31)						
第3回	仏陀の教え - 自己と他者、四無量心、四正勤、福田思想 - (テキストpp.109-118)						
第4回	大乘仏教の思想と社会福祉 - 菩薩、縁起、回向、平等、報恩、救済 - (テキストpp.109-118)						
第5回	仏教社会福祉のあゆみ - 先人の偉業 - (テキストpp.35-43)						
第6回	仏教社会福祉のあゆみ - 近代～戦後 - (テキストpp.44-64)						
第7回	仏教社会福祉の支援 - 生活弱者支援 - (テキストpp.67 73、101-106)						
第8回	仏教社会福祉の支援 - 高齢者支援 - (テキストpp.80-88、130-137)						
第9回	仏教社会福祉の支援 - 子育て支援 - (テキスト pp.74-79、140-148)						
第10回	仏教社会福祉の支援 - 地域福祉 - (テキストpp.95-100)						
第11回	仏教社会福祉の支援 - 看取りのケア - (テキストpp.89-94)						
第12回	仏教社会福祉の支援 - 司法福祉 - (テキストpp.159-169)						
第13回	仏教社会福祉の支援 - 障害者福祉 - (テキストpp.149-158)						
第14回	仏教社会福祉の有効性(テキストpp.119 128、170-189)						
第15回	まとめと評価						
<b>【教科書・参考書】</b>							
<p>教科書：『仏教社会福祉入門』日本仏教社会福祉学会編（法蔵館）。辞書では、『仏教社会福祉辞典』仏教社会福祉学会編（法蔵館）が唯一である。参考書は、『吉田久一著作集』全7巻（川島書店）、『佛教福祉研究』水谷幸正先生古希記念会編（思文閣出版）、『仏教福祉の思想と展開に関する研究』清水海隆著（大東出版社）、『佛教と福祉の研究』龍谷大学短期大学部編（永田文昌堂）、『仏教社会福祉論考』中垣昌実著（法蔵館）、『仏教とピハラー運動』田代俊孝著（法蔵館）、季刊『佛教』第51号 - 介護と佛教福祉 -、など多数あるので詳細はオリエンテーション時に紹介する。</p>							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
<p>大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 2年次以降の受講を希望する。ある程度専門的な用語の理解ができなければ、授業の進展についてくるのが困難であると考えられる。ゆえに、法学、日本国憲法、仏教学入門、倫理学、日蓮学入門の各科目の単位取得後の履修が望ましい。そして欠席しないこと、特に福祉に携わる人の基本は他者の言葉を傾聴できるかどうかにある。</p>							

**【オフィスアワー】**

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。

**【実務経験】**

保護司、元身延町教育委員、宗教法人智寂坊代表役員

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07155] 教育原理						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
教育の理念や思想、制度とその変遷についての概略を学びます。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
近代から現代に至る日本の教育の思想と歴史をたどり、現在子どもが直面する課題と子どもの権利を保障する教育改革の原理およびその内容を探りたい。子どもが直面する課題と教育改革の理論とその内容について理解できることを目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
基本的に講義形式。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習は、指示された資料、文献をあらかじめ読んでおく。事後学習は、授業を振り返りながら、要点をノートにまとめる。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
学力確認テスト(80%)、小レポートを含む授業への取組の姿勢(20%)							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	オリエンテーション 教育学を学ぶ意義						
第2回	近代公教育制度の発足（1）近代学校成立の意味						
第3回	近代公教育制度の発足（2）教育目的をめぐる論争						
第4回	教育勅語の成立とその意味						
第5回	大正新教育運動と教育改革						
第6回	ファシズムと教育						
第7回	戦後教育改革（1）敗戦と教育						
第8回	戦後教育改革（2）敗戦と教育						
第9回	教育の逆コース						
第10回	高度成長期の教育思想						
第11回	現代教育問題（1）おちこぼれ・体のおかしさ・非行・家庭内暴力						
第12回	現代教育問題（2）校内暴力・管理教育（体罰、校則）						
第13回	現代教育問題（3）いじめ・不登校						
第14回	臨時教育審議会の設置と新自由主義改革の展開						
第15回	子どもの権利条約の思想、まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
テキストは使用しないが教職課程共通に使用する資料として、浪本勝年・他編『ハンディ教育六法』（北樹出版）を用意してほしい。適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。とりあえず竹内常一『少年期不在』（青木書店）、竹内常一『教育を変える』（桜井書店）、田沼朗・他編『いま、なぜ教育基本法の改正なのか』（国土社）、山住正己『日本教育小史』（岩波書店）に目を通してほしい。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、15時から16時、水曜日12時から13時							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07157] 社会福祉概論 法定科目						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解する。社会福祉士養成科目に位置付けられている。現代社会における「社会福祉」の意義や理念、社会福祉援助技術の方法、法、行政、財政の体系、わが国および諸外国の歴史や動向などを学ぶ。社会福祉援助職として求められる社会福祉の基本的な理念や知識を理解し、専門性の向上を目指す。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
相談援助活動の背景について理解する。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習：毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後学習：授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
試験50%、レポート・リアクションペーパー30%、学習態度20%などを総合的に評価。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	現代社会における福祉制度と福祉政策 (1)福祉制度の概念と理念						
第2回	" (2)福祉政策の概念と理念						
第3回	" (3)福祉制度と福祉政策の関係						
第4回	" (4)社会と生活のしくみ						
第5回	5 福祉制度の発達過程		(1)前近代社会と福祉				
	6 "		(2)戦後の社会福祉				
	7 "		(3)社会福祉基礎構造改革と社会福祉の変遷				
	8 "		(4)地域包括ケアシステムと地域共生社会				
	9 福祉政策におけるニーズと資源		(1)需要とニーズの概念				
	10 "		(2)資源の概念				
第6回	4 福祉制度の発達過程		(4)社会と生活のしくみ				
			(1)前近代社会と福祉				
第7回	" (2)戦後の社会福祉						
第8回	" (3)社会福祉基礎構造改革と社会福祉の変遷						
第9回	" (4)地域包括ケアシステムと地域共生社会						
第10回	福祉政策におけるニーズと資源 (1)需要とニーズの概念						
第11回	" (2)資源の概念						
第12回	" (3)資源の概念						
第13回	福祉政策の課題 (1)福祉政策と社会問題						
第14回	" (2)福祉政策と社会問題						
第15回	" (3)福祉政策の現代的課題						
第16回	" (4)福祉政策の課題と国際動向						
<b>【教科書・参考書】</b>							
中央法規出版 社会福祉士養成講座「現代社会と福祉」第4版。授業中に適宜プリントを配布する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日1限目と水曜日2限目。e-mail：ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。							

**【実務経験】**

社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07158] 社会福祉概論 法定科目						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
福祉政策の構成要素について理解する。福祉政策と関連政策の関係について理解する。社会福祉士養成科目に位置付けられている。現代社会における「社会福祉」の意義や理念、社会福祉援助技術の方法、法、行政、財政の体系、わが国および諸外国の歴史や動向などを学ぶ。社会福祉援助職として求められる社会福祉の基本的な理念や知識を理解し、専門性の向上を目指す。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後学習～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
試験50%、レポート・リアクションペーパー30%、学習態度20%を総合的に評価。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	福祉政策の構成要素		(1)福祉政策の論点				
第2回	"		(2)福祉政策の論点				
第3回	"		(3)福祉政策の論点				
第4回	福祉政策における政府の役割						
第5回	福祉政策における市場の役割						
第6回	福祉政策における国民の役割						
第7回	福祉供給部門		(1)政府部門、民間部門				
第8回	"		(2)ボランティア部門、インフォーマル部門、その他				
第9回	福祉供給過程						
第10回	福祉利用過程		(1)スティグマ、情報の非対称性				
第11回	"		(2)受給資格とシティズンシップ、その他				
第12回	福祉政策と関連政策		(1)福祉政策と教育政策				
第13回	"		(2)福祉政策と住宅政策				
第14回	"		(3)福祉政策と労働政策				
第15回	相談援助活動と福祉政策の関係 - 福祉供給の政策過程と実施過程						
<b>【教科書・参考書】</b>							
中央法規出版 社会福祉士養成講座 「現代社会と福祉」第4版 資料は適宜配布する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。社会福祉概論 は社会福祉概論 の学びが基礎となる。社会福祉概論 を修了してから受講することが望しい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日1限目と水曜日2限目。e-mail : ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。							
<b>【実務経験】</b>							
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務							

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07168] カウンセリング入門					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講 義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年		
担当者	稲永 澄子		イナナガ スミコ		inanaga sumiko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>						
心の治療（カウンセリング）とは何かを、さまざまな技法を学びながら考えていく。「野の医者は笑う 心の治療とは何か」東畑開人著（誠信書房）を5月の連休明けの授業までに読み終えること。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
カウンセリングとは何か、その目的や方法を理解し、真のカウンセリングマインドを身につける。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
講義を主体とし、演習も取り入れる。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
この授業では、毎回60分程度の事後の学習を行うこと。事後学習では、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。わからないところを次回の講義の時に質問して明らかにする。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
評価方法：期末試験50% 授業への取組の姿勢50%。出席率が50%に満たない場合は、試験を受けることができない。						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	野の医者は笑う」の読後ディスカッション					
第2回	ここはどこにあるの？ ところのとらえ方					
第3回	カウンセリングの理論1：精神分析療法1（フロイトの時代）フロイト、ユング					
第4回	カウンセリングの理論2：条件反射（パブロフ）					
第5回	カウンセリングの理論3：精神分析療法2（新フロイト派）A.フロイト、M.クライン					
第6回	カウンセリングの理論4：クライアント中心療法（ロジャーズ）					
第7回	カウンセリングの理論5：認知療法（ベック）うつ病の認知療法					
第8回	カウンセリングの理論6：認知行動療法（認知再構成法、行動活性化）					
第9回	カウンセリングの理論7：行動療法（スキナー）ABA行動分析					
第10回	カウンセリングの理論8：第3世代の認知行動療法：マインドフルネスと瞑想					
第11回	カウンセリングの理論9：日本のカウンセリング理論：森田療法					
第12回	カウンセリングの理論10：グループカウンセリング（エンパワメントとセルフヘルプグループ・家族療法）					
第13回	カウンセリングの理論11：ポストモダンの心理療法（解決志向・エリクソン催眠・自我状態療法）					
第14回	カウンセリングの理論12：身体志向のカウンセリング（EMDR・SE・BSP・BCT）					
第15回	期末試験					
<b>【教科書・参考書】</b>						
参考書：「野の医者は笑う 心の治療とは何か」東畑開人著（誠信書房）、「精神科医松井紀和が語るカウンセリングを学ぶ人のための心理療法の基礎と実際」、「『うつ』を生かすーうつ病の認知療法」大野裕著（星和書店）、「いじめられっ子の流儀」ケイト・コーエン・ポージー著 奥田健次監訳（学苑社）						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
真剣にカウンセリングを学びたい学生を望む。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
講義の時間帯						
<b>【実務経験】</b>						
偕成会住吉病院に心理士として40年間勤務。クライアントのニーズに応じたカウンセリングの基本を実例と演習を取り入れて身につくように講義する。						

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07171] 仏教と社会活動						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
ボランティア活動と宗教的实践について学ぶ。ボランティアとは何か、具体的な活動の事例、遵守事項と振り返りについての理解を深め、間違いの起こらない活動、つまりはリスクを回避して、行すべき活動がしっかりと遂行できるノウハウを学ぶ。そして、その活動の支柱となる仏教の精神性についての理解を深め、実際の活動との整合を確かめる。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
現代社会における実践的仏教行動論とその精神的基盤の紹介（救援活動、現代社会における宗教活動、若年者との関わり、終末期のヴィハーラ活動）と、自分自身のいのち、および現代社会における寺院・僧侶のあり方を考え、具体へと結び付けられるプロセスを学び、自己実現へのスキルを獲得できることを目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
考え方の基礎となる部分を講義で、具体的な実践活動の紹介をディスカッションを通して学び、仏教福祉の社会活動に対する考えをまとめる。福祉施設の現状や問題を理解して、当事者に寄り添うことを学べるように事例を研究する。そして、実際の活動現場に赴き、五感を使い体験を通して、スキルの獲得に努める。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回授業形態が異なるので事前学習に要する時間も異なるが、講義の場合は、概ね2時間の事前事後学習時間、演習の場合は、事前が3時間、事後が2時間、活動現場に赴く際はその活動に見合った基礎スキルが獲得されるまでが事前学習と定め、事後学習はその振り返りとする。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
講義内容の確認を試験で30%、演習と事例研究が40%でレポートによる、そして実際の活動スキルが獲得されているかが30%（ルーブリック形式）である。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	講座開設の趣旨、目的と成果、評価方法と仏教と福祉の関係からいのちに関するオートノミーの解説。						
第2回	仏教的な社会貢献と身延山大学						
第3回	寄り添うとはどういうことか～大学の社会的貢献に関するディスカッション						
第4回	いのちの尊厳～福島放射能汚染（DVDの視聴とディスカッション）						
第5回	東日本大震災と日本人の死生観						
第6回	若年者と仏教との関わり						
第7回	こども食堂や学習支援活動の方法						
第8回	こどもをどうやって支えていくか？（事例とディスカッション）						
第9回	ヴィハーラ活動とは何か。歴史的観点から定義する。						
第10回	高齢者との関わり方、障がい者との関わり方と仏教的方法論						
第11回	ヴィハーラ活動としての寺院のあり方を考える（事例とディスカッション）						
第12回	寺院の時代的ニーズを探る（青少年活動、育英会活動、ボランティア活動等）						
第13回	寺院の時代的ニーズを探る（永代供養、葬儀の必要性）						
第14回	仏教福祉活動の実践（実際の活動を行う）						
第15回	まとめ（実際の活動報告と振り返り）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義回ごとに紹介する。事前に購入するものは無いが、『仏教社会福祉入門』（法蔵館）と『仏教社会福祉辞典』は頻繁に使用する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
楽しく授業に参加、ディスカッションを通して自分の意見や考えを持って毎回授業に望むこと。資料をよく読んで自分で考えること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元身延町教育委員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07172] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
就職支援							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
自分の夢や人生の目標を持って豊かなキャリアを築くための基礎をつくること、学生と社会人の違いを考えつつ、社会人として必要な知識や心構えを習得することを主な課題として、4年生の春から本格的にスタートする就職活動に向けて一足早く準備を始めます。また、電話対応のしかたを学びながら、社会で役立つ知識を習得していきます。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間自分自身について、将来について、考える時間を作ってください。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	スキル開発その1 ビジネス電話						
第2回	スキル開発その2 ビジネス電話						
第3回	スキル開発その3 ビジネス電話						
第4回	スキル開発その4 ビジネス電話						
第5回	スキル開発その5 ビジネス電話						
第6回	スキル開発その6 ビジネス電話						
第7回	なりたい自分になる 夢の叶えかた						
第8回	コミュニケーションの基本その1						
第9回	コミュニケーションの基本その2						
第10回	マナーの基本1						
第11回	マナーの基本2						
第12回	社会人としての心構えその1						
第13回	社会人としての心構えその2						
第14回	知っておきたい法律・規則						
第15回	総括（小論文）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義はプリントを配布します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
<b>【実務経験】</b>							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07173] キャリア教育						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
就職支援							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
全員が希望就職先で内定をもらうことを目的とします。就職面接試験は、あなたの人生を大きく左右するほどのとても大切な分岐点です。自己分析や企業研究のしかた、目的、効果を学ぶことで、あなたに合った就職先を見つけられるようになり、志望動機の書き方や自己アピールの作り方、履歴書の書き方などのコツを学ぶことで、自分の魅力をしっかり伝えられるようになり、また、面接やディスカッションのポイントやコツもお伝えしますので、面接で何を表現し、何を語ればよいのかが分かるようになります。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけではなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日10分間（1週間で70分）自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	就職活動のプロセス						
第2回	自己分析 1						
第3回	自己分析 2						
第4回	企業研究とマッチング						
第5回	志望動機						
第6回	自己アピール						
第7回	履歴書の書き方						
第8回	お礼状の書き方						
第9回	面接の種類と対策						
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ						
第11回	美しい姿勢とお辞儀のしかた / 面接の流れを確認する						
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える（理解する力・伝える力） 質疑応答例						
第13回	ディスカッション 1						
第14回	ディスカッション 2						
第15回	総括（小論文）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
毎講義時にプリントを配布します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
<b>【実務経験】</b>							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目				福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07174] デス・エデュケーション					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講 義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年		
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>						
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例を一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
講義毎のレポート100%。						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）					
第2回	宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に）					
第3回	倫理学（自由主義の原則）					
第4回	生殖医療の現状 1					
第5回	生殖医療の現状 2					
第6回	終末期医療の現状 1					
第7回	終末期医療の現状 2					
第8回	臨死体験のワーク					
第9回	日蓮聖人の終末期					
第10回	精神疾患について（自死、自殺）					
第11回	グリーンワーク					
第12回	傾聴					
第13回	終活、事前指示					
第14回	医療現場の宗教者					
第15回	ビハーラについて（長岡西病院ビハーラ病棟）					
<b>【教科書・参考書】</b>						
授業中に適宜、資料を配付する。参考図書：『宗教学』岸本英夫著・原書房、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著・講談社現代新書、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著・中公文庫、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著・NHK出版『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著・青海社、『病院で死ぬということ』山崎章郎著・文春文庫						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
積極的に授業に参加することを望む。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
授業の前後に教室にて対応します。						
<b>【実務経験】</b>						
腎臓内科医						

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07175] インターンシップの単位認定			
期間	通年（1回）	単位数	選択（2）	種類 実習
対象学年	--	2年	3年	4年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
社会的に通用するスキルが自分のものとなっているかどうかを確かめるため、また自身が在学中に身に付けた能力がしっかりと活かすことができているかを確かめつつ、有為な人材として成長しているという実感を得るための就労体験である。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
インターンシップ先は、担当教員と受講生の話し合いにより決定する。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修として、インターンシップ先の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについて纏め、担当教員に報告すること。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>			
<b>【教科書・参考書】</b>				
特になし。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
目的を持って授業に取り組むこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami@min.ac.jp）。				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員、身延町ふるさと創生委員				

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07176] インターンシップ			
期間	通年（4回）	単位数	選択（2）	種類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ	
	ikegami yosei			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	
	kimura chuichi			
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>				
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
就労体験と通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自の報告書により評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>			
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）			
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。			
第4回	事後の報告書作成と発表会			
<b>【教科書・参考書】</b>				
特になし。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
自分の将来を見据えて、なすべきことに対して、これまで培ったスキルがどのように役立つかを意識して事前学習を行い、実習に備えるようにしてください。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。 木村中一：火曜日4時限目、金曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
<b>【実務経験】</b>				
池上要靖：宗教法人智寂坊代表役員 木村中一：宗教法人法養寺代表役員				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		福祉・生涯学習関係科目		
講義名	[07177] インターンシップ				
期 間	通年（4回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	実習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
就労体験と通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、インターンシップの経験を踏まえて、自ら積極的な姿勢で就労することによって、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習として、インターンシップを希望する企業等の概要について調べておくこと(5時間程度)。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること(10時間程度)。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>(1) 一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>(2) 身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）				
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。				
第4回	事後の報告書作成と発表会。（1名15分程度）				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特になし。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
目的を持って授業に取り組むこと。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。 木村中一：火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
池上要靖：宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員 木村中一：宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07178] インターンシップ			
期間	通年（4回）	単位数	選択（2）	種類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	木村 中一	キムラ チュウイチ		kimura chuichi
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>				
<p>学生が自己の将来を見据え、その計画に反映される就労に関連する業種となる企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。</p> <p>キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計</p>				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
<p>就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、インターンシップの経験を踏まえて、自ら積極的な姿勢で就労することによって、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。</p>				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
<p>本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。</p>				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
<p>事前学習として、インターンシップを希望する企業等の概要について調べておくこと(5時間程度)。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること(10時間程度)。</p>				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
<p>受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書、および各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。</p>				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>(1) 一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>(2) 身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>			
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）			
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。			
第4回	事後の報告書作成と発表会。（1名15分間程度を予定している）			
<b>【教科書・参考書】</b>				
特になし。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
目的を持って授業に取り組むこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。 木村中一：火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
<b>【実務経験】</b>				
池上要靖：宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員 木村中一：宗教法人法養寺代表役員				

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		福祉・生涯学習関係科目	
講義名	[07179] インターンシップ			
期間	通年（4回）	単位数	選択（2）	種類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	木村 中一	キムラ チュウイチ		kimura chuichi
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>				
<p>学生が自己の将来を見据え、その計画に反映される就労に関連する業種となる企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。</p> <p>キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計</p>				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
<p>就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、インターンシップの経験を踏まえて、自ら積極的な姿勢で就労することによって、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。</p>				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
<p>本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。</p>				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
<p>事前学習として、インターンシップを希望する企業等の概要について調べておくこと(5～7時間程度)。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること(10時間程度)。</p>				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
<p>受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書、および各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。</p>				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>(1) 一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>(2) 身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>			
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）			
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。			
第4回	事後の報告書作成と発表会。（1名15分間程度を予定している）			
<b>【教科書・参考書】</b>				
特になし。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
目的を持って授業に取り組むこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。 木村中一：火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
<b>【実務経験】</b>				
池上要靖：宗教法人智寂坊代表役員 木村中一：宗教法人法養寺代表役員				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学科 開設科目	福祉・生涯学習関係科目

講義名	[07182] 発達心理学
-----	---------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

対人援助では、他者を理解する枠組みや理論などの根拠が求められます。その一つの視点として、本授業では人の受精から老年期までの発達の過程について考え、発達の基礎理解から対人援助につなげることを目指します。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

発達心理学は、人の受精から老年期までの生涯にわたる個人的発達について研究する学問である。この授業では、生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする。この授業を受講することで、人は生涯どのように発達し、そのプロセスにおいて心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退がどのように起こるのか、理解することが可能である。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

基本的には指定した教科書に載っている重要な事項について解説し、その内容について受講生が理解し、考えることができるような授業を行う。必要に応じて、ディスカッションも行う予定である。また、教科書に載っていないような日常の出来事や事例、映像資料等を紹介し、用語を身近なものとして理解できるようにする。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学習では、学んだ内容についてプリントやノートにまとめ、課された課題を行ってこること。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業内容確認テスト（40%）、小テスト（30%：10%×3回）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	オリエンテーション 発達するとはどういうことか・生涯発達の考え方
第2回	生命の芽生えから誕生まで
第3回	赤ちゃんがとらえる世界
第4回	乳児のコミュニケーションと人間関係の発達
第5回	愛着理論 愛着関係の成立と個人差 / 小テスト1
第6回	ことば遊びの発達
第7回	かかわりの中で育まれる自己
第8回	仲間の中での育ち
第9回	学童期の発達 学校での学び / 小テスト2
第10回	思春期・青年期の発達
第11回	大人になるために - 親になること働くこと
第12回	かかわりの中で成熟する
第13回	老いることと発達 人生を振り返る
第14回	発達におけるつまずきへの理解 / 小テスト3
第15回	まとめ：授業の振り返りとディスカッション

**【教科書・参考書】**

教科書：『問いからはじめる発達心理学 - 生涯にわたる育ちの科学』坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著（有斐閣ストゥディア）2014年、参考書：『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子・菅野幸恵・塚田城みちる著（新曜社）2004年、『実践・発達心理学第2版』青木紀久代編（みらい）2017年、そのほか、適宜授業中に紹介する。

**【学生へのメッセージ】**

発達心理学は生まれてから死に至るまでの人間の生涯発達を学ぶ学問です。他者理解のみならず、自己理解にも役立つ実践的な科目です。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学習して欲しいと思っています。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

**【オフィスアワー】**

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

**【実務経験】**

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学科 開設科目	福祉・生涯学習関係科目

講義名	[07183] 家庭教育
-----	--------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

家庭で子どもを教育する際の基礎知識の修得を目指す。また学生自身が子どもや保護者の支援方法の視点を培うことができるよう、具体的に説明をする。現代の家庭教育について子どもや家庭教育をめぐる諸問題について各回で取り上げ、受講生の理解を深める。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

この授業では、現代の家庭教育における諸問題について考察し、子どもの発達過程における家庭教育の役割やその方法について理解することを目的とする。授業を通じて、受講生は、家庭教育の現状と課題について理解するとともに、家庭で保護者がすぐにチャレンジできる知識や技術を習得できる。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

毎回テーマにそって講義を進める。内容によって、演習、ディスカッションも行う。授業の中では、家庭で子どもを教育する場合の知識や技術について具体的に紹介する。受講生同士アイデアを出し合い、できる限り多くの知識・技術を習得できるようにする。さらに、毎回学んだ内容をまとめることで定着を図る。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、予め次回テーマを伝えるので、それに関する情報収集等の予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、必ず取り組み、学んだことを整理すること。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業内容確認テスト（50%）、授業への取り組み（30%）、課題への取り組み（20%）により総合的に評価する。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	家庭教育とは？ / 現代の家庭教育における課題
第2回	子どもの発達と家庭教育（その1）
第3回	子どもの発達と家庭教育（その2）
第4回	遊ぶこととしつけ
第5回	しつけをバッドサイクルからグッドサイクルへ / 家庭教育のポイント
第6回	家庭教育がうまくいかなるとき
第7回	子どもの発達を促す日常生活の工夫
第8回	子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方（その1）
第9回	子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方（その2）
第10回	子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方（その1）
第11回	子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方（その2）
第12回	子どもがかかえる要因別運動スキルの身につけ方
第13回	子どもがかかえる要因別認知 / 学習スキルの身につけ方
第14回	子どもの問題行動への対応
第15回	まとめ：授業全体の振り返り

**【教科書・参考書】**

教科書：毎回プリントを配布する。参考書：『むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング』野口啓示著（明石書店）2009年、『家庭教育論』住田正樹著（放送大学教育振興会）2012年、『イラスト版 発達障害児の楽しくできる感覚統合 感覚とからだの発達をうながす生活の工夫と遊び』太田篤志著（合同出版）2013年、『発達に気になる子への生活動作の教え方』立石加奈子・中島そのみ著（中央法規）2013年、『発達に気になる子へのソーシャルスキルの教え方』立石加奈子・中島そのみ著（中央法規）2013年、そのほか適宜紹介する。

**【学生へのメッセージ】**

家庭での教育は、保育所、幼稚園、学校以外を除いた場合、子どもにとってもっとも重要な経験です。子育ての専門家として関わる場合には、子育て支援について知識と技術を必要とします。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

**【オフィスアワー】**

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

**【実務経験】**

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学科 開設科目	ゼミナール・卒業論文

講義名	[07842] 卒業論文（木村中一）				
-----	--------------------	--	--	--	--

期 間	通年（30回）	単 位 数	必修（8）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	--	4年
------	----	----	----	----

担当者	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi
-----	-------	-----------	----------------

**【授業の目的・ねらい／授業全体の内容の概要】**

本ゼミ（論文指導）は日本における仏教の歴史、特に日蓮教団史関係を中心に研究文献及び史料の講読、執筆指導を行う。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

主としては日蓮聖人、また日蓮教団史を主なテーマとするが他教団側の日蓮教団に対する史料もあわせて研究していきたい。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

史料などに対する疑問などを受講生全員で「共有し考える」ことを目的とする。タブレット端末を使用し、双方向授業を行う。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

事前に出題させる課題についての学習（120分以上）。受講後の理解の深めと応用方法学習（120分以上）。

随時指示された史料などを使用しノートの整理を行い、講義内容の理解を深めてもらいたい。

**【成績評価（方法・基準）】**

論文50％・口頭試問10％・積極的な取り組み姿勢40％

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	研究方法概観（その1）
第2回	研究方法概観（その2）
第3回	参考文献の使用法
第4回	参考文献の検索法
第5回	参考文献の精査
第6回	研究文献及び史料の図表化など
第7回	史料の作成法
第8回	史料の使用法
第9回	史料の講読確認
第10回	史料の講読確認
第11回	テーマの設定
第12回	研究文献及び史料について（受講生発表用意）
第13回	研究文献及び史料について（受講生発表用意）
第14回	研究文献及び史料について（発表）
第15回	卒業論文執筆
第16回	卒業論文執筆
第17回	卒業論文執筆
第18回	卒業論文執筆
第19回	卒業論文執筆
第20回	卒業論文執筆
第21回	卒業論文執筆
第22回	卒業論文執筆
第23回	卒業論文執筆
第24回	卒業論文執筆
第25回	卒業論文執筆
第26回	卒業論文執筆
第27回	卒業論文執筆
第28回	卒業論文執筆
第29回	卒業論文執筆
第30回	まとめ

**【教科書・参考書】**

随時指示する。

**【学生へのメッセージ】**

研究文献及び史料について、受講生が自ら選択したテーマ・史料について発表してもらうので問題意識をもって受講してもらいたい。

**【オフィスアワー】**

火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）

**【実務経験】**

宗教法人法養寺代表役員

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教実践科目		
講義名	[06852] 仏教実践						
期間	前期（15回）		単位数	選択（1）		種類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
	振屋 裕匡		フルヤ コウキョウ		furuya yukyo		
	古谷 晃淳		フルヤ コウジュン		furuya koujyun		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
現在までの檀林、門流の教育が受け継ぎ残された結果、法華經の読み方、読み癖について、多種多様あり、教育法も師子相承に任され、曖昧な点が多い。また読経上において、本宗の依經である法華經三部經というものが軽視されつつあるので、三部經の転読・読経実践につとめたい。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
本講義受講により、『妙法蓮華經』開結を含めた読誦が可能となることを目的とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
一々文々で繰り返し（オウム返し）にて、読経練習を行なう。できれば、法華經三部經の内、2巻は講読したい。講義の都合上、巻数等の前後があるので注意してほしい。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 事前学習（120分以上）：次回講義部分をあらかじめ読み、わからない箇所を確認しておく。 事後学習（120分以上）：読んだ部分を反復学習すること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
読経態度50%、授業への取り組み姿勢20%、修得度30%。 受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	五の巻 提婆達多品第十二の練習						
第2回	五の巻 勸持品第十三の練習						
第3回	五の巻 安樂行品第十四の練習						
第4回	五の巻 安樂行品第十四の練習						
第5回	五の巻 從地涌出品第十五の練習						
第6回	五の巻 從地涌出品第十五の練習						
第7回	六の巻 如来寿量品第十六の練習						
第8回	六の巻 分別功德品第十七の練習						
第9回	六の巻 分別功德品第十七の練習						
第10回	六の巻 隨喜功德品第十八の練習						
第11回	六の巻 法師功德品第十九の練習						
第12回	六の巻 法師功德品第十九の練習						
第13回	七の巻 常不輕菩薩品第二十の練習						
第14回	七の巻 如来神力品第二一の練習						
第15回	七の巻 囑累品第二 藥王菩薩本事品第二三の練習						
<b>【教科書・参考書】</b>							
三部經本 お経本に直接仮名振りして頂くので、仮名付きではなく仮名無し本を準備して下さい。お経本の種類は問いません。 お経品をお持ちでない方は、下記お経本の購入を推奨します。 堀之内妙法寺版・振屋昌光監修 『妙法蓮華經三部經』							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業ではお経本以外に筆記用具（特に赤鉛筆又は修正可能な赤ペン）持参のこと。僧侶としての最低ラインと認識し、今後絶対に必要なことであるので授業以外にも練習を繰り返し行なってほしい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木村中一：火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp） 振屋裕匡：授業の前後に教室にて受け付ける。 古谷晃淳：授業の前後に教室にて受け付ける。							

**【実務経験】**

木村中一：宗教法人法養寺代表役員

振屋裕匡：宗教法人長福寺副住職

古谷晃淳：宗教法人童仙寺副住職

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目				仏教実践科目	
講義名	[06853] 仏教実践					
期間	後期（15回）		単位数	選択（1）		種類 演習
対象学年	1年	2年	--	--		
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi	
	振屋 裕匡		フルヤ コウキョウ		furuya yukyo	
	古谷 晃淳		フルヤ コウジュン		furuya koujyun	
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>						
僧侶の基本「お経」というものの再認識と共に、法華経の読み（音義）、読み方、読み癖をこの授業により修得し、宗祖の五種法師の「読」「誦」の実践を行なってほしい。また、これを通じて法華経の読み（音義）、読み方読み癖について、宗門統一の道を見い出したい。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
本講義受講により、『妙法蓮華経』開結を含めた読誦が可能となることを目的とする。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
一々文々で繰り返し（オウム返し）にて、読経練習を行なう。講義の都合上、巻数等の前後があるので注意してほしい。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習（120分以上）：次回講義部分をあらかじめ読み、わからない箇所を確認しておく。事後学習（120分以上）：読んだ部分を反復学習すること。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
読経態度50%、授業への取り組み姿勢20%、修得度30%。受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	七の巻 薬王菩薩本事品第二三の練習					
第2回	七の巻 薬王菩薩本事品第二三・妙音菩薩品第二四の練習					
第3回	七の巻 妙音菩薩品第二四の練習					
第4回	八の巻 観世音菩薩品第二五の練習					
第5回	八の巻 観世音菩薩品第二五の練習					
第6回	八の巻 陀羅尼品第二六の練習					
第7回	八の巻 妙莊嚴王品第二七の練習					
第8回	八の巻 妙莊嚴王品第二七・普賢菩薩勸発品第二八の練習					
第9回	八の巻 普賢菩薩勸発品第二八の練習					
第10回	結経（一）					
第11回	結経（二）					
第12回	結経（三）					
第13回	結経（四）					
第14回	読経試験					
第15回	読経試験					
<b>【教科書・参考書】</b>						
三部経本 お経本に直接仮名振りして頂くので、仮名付きではなく仮名無し本を準備して下さい。お経本の種類は問いません。 お経品をお持ちでない方は、下記お経本の購入を推奨します。 堀之内妙法寺版・振屋昌光監修『妙法蓮華経三部経』						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
授業ではお経本以外に筆記用具（特に赤鉛筆又は修正可能な赤ペン）持参のこと。僧侶としての最低ラインと認識し、今後絶対に必要なことであるので授業以外にも練習を繰り返し行なってほしい。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
木村中一：火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp） 振屋裕匡：授業の前後に教室にて受け付ける。 古谷晃淳：授業の前後に教室にて受け付ける。						

**【実務経験】**

木村中一：宗教法人法養寺代表役員

振屋裕匡：宗教法人長福寺副住職

古谷晃淳：宗教法人童仙寺副住職

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目			仏教実践科目	
講義名	[06854] 仏教実践				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	村上 通明	ムラカミ ツウミョウ		murakami tsumyou	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
『宗定日蓮宗法要式』を用いてその理念を解説し、その内容を実習する。宗定7曲の声明を実唱し、その所作を実習する。法要に必要な法具の扱いや、鳴らし物の扱いを実習する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』に示される「法要とは三宝帰依の純一無雑なる信仰が最高度に具現化されたものでなければならない」との精神を理解した上で、法要儀式の基本を反復修練することによって、将来の本宗教師として依って立つ根幹を伝えたい。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式の理念を学ぶ。その理念に基づいて、大学の実習室及び身延山の堂宇を使用して、宗定声明七曲の誦唱法と所作等の習礼を行う。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分：受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学習120分：受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト20%、授業への取り組み姿勢80%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	「宗定日蓮宗法要式」の歴史と理念について・二大得意・音調と発声法				
第2回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第3回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第4回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第5回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（道場偈・三宝礼）・発声法				
第6回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（切散華・呪讃）・発声法				
第7回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（対揚）・発声法				
第8回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（三帰・奉送）・発声法				
第9回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（十正修）				
第10回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（十正修）				
第11回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（君拾補遺）				
第12回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（君拾補遺）				
第13回	「宗定日蓮宗法要式」第一編中の基本的法要次第による習礼・勸請文・回向文				
第14回	「宗定日蓮宗法要式」第一編中の基本的法要次第による習礼・朝昏礼誦式				
第15回	法要実習・まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『宗定日蓮宗法要式』、担当教員作成のプリント、参考書：宮崎英修編著「新編日蓮宗信行要典」平楽寺書店、CD日蓮宗声明、優陀那院日輝和上著「充治園禮誦儀記」、「日蓮宗事典」、「妙行日課」平楽寺書店、原文対訳「立正安国論」大東出版社。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。授業中に指示した各関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。そのため、受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週金曜日4時限目の授業の前後に教室で受け付ける。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗声明師会講師17年、信行道場の指導10年					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教実践科目	
講義名	[06855] 仏教実践			
期間	後期（15回）	単位数	選択（2）	種類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	丸茂 龍正	マルモ リュウショウ		marumo ryusho
	生駒 雅幸	イコマ マサユキ		ikoma masayuki
	山本 玄雄	ヤマモト ゲンユウ		yamamoto genyu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
僧侶として学ばなければならないことは多々あるが、日蓮宗の教師、寺院教会の住職・担任を志す者は、宗門の一員として、社会の一員として学ばなければならない事柄はさらに多岐にわたります。僧侶や寺院をはじめ宗教界全体をとりまく現状を概説し、寺院運営或いは儀式等の課題と将来の具体的な目標を持つことができるよう講義を行います。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本授業を受講することによって、僧侶や寺院をはじめ宗教界全体をとりまく現状を認識し、僧侶・宗教者としての視野を広げ、寺院運営或いは儀式等の課題と将来の具体的な目標を持つことができるようになります。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
様々な資料を使用し、宗教を取り巻く現状を認識し、総説的ガイダンスとともに、専門分野の先生を招き、効果的に授業を行い、理解を深めます。期末のレポートは、授業内容を踏まえた課題となりますので、よく集中して臨んでください。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。特に、事後の復習を行い、多岐にわたる授業内容をよく整理しておく必要があります。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み姿勢（40%）、学力確認テスト（60%）で、総合的に判断します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	ガイダンス			
第2回	宗教をとりまく環境（その1）			
第3回	宗教をとりまく環境（その2）			
第4回	宗教法人法と日蓮宗宗制概要（その1）			
第5回	宗教法人法と日蓮宗宗制概要（その2）			
第6回	宗教法人の税制と経理			
第7回	人権教育			
第8回	日蓮宗の現状と課題（その1）			
第9回	日蓮宗の現状と課題（その2）			
第10回	日蓮宗の教育制度（その1）			
第11回	日蓮宗の教育制度（その2）			
第12回	寺院運営の現状と課題（その1）			
第13回	寺院運営の現状と課題（その2）			
第14回	寺院運営のリスクマネジメント			
第15回	総括			
<b>【教科書・参考書】</b>				
参考文献：日蓮宗宗制、日蓮宗宗報、日蓮宗新聞				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
専門分野の先生による貴重な内容も含まれます。特に日蓮宗の僧侶を志す学生は受講することを強く勧めます。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業時間の前後に教室にて受け付けます				
<b>【実務経験】</b>				
丸茂龍正：宗教法人瑞泉寺代表役員 生駒雅幸：宗教法人安立院代表役員 山本玄雄：宗教法人妙蓮寺副住職				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教実践科目		
講義名	[06857] 仏教実践				
期間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho	
	松本 学亮	マツモト ガクギョウ		matsumoto gakugyou	
	今井 真行	イマイ シンギョウ		imai shingyo	
	深澤 恭徳	フカサワ キョウトク		fukasawa kyotoku	
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
3人の教員が担当し、言説布教6回、修法布教6回、海外布教3回実施し、日蓮宗の布教の理念と方法について講義を行う。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
授業中に講義した日蓮宗の布教方法について理解することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
3人の教員により授業を行う。修法布教6回、言説布教6回、海外布教3回とする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習は、あらかじめ指示された資料や文献を読んでおく。事後学習は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
各教員のレポート点（40%）、授業の折の提出物（30%）、授業態度（30%）					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	布教方法				
第2回	修法布教その1 「祈りと禱り」祈禱修法概説1				
第3回	修法布教その2 「祈りと禱り」祈禱修法概説2				
第4回	修法布教その3 日蓮宗の祈禱と歴史1				
第5回	修法布教その4 日蓮宗の祈禱と歴史1				
第6回	修法布教まとめ				
第7回	海外布教その1 自分の信ずる法華経の教えは世界に通用するか？ 自らが信ずる法華経は本当に世界に通用するものなのか？世界に普遍的な教えなのか？もしそうでなかったら一生を捧げる価値もない。でももしそうだったら、僧侶として意義ある一生が送れる。				
第8回	海外布教その2 世界に広まる南無妙法蓮華経（言語のバリアは空である） 創価学会が世界に広がり、その浅薄な物質主義が暴かれた時、人々は真の南無妙法蓮華経の模索を始めた。それは日蓮宗もカバーできないほどの勢いで…。世界中に広がる禅と題目の宗教を実感する。お経も今は真読・訓読と英読もあるのだ。				
第9回	海外布教その3 今後の日蓮宗国際布教の立ち位置 国際化する世界で以前とは違った布教形態で国際布教に挑み続ける日蓮宗の国際布教師の活動の実態と、将来の展開を読む。				
第10回	言説布教その1				
第11回	言説布教その2				
第12回	言説布教その3				
第13回	言説布教その4				
第14回	言説布教その5				
第15回	言説布教まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書、参考書はそれぞれの教員が最初の授業の折に示すことにする。修法布教：宮崎英修著『わかりやすい日蓮宗の御祈禱』鎌倉新書・日蓮宗事典。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
担当教員の都合により、授業が入れ替わる場合があるが、その際はわかった時点で受講生に連絡するので対応してもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
担当教員の授業開始前、終了後に質問等があれば教室で対応する。					

**【実務経験】**

望月真澄：日蓮宗僧侶の資格あり。

松本学亮：日蓮宗の修法師資格があり、寺院で布教活動を実践。

今井真行：海外布教の経験があり、現在も海外布教を実践。

深澤恭徳：日蓮宗布教師の資格があり、寺院で布教活動を実践。

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 開設科目		仏教実践科目	
講義名	[06858] 仏教実践			
期間	通年（15回）	単位数	選択（2）	種類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
	飯室 智光	イイムロ チコウ	iimuro chikou	
	浜島 典彦	ハマジマ テンゲン	hamajima tengen	
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>				
2人の教員により日蓮宗の布教方法に関する授業を行う。授業内容は、曼荼羅本尊書写7回、書写行（写経）6回、唱題行2回とする。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
曼荼羅本尊を書写し、書写行や唱題行の方法論等を学び、それぞれひとりで実践できるようになることを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
それぞれの教員に授業内容は任せてあるので、各担当教員の最初の授業で内容を示すことにする。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
各教員のレポート点（50%）、提出物（30%）、授業態度・姿勢（20%）で評価する。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	唱題行 その1 教理概説			
第2回	唱題行 その2 作法と実践			
第3回	書写行 その1			
第4回	書写行 その2			
第5回	書写行 その3			
第6回	書写行 その4			
第7回	書写行 その5			
第8回	曼荼羅本尊の書写 その1			
第9回	曼荼羅本尊の書写 その2			
第10回	曼荼羅本尊の書写 その3			
第11回	曼荼羅本尊の書写 その4			
第12回	曼荼羅本尊の書写 その5			
第13回	曼荼羅本尊の書写 その6			
第14回	曼荼羅本尊の書写 その7			
第15回	曼荼羅本尊の書写 まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
書写行では、『写経セット』小池英淳監修（日蓮宗新聞社）を使用する。購入希望者は後期授業開始前に学務に申し出ること。その他の参考書については、各担当教員の講義の折に紹介する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
担当教員の都合により授業日程を変更する可能性があるが、その際は事前に受講生に連絡するので対応してもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
担当教員が授業開始前、終了後に質問等を教室で受け付ける。				
<b>【実務経験】</b>				
望月真澄：日蓮宗教師の資格があり、寺院で布教活動を実践。 飯室智光：日蓮宗教師の資格があり、寺院で布教活動を実践。 浜島典彦：日蓮宗教師の資格があり、寺院で布教活動を実践。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目		博物館学芸員資格取得課程		
講義名	[09132] 博物館実習				
期 間	通年（14回）	単 位 数	選 択（3）	種 類	実習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ	hayashi zekyo	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
全国各地の登録博物館・博物館相当施設で、博物館学芸員としての業務を実際に体験してもらう。館務実習の内容及び期間は、実習館に任せる。随時、学外における実習も行う。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
学芸員として勤務できるようになることを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
博物館実習は、館務実習・学外実習を併せて合計14日間行うこと。本学が主催する学外実習は随時行うが、その際は掲示板にて案内する。館務実習の日数は、その館の事情に任せているのでそれに従うこと。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
実習の際には毎日事前学修120分と事後学修120分を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
本学で作成した実習評価表に基づき、実習館で評価してもらう。そして、本課程が実施する学外実習による評価を併せ、総合評価とする。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	学外実習 1				
第2回	学外実習 2				
第3回	学外実習 3				
第4回	学外実習 4				
第5回	学外実習 5				
第6回	学外実習 6				
第7回	学外実習 7				
第8回	館務実習 1				
第9回	館務実習 2				
第10回	館務実習 3				
第11回	館務実習 4				
第12回	館務実習 5				
第13回	館務実習 6				
第14回	館務実習 7				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：特になし。					
参考書：『博物館実習マニュアル』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(芙蓉書房出版)					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
館務実習や学外実習は時間厳守。出席重視なので遅刻・欠席をしないこと。学外実習が終わってから2週間以内に大学学務に実習録を提出し、指導教員の認印を受けること。春季・夏季中の実習は、休暇後に学校が始まってから2週間以内に実習録を提出すること。提出が遅いと実習録を受け付けません。よって実習録の提出期限を守ること。授業計画の覧に14回の回数を記してありますが、合計14日間ということで解釈してください。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
実習内容等に関して質問等があれば担当教員が教室や巡見場所に対応する。					
<b>【実務経験】</b>					
望月真澄：博物館学芸員として勤務経験あり。					
林是恭：博物館学芸員（身延山宝物館）として勤務している。					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目			博物館学芸員資格取得課程	
講義名	[09800] 博物館概論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
現在も多種多様な博物館が全国各地で誕生している。この博物館のあり方を考える場合、その館の性格や社会的機能を正確に把握することが必要である。授業では、博物館の定義から博物館の今日までの歴史をたどり、博物館が現代社会に果たしている役割についてみていくことにする。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
博物館とはどういう施設か理解することを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
生涯学習社会にあって、市民の学習ニーズが多様化、高度化しており、博物館への期待が高まるばかりである。これをとらえていくために、新しく開館した博物館を例にとり、その役割や活動内容についてみていきたい。電子機器を利用してアクティブラーニングの授業を行うので、授業中ipad等の電子機器を用意すること。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分：該当するテキストの部分を読んでおくこと。事後学修120分：授業で学習した主な用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト（70%）、授業に取り組む姿勢（30%）。学力確認テストはテキスト・ノート等持込不可。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	博物館で学ぶ内容				
第2回	博物館の定義				
第3回	博物館の目的				
第4回	博物館の種類				
第5回	博物館の分類				
第6回	博物館の組織と運営				
第7回	博物館学芸員の役割				
第8回	博物館の歴史 世界				
第9回	博物館の歴史 日本				
第10回	生涯学習と博物館				
第11回	地域社会と博物館				
第12回	文化財保護と博物館				
第13回	学校教育と博物館				
第14回	博物館関連法規				
第15回	総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）。参考書：『博物館体験』高橋順一訳（雄山閣）、『新しい地域博物館活動』村上義彦（雄山閣）。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
博物館学芸員資格を取得し、将来博物館関係の業務に携わることを希望する学生に受講してもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付ける。					
<b>【実務経験】</b>					
博物館学芸員として勤務経験あり。					

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目				博物館学芸員資格取得課程	
講義名	[09801] 博物館資料論					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講 義
対象学年	--	2年	3年	--		
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>						
博物館が担う役割として、資料の収集・整理・保存・展示・調査研究・教育普及活動といった活動があるが、その中で資料がどういう位置を占めているのか講義していく。特に、博物館資料の種類・分類・整理の方法について、寺院博物館資料を例に講義していきたい。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
博物館資料にはどのようなものがあるか把握できることを到達目標とする。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
広く博物館学を学ぼうとする学生を対象とするが、博物館学芸員として必要な知識を習得してもらうため、専門的かつ実務的な内容にするつもりである。電子機器を利用してアクティブラーニングの授業を行うので、授業中ipad等の電子機器を用意すること。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
事前学修120分：該当するテキストの部分を事前に読んでおくこと。事後学修120分：授業で学んだ主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
期末レポート（40%）、授業に取り組む姿勢（60%）によって評価する。						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	博物館資料とは					
第2回	博物館資料の種類（1）					
第3回	博物館資料の種類（2）					
第4回	博物館資料の種類（3）					
第5回	寺院博物館の資料（1）					
第6回	寺院博物館の資料（2）					
第7回	寺院博物館の資料（3）					
第8回	博物館資料の収集（1）					
第9回	博物館資料の収集（2）					
第10回	博物館資料の整理（1）					
第11回	博物館資料の整理（2）					
第12回	博物館資料の調査方法（1）					
第13回	博物館資料の調査方法（2）					
第14回	博物館資料の調査方法（3）					
第15回	総括					
<b>【教科書・参考書】</b>						
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修（日蓮宗新聞社）。参考書：『博物館技術学』青木豊（雄山閣）、『アーカイブズの科学』上・下、国文学研究資料館史料館編（柏書房）						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
博物館学芸員資格を取得し、将来博物館関係の業務に携わることを希望する学生に受講してもらいたい。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
授業の開始前、終了後に質問等があれば研究室、教室で対応する。						
<b>【実務経験】</b>						
博物館学芸員として勤務経験あり。						

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目			博物館学芸員資格取得課程	
講義名	[09802] 博物館情報・メディア論				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）	種 類 講 義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	海老沼 真治		エビヌマ シンジ		ebinuma shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
博物館では、収蔵資料に関する情報、学芸員による調査・研究によって得られた情報など、膨大な量の情報を取り扱います。こうした情報は、最終的には広く公開して社会に還元し、利用者に活用してもらうものですから、誰にでもわかりやすい形で記録し、発信される必要があります。この授業では、博物館における情報の集積・管理・活用や、博物館情報を活用するための様々なメディアに関する基礎知識について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
博物館において情報をいかに集積・管理するか、集められた情報をどのように公開するか、その場合にどのような媒体（メディア）を用いるか、発信にあたり留意するべき点は何か、などの課題について考えることを通して、受講者が博物館における情報・メディアの取り扱いについて理解を深めることを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
博物館情報・メディアに関する一般論的な講義とともに、様々な博物館の事例を取り上げ、受講者とともに考えていきます。授業中に、内容についての発言や小レポートの提出を求めることがあります。また、博物館の実地見学を行い、実際に博物館で行われている情報管理・発信の状況を説明することも予定しています。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習90分 テキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学習90分 配布したレジュメを読み直すとともに、紹介した博物館のウェブサイト等を確認する。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末レポート40%、授業への取組の姿勢60%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス、現代の博物館事情				
第2回	博物館における情報・メディアの意義（1）				
第3回	博物館における情報・メディアの意義（2）				
第4回	博物館情報の蓄積と管理				
第5回	博物館資料のデータベース化（1）				
第6回	博物館資料のデータベース化（2）				
第7回	博物館資料のデジタル化（デジタル・アーカイヴス）				
第8回	情報の公開（1）館内における情報公開				
第9回	情報の公開（2）インターネットによる情報公開				
第10回	情報の公開（3）情報の公開と保護				
第11回	博物館と知的財産				
第12回	博物館の情報をめぐる環境				
第13回	事例研究（1）山梨県立博物館における情報管理				
第14回	事例研究（2）山梨県立博物館における情報公開				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版 2012年2月）、基本的にはレジュメを配布して授業を進めます。参考書：大堀哲・水嶋英治編著『博物館学』（学文社、2012年11月）、日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年3月）、西岡貞一・篠田謙一『博物館情報・メディア論』（放送大学教育振興会、2013年3月）そのほか、講義の内容に応じて紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
実際に博物館の見学を行うので（事例研究1・2）、出席を重視します。博物館は時代の移り変わりとともに、その活動は常に変化していきます。授業だけでなく、実際に各地の博物館を見学し、どのような活動がなされているか考えることを心がけるようにしてください。現在では博物館も様々なメディアを用いて情報発信を行っています。ホームページだけでなく、フェイスブックやツイッターなど、様々な手段で博物館の情報を収集してみてください。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					

**【実務経験】**

山梨県立博物館学芸員（15年）。博物館での実際の業務や課題等も授業内容に反映します。

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目			博物館学芸員資格取得課程	
講義名	[09803] 博物館展示論				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	保坂 康夫		ホサカ ヤスオ		hosaka yasuo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
博物館展示論とは、博物館学の一分野である。展示は、学び体感しようとする主体が集う生涯学習の場である博物館の活動の根幹である。収集資料を調査研究し、新たに生み出した知識体系を示すのが展示であり、学芸員として最も腕が示される場面である。半面、資料収集の保存にとっては危険を伴う局面でもあるのが展示である。こうした展示を計画、実行、評価、改善するための必要不可欠な知識や認識について解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
学芸員資格を獲得するための必修科目である。見学者の展示について理解が着実に進み、収集資料にとって最適な展示を行う理論と方法を習得するとによって、実際に博物館事業を推進するための基盤を獲得することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義により、博物館展示の内容と方法を概説する。タブレットなどのICT機器を活用して、注目される博物館展示について検索、分析する。なお、より一層理解を深めるために具体的に、博物館の展示の実際を見学する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分、教科書をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分、教科書、配布資料を読み直し、ノートをまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力認識テスト60%、授業への取り組み姿勢（プレゼンテーションの内容など）40%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	展示の目的とその歴史				
第2回	展示資料の調査と収集				
第3回	展示の構想と企画				
第4回	展示の設計・施行				
第5回	展示と法令				
第6回	博物館展示の実際（博物館見学）				
第7回	展示の環境と設備、見学博物館についてのプレゼンテーション				
第8回	展示作業				
第9回	展示の照明と音響				
第10回	展示と解説・展示解説書の作成				
第11回	人文系の展示（ICT機器による検索調査）				
第12回	自然系の展示（ICT機器による検索調査）				
第13回	展示のあり方				
第14回	博物館展示の総合的検討				
第15回	博物館展示論のまとめと総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：「新時代の博物館学」（芙蓉書房出版）および配布資料。参考書：「博物館学」（学文社）、「博物館展示法」新版博物館学講座9（雄山閣）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
今求められている博物館の展示とはいかなるものか、実際の博物館展示はどのようなものがあるか、展示手法による見易さ、理解しやすさ、楽しさを考える。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
山梨県立考古博物館学芸課長6年。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目		博物館学芸員資格取得課程		
講義名	[09804] 博物館教育論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	保坂 康夫		ホサカ ヤスオ		hosaka yasuo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
博物館教育論は、博物館学の一分野で、社会教育施設としての博物館を認識するための授業である。人間の教育に対する考え方は常に変化しているが、基本的には学習しようとする主体性を引き出し、育てることが重要である。教育には学校教育と生涯学習とがあるが、博物館教育は両者にかかわり、学習の機会と素材とを提供し続けることが求められている。これらに対応可能な、博物館内外での活動についての理念と方法論を解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
学芸員資格を獲得するための必修科目である。博物館教育に必要な理念と方法論を身に付け、実際に博物館事業を推進するための基盤を獲得することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義により、博物館教育の内容と方法を概説する。タブレットなどのICT機器を利用して検索調査し、プレゼンテーションを行う。なお、より一層理解を深めるために具体的に、博物館の教育実践例を見学する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分、教科書をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分、教科書・配布資料を読み直し、ノートをまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力認識テスト60%、授業への取り組み姿勢（プレゼンテーションの内容など）40%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	博物館教育史				
第2回	世界水準の博物館教育				
第3回	学芸員の教育的役割				
第4回	ボランティアの養成				
第5回	博学連携と生涯学習				
第6回	展示と展示解説				
第7回	博物館見学				
第8回	ワークショップ、見学博物館のプレゼンテーション				
第9回	ハンズオンとアウトリーチ				
第10回	子どものための展示と歴史系博物館・科学館の実践例（ICT機器を利用した検索調査）				
第11回	子どものための展示の動物園・水族館の実践例（ICT機器を利用した検索調査）				
第12回	子どものための展覧（ICT機器を利用した検索調査）				
第13回	教育目標と計画、評価				
第14回	博物館教育論の課題・展望				
第15回	博物館教育論のまとめと総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：「新時代の博物館学」（芙蓉書房出版）および 配布資料。参考書：「博物館学」（学文社）。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
博物館学芸員にとって博物館教育とはどのようなものであるのか、とくに社会的要求にどのように応えるのかを、参加者や見学者の立場に立って考えてほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室で受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
山梨県立考古博物館学芸課長 6年。					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目				博物館学芸員資格取得課程		
講義名	[09805] 博物館経営論						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	海老沼 真治		エビヌマ シンジ		ebinuma shinji		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
近年、博物館を取り巻く環境は厳しく、予算の減少や人員削減、さらには閉館・休館など存立の危機に瀕している博物館も少なくありません。また近年では、「観光への寄与」や「稼ぐ」ことが過度に求められるなど、これまでとは異なる困難に直面している博物館も増えていると考えられます。このような状況の中で、その必要性が高まっているのが、博物館を運営する（ミュージアム・マネージメント）という視点です。ただし「経営」と言っても、入館者数や収入を増やすということを主眼としているわけではありません。この授業では、博物館は誰のためにあるのか、何を目指しているのか、社会や地域にどのように貢献するのか、そのためにはどのような組織で、どのような事業を展開すればよいか、そうした博物館の活動をいかに評価するか、といった博物館経営に必要な論点を概説します。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
博物館経営に関連する今日的課題と経営上の基礎的な知識を習得するとともに、博物館が抱える課題を解決するためにどのように取り組むかを考え、実践できる能力を養うことを目標とします。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
博物館経営に関する一般論的な講義とともに、様々な博物館の事例から、各地の博物館で実際に展開されている経営のあり方について、受講者とともに考えていきます。授業中に、内容についての発言や小レポートの提出を求めることがあります。また博物館の実地見学も行う予定です。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習90分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習90分：テキスト・レジュメを読み直すとともに、授業で紹介した博物館のウェブサイト等を確認し、現在の状況を把握する。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
期末レポート40%、授業への取組の姿勢60%							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス、現代の博物館事情						
第2回	博物館経営（ミュージアム・マネージメント）の意義（1）						
第3回	博物館経営（ミュージアム・マネージメント）の意義（2）						
第4回	博物館の法・制度、博物館行政						
第5回	博物館の経営形態（1）						
第6回	博物館の経営形態（2）						
第7回	博物館施設の運営と管理						
第8回	博物館の組織						
第9回	博物館の使命と評価（1）						
第10回	博物館の使命と評価（2）						
第11回	博物館の広報・営業						
第12回	博物館と社会連携・ネットワーク						
第13回	事例研究（1）山梨県立博物館の施設・組織と経営						
第14回	事例研究（2）山梨県立博物館における評価のあり方						
第15回	博物館経営の実際と課題・まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
テキスト：全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版 2012年2月）、基本的にはレジュメを配布して授業を進めます。参考書：大堀哲・水嶋英治編著『博物館学』（学文社、2012年11月）、佐々木亨・亀井修著『博物館経営論』（放送大学教材、2013年3月）、P.F.ドラッガー著、上田惇生・田代正美訳『非営利組織の経営』（ダイヤモンド社、1991年7月）、岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』（人文書院、2020年2月）、そのほか、講義の内容に応じて紹介します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
実際に博物館の見学を行うので（事例研究1・2）、出席を重視します。博物館は時代の移り変わりとともに、その活動は常に変化していきます。授業だけでなく、実際に各地の博物館を見学し、どのような活動がなされているか考えることを心がけるようにしてください。とくに博物館経営では、現在の社会・経済の状況がその活動に反映される場合がありますので、時事問題にも関心を寄せ、博物館とどのような関わりがありそうかも考えてみてください。							

**【オフィスアワー】**

毎週授業の前後に教室にて受け付けます。

**【実務経験】**

山梨県立博物館学芸員（15年）。博物館での実際の業務や課題等も授業内容に反映します。

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目		博物館学芸員資格取得課程		
講義名	[09806] 博物館資料保存論				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
博物館資料の理念として、保存と活用によって国民の文化的向上と世界文化の進歩に貢献することが謳われている。よって、資料保存の基本理念から、博物館で行われている資料保存の実態やその具体的方法等について講義していく。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
到達目標 博物館における資料保存の必要性について理解できるようにする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業は、実際の寺院資料をもとに、保存について考える形の授業とする。電子機器を利用してアクティブラーニングの授業を行うので、授業中ipad等の電子機器を用意すること。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分 該当するテキストの部分を読んでおくこと。事後学修120分 授業で学習した主な用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学習レポート30%、授業に取り組む姿勢70%によって評価する。学外の資料を見学する場合があるが、その際は事前に連絡する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	資料保存の意義				
第2回	資料保存の目的				
第3回	資料の保存と修復（1）				
第4回	資料の保存と修復（2）				
第5回	資料の保存と修復（3）				
第6回	資料の保存と環境（1）				
第7回	資料の保存と環境（2）				
第8回	資料の保存と環境（3）				
第9回	資料保存の実態（1）				
第10回	資料保存の実態（2）				
第11回	学外資料見学（1）				
第12回	学外資料見学（2）				
第13回	学外資料見学（3）				
第14回	学外資料見学（4）				
第15回	全体のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(芙蓉書房出版)					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
「博物館概論」「博物館資料論」取得後に受講してもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の開始前、終了後に質問等があれば研究室、教室で対応する。					
<b>【実務経験】</b>					
博物館学芸員として勤務経験がある。					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目		その他	
講義名	[09134] 社会教育主事実習			
期間	通年（1回）	単位数	選択（2）	種類 実習
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
社会教育主事の職務を身延町の社会教育施設に置いて学びます。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
社会教育主事の実務実践及び諸問題を学ぶために、身延町役場及び身延町教育委員会において、社会教育主事として業務の一部を実習又は補助参加をおこないます。身延町役場及び身延町教育委員会においての実習 1 週間。身延町役場及び身延町教育委員会の主催する行事の補助 1 週間。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
実習内容に関しては、身延町役場及び教育委員会に一任します。実施期間は10月の下旬となっています。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習は、指導担当職員から指示された課題を必ず行っておくこと。事後学習は、一日を振り返りながら実習日誌をまとめ、指導担当職員の点検を受けること。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
実習先の評価と実習記録の記入内容とを総合的に勘案して行います。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	実習			
<b>【教科書・参考書】</b>				
実習なのでテキストや参考文献は掲載しません。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
実習中は社会教育主事として業務を実施しますので、社会人としての自覚をもって実習に臨んでください。また、指導担当者の指導及び留意事項は必ず守ってください。なお、実習中の遅刻・早退及び欠席は認められません。学務課が主催する諸資格ガイダンス及び掲示板等で指示されるガイダンスには、必ず参加してください。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目				その他
講義名	[09820] 生涯学習概論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
生涯学習という概念が社会で位置付けられるようになった経緯と社会的背景、生涯学習と生涯教育の関係、生涯学習と学校教育・家庭教育・社会教育の関係、生涯学習の施策、関係する法令について解説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
生涯学習という概念が社会で位置付けられるようになった経緯と社会的背景、またそれに対応する国や地方自治体の生涯学習政策について学びます。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中の小テストや課題など60%、学期末試験40%により総合的に評価します。 受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	対話的討論：「生涯学習とは何を指すのか」				
第2回	ポール・ラングラン（Paul Lengrand）の永久教育論（&#201;ducation permanente）				
第3回	波多野完治の解釈 生涯教育から生涯学習へ				
第4回	OECDの「リカレント教育 - 生涯学習のための戦略 - 」1973年				
第5回	土光敏夫と「新しい産業社会における人間形成 長期的観点から見た教育のあり方に関する長期専門委員会」の考え				
第6回	中央教育審議会など国の審議会答申における生涯学習				
第7回	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律（生涯学習振興法、1990年）の内容				
第8回	臨時教育審議会答申に示された「生涯学習体系への移行」				
第9回	国や地方自治体の生涯学習政策				
第10回	家庭教育、学校教育、社会教育の役割と連携				
第11回	「生涯学習に関する世論調査」の推移				
第12回	生涯学習施設				
第13回	生涯学習を支援する専門職とその養成				
第14回	海外の生涯学習の動向				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義の中で適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
試験は、自筆の講義ノートの持ち込みを可としますが、板書された内容を書き写すだけでは答えることができない問題です。板書された内容を理解するために自分の言葉や記号で関係性を書き込むことが大切になります。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目				その他
講義名	[09821] 生涯学習概論				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
生涯学習として学ぶ現代的課題を参加型学習形式や模擬授業として行います。また、地域課題解決の協働活動、まちづくり・地域活性化策としての生涯学習について具体的な事例をあげて解説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
生涯にわたって学習することの意味、生涯学習の現代的課題、国や地方自治体の生涯学習政策、国内外における生涯学習論の系譜などの側面から、生涯学習の方法論について理解します。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	生涯にわたって学習することの意味				
第2回	身近で日常的な生涯学習				
第3回	生涯学習施設で行われている「コト学習」				
第4回	生涯学習の方法論と支援する人材の資質・能力				
第5回	生涯学習としての地域学：掛川の「とはなにか学舎」				
第6回	現代的課題とは何か「三化け」「七化け」「新三化け」				
第7回	高齢化：高齢化社会、高齢社会、超高齢社会				
第8回	少子化の何が問題なのか				
第9回	男女共同参画化とM型社会				
第10回	地域課題解決の協働活動としての生涯学習				
第11回	まちづくり・地域活性化策としての生涯学習				
第12回	開かれた学校から学社連携・学社融合への移り変わり				
第13回	まなびネットとキャンパスネットワークシステム				
第14回	放送大学、市民大学、シニア大学				
第15回	総括発表 振り返りとシェアリング				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義の中で適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけのノートにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目				その他
講義名	[09822] 社会教育計画				
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
我が国における社会教育の経緯、方法、内容について学びます。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
随時参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)				
第2回	生涯学習推進行政と社会教育行政				
第3回	社会教育の意義と内容				
第4回	社会教育の方法・形態				
第5回	公民館とは				
第6回	図書館とは				
第7回	博物館とは				
第8回	コミュニケーション・スキル				
第9回	ワークショップの技法				
第10回	集団思考法、組織心理学				
第11回	コーディネーター、ファシリテーター、アドミニストレーター、インタープリター、アドバイザー、アセッサー				
第12回	プランニング				
第13回	プレゼンテーション				
第14回	ワークショップの計画				
第15回	ワークショップの実際				
<b>【教科書・参考書】</b>					
栗田真司『子どもの心を育てるコミュニケーション』学術研究出版、2017年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
試験は、自筆の講義ノートの持ち込みを可としますが、板書された内容を書き写すだけでは答えることができない問題です。板書された内容を理解するために自分の言葉や記号で関係性を書き込むことが大切になります。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目				その他
講義名	[09823] 社会教育計画				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
社会教育と生涯学習の関係、生涯学習と学校教育・家庭教育・社会教育の関係、社会教育政策の系譜などの側面から、社会教育の基本的な考え方や方法論について学びます。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中の小テストや課題など60%、学期末試験40%により総合的に評価します。受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	社会教育の方法				
第2回	社会教育と学校教育の関係				
第3回	アメリカとヨーロッパと日本の社会教育財政事情				
第4回	学習成果の活用方法・評価方法				
第5回	教育普及活動				
第6回	アドミニストレーター、インタープリター、ファシリテータ				
第7回	ワークシートの要点				
第8回	NPOの役割 アソシアシオン法				
第9回	市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP				
第10回	アウトリーチの歴史と方法				
第11回	ハンズ・オンとプリーズタッチ				
第12回	リピーターへの視点				
第13回	ボランティアの養成				
第14回	指定管理者制度				
第15回	総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義の中で適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
社会教育計画1を履修済みであることが望ましいです。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目				その他
講義名	[09826] 社会教育課題研究				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育主事としての職務内容と関わる地域づくりやまちづくり、公民館での学習講座づくりなどを実践的に学びます。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学習120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション。社会教育の意義				
第2回	成人の学習の国際的展開				
第3回	日本における社会教育活動の展開（1）				
第4回	日本における社会教育活動の展開（2）				
第5回	生涯教育と生涯学習				
第6回	地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中				
第7回	地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院				
第8回	地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島				
第9回	地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春				
第10回	地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠				
第11回	地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立				
第12回	地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット				
第13回	地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護				
第14回	地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特定のテキストは使用しないが、参考文献を挙げておく。佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結ぶ』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目				その他
講義名	[09827] 社会教育課題研究				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育主事になるために必要な地域づくり、まちづくりの事例、公民館での企画案作成について、実践的に学びます。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日的課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学習120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	現代青年の文化活動（1）				
第2回	現代青年の文化活動（2）				
第3回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（1）				
第4回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（2）				
第5回	子育て・文化協同（1）				
第6回	子育て・文化協同（2）				
第7回	環境問題に取り組む市民（1）				
第8回	環境問題に取り組む市民（2）				
第9回	人権学習（1）				
第10回	人権学習（2）				
第11回	ボランティア活動（1）				
第12回	ボランティア活動（2）				
第13回	青年の自立支援（1）				
第14回	青年の自立支援（2）				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特定のテキストは使用しないが、参考文献をあげておく。佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結ぶ』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教学科 資格取得に関する科目	その他

講義名	[09929] 視聴覚教育メディア論
-----	--------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そとで実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

**【成績評価（方法・基準）】**

(1) レポート(30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解)、(2) 授業中・事前・事後小レポート(40%：上記項目1と同じ)、(3) 授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献(30%)

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習. 秋田喜代美・キャサリン ルイス. 明石書店. 2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態. 日本教育方法学会. 学文社. 2009年。授業研究と学習過程. 秋田喜代美. 放送大学教育振興会. 2010年。授業研究と教育学. 教育学選書 第6巻. 水越敏行他. ミネルヴァ書房. 2012年。教育の方法と技術. 平沢茂 編著. 図書文化社. 2014年。幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領, 特別支援学校学習指導要領。

**【学生へのメッセージ】**

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点, 改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。

**【オフィスアワー】**

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

**【実務経験】**

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。